

診療のご案内

2019
INFORMATION



 Kumamoto University

熊本大学病院

Kumamoto University Hospital

病院長挨拶

熊本大学病院長
谷原 秀信



皆様には、常日頃より、熊本大学病院へのご支援を賜りますことに、心よりお礼申し上げます。本院の理念は、「本院は、高度な医療安全管理によって、患者本位の医療を実践し、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する」というものです。患者様本位の医療にとって大前提となる基盤は、患者様の安全と安心を第一とする高度な医療安全管理体制であると考えております。その前提を踏まえた上で、本院は、熊本県で唯一の特定機能病院であり、唯一の医育機関として、重要な役割を地域で担ってきました。本院は、地域医療において、「最後の砦」としてきわめて重要な存在であると考えております。

現在、我が国においては、急速に進む少子超高齢化や国の財政状況などを背景として、医療・介護が大きな変革期を迎えています。団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、財政的にも制度的にも持続可能な医療・介護サービス提供体制の再構築が大きな課題となっております。病院の機能分化と連携強化をキーワードとして、地域医療構想の策定や地域包括ケアシステムの構築などをはじめとした様々な施策が進められている中で、本院は、地域医療の中核拠点としてお役に立ち続けたいと願っております。そのため本院は、今後も引き続き、地域の医療機関との緊密なネットワークの強化に努めるとともに、高度急性期医療の提供に向けた診療基盤と病院機能のさらなる向上を図り、日進月歩で進む最先端の医療を追求していきたいと考えています。また専門的知識・技能と高い倫理観を備えた優れた医療人の育成、次世代の医療を切り開く先進医療の開発・推進、地域医療の充実に対して、従来以上の情熱を以て、積極的に貢献していきたいと考えております。

この2019年版熊本大学病院「診療のご案内」では、例年通り、各診療科・部門の特徴的な取り組み、スタッフ、外来診療日などが紹介されています。今後も、全職員が「患者本位の医療を実践し、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する」という本院の理念を共有し、診療・教育・研究の拠点として社会に貢献すべく、一層努力をしまいたいと思います。

我々が、本院の理念を踏まえ、本院を信頼してくださる患者様とご家族の皆様に対して、安心・安全に「患者様本位の医療」を実践し続けるためには、医師、看護師、医療技師、事務員、そして多様なコメディカルが互いに協力し、助け合い、理念を共有することが大事だと考えています。私は、本院が診療、研究、教育のすべてにおいて、オール熊本の地域連携を基盤として、本院と熊本県、市町村、医師会、連携病院との緊密な協力関係を深めながら、地域に貢献したいと考えております。今後とも、皆様から一層のご支援とご信頼を勝ち得ることができるよう、本院職員一同、最善を尽くす所存です。よろしくお願い申し上げます。

本院の理念と方針 及び患者さんの権利と責務

理 念

本院は、高度な医療安全管理によって、患者本位の医療を実践し、
医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

方 針

- ・ 高度な医療安全管理体制による安全安心で質の高い医療サービスの提供
- ・ 患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
- ・ 先進医療の開発・推進と優れた医療人の育成
- ・ 地域社会に貢献できる医療・防災の拠点形成

患者さんの権利

- ・ 個人の尊厳と意向が尊重されます。
- ・ 良質な医療を公平に受ける権利があります。
- ・ 十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
- ・ 自分の意思で医療を選ぶことができます。
- ・ プライバシーや個人情報保護されます。

患者さんの責務

- ・ 自分の健康状態について正確に伝えてください。
- ・ 治療に積極的に参画してください。
- ・ 社会のルール、本院の規則を守ってください。
- ・ 迷惑行為を行わないでください。
- ・ 医療費を遅滞なく支払ってください。

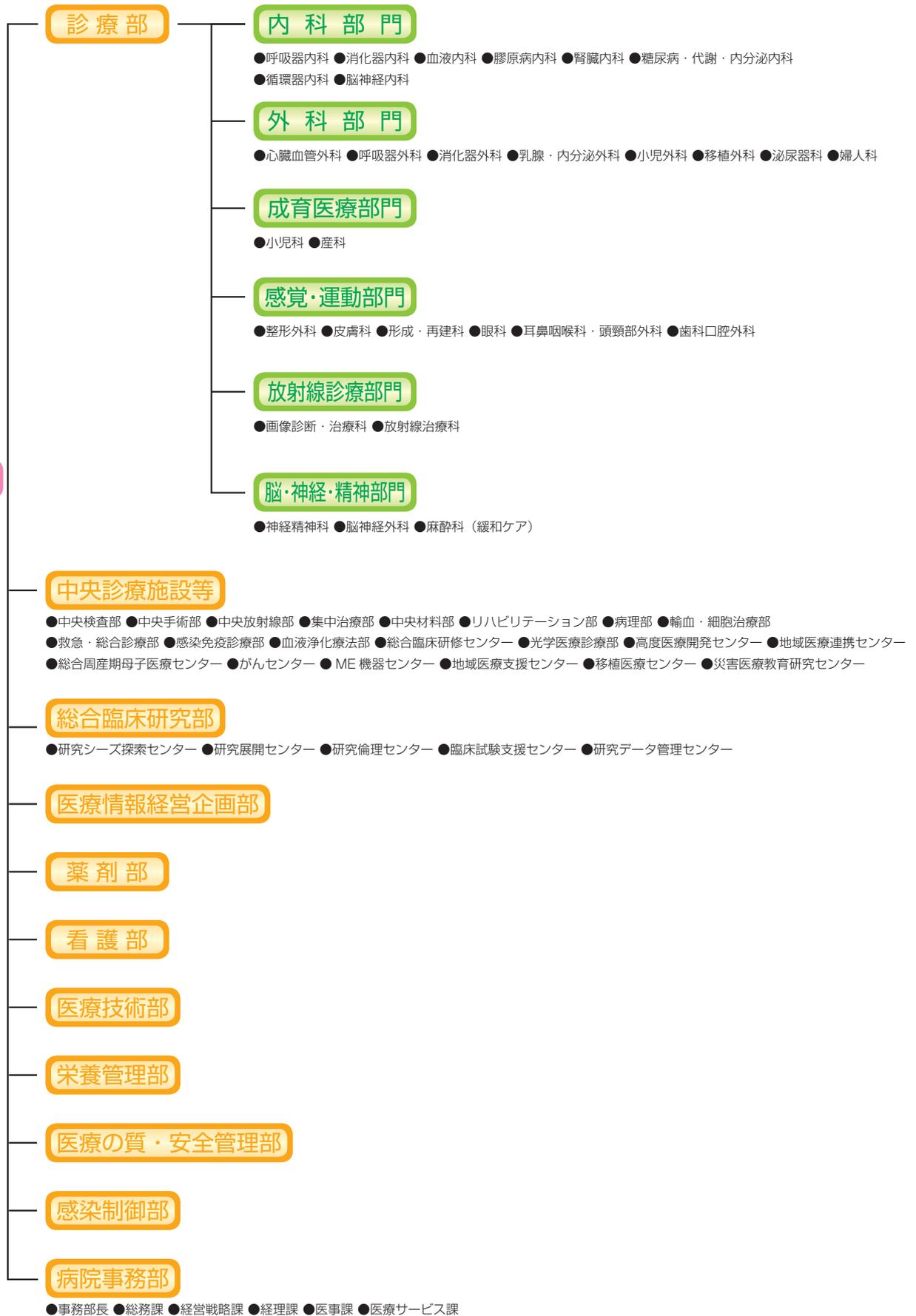
2019年4月1日

目次

病院長挨拶		脳神経外科	67
病院の理念・医療方針		麻酔科・緩和ケア	69
診療体制	1	病理診断科（病理部）	71
沿革	2	中央診療施設等	
外来受付・受診の流れ	3	中央検査部	72
外来診療のご案内	4	中央手術部	73
病院外来診療棟案内図	8	中央放射線部	74
中央診療棟案内図	10	集中治療部	75
地域医療連携センター	11	救急外来（救急・総合診療部）	76
がんセンター	13	中央材料部	76
学会認定研修施設等一覧	15	リハビリテーション科 （リハビリテーション部）	77
診療科		病理部	78
総合診療科	17	輸血・細胞治療部	79
呼吸器内科	18	感染免疫診療部	80
消化器内科	20	血液浄化療法部	81
血液内科	22	総合臨床研修センター	82
膠原病内科	24	光学医療診療部	83
腎臓内科	26	高度医療開発センター	84
糖尿病・代謝・内分泌内科	28	総合周産期母子医療センター	86
循環器内科	30	ME 機器センター	87
脳神経内科	33	地域医療支援センター	88
心臓血管外科	35	移植医療センター	89
呼吸器外科	36	災害医療教育研究センター	89
消化器外科	38	総合臨床研究部	90
乳腺・内分泌外科	40	臨床試験支援センター	91
小児外科	41	医療情報経営企画部	92
移植外科	42	看護部	93
泌尿器科	43	薬剤部	95
婦人科	45	医療の質・安全管理部	96
小児科	47	感染制御部	97
産科	49	医療技術部	98
整形外科	51	栄養管理部	99
皮膚科	53	先進医療	100
形成・再建科	55	ドック・検診のススメ	103
眼科	56	セカンドオピニオン外来のご案内	104
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	58	緩和ケアのご案内	106
歯科口腔外科	60	禁煙外来のご案内	108
画像診断・治療科	62	検査カフェ	110
放射線治療科	64	検査カフェのメニュー	111
神経精神科	65		

診療体制

熊本大学病院

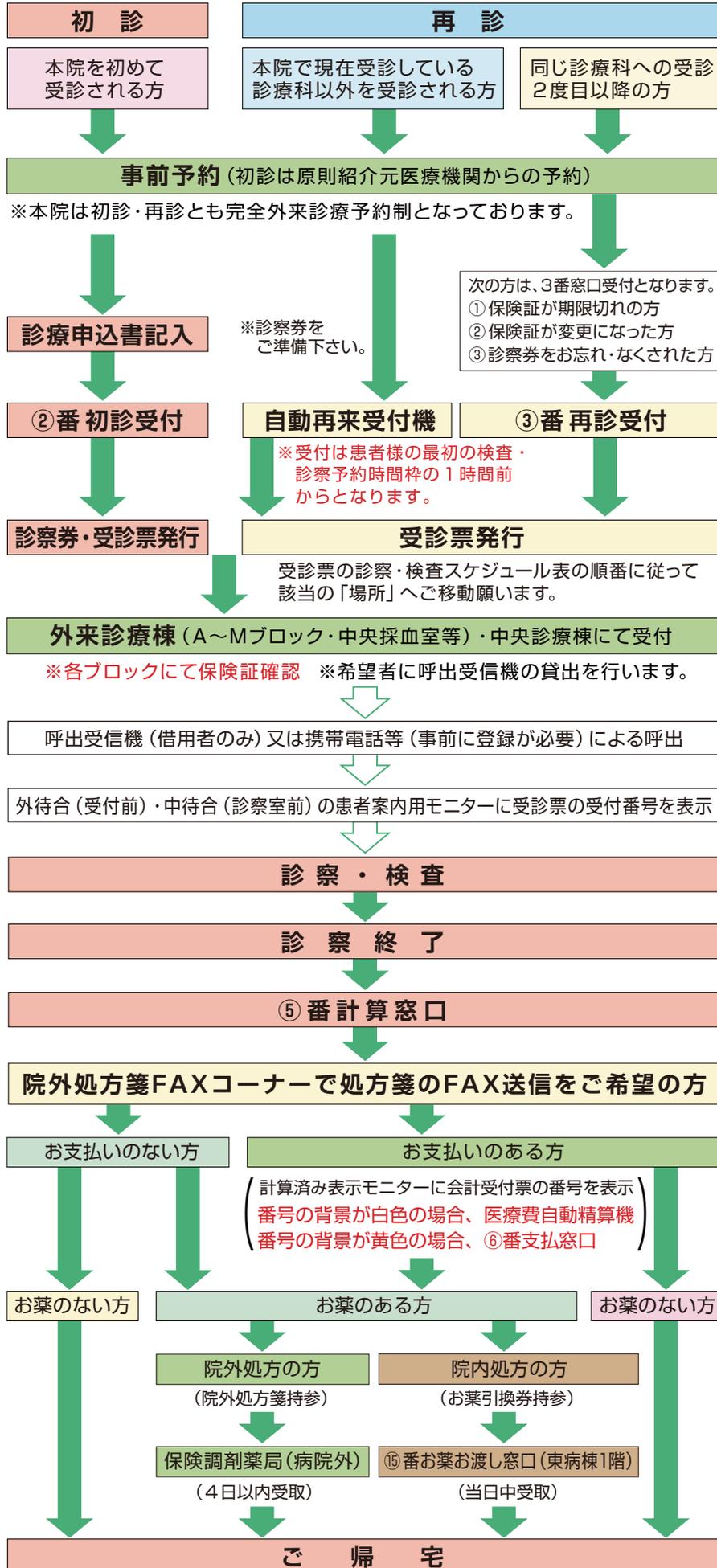


沿革

宝暦6	1756	藩主細川重賢侯が再春館を建てた
明治3	1870	藩立病院が創立された
明治4	1871	藩立医学所創立、廃藩により官立医学校兼病院と改称した
明治8	1875	医学校は廃止され、病院は下通町に移り通町病院と称した
明治10	1877	西南の役の兵火にかかり、病院は本山に移り、北岡に仮病院を開いた
明治11	1878	病院を手取本町に建築、県立医学校として再興した
明治15	1882	病院は医学校の附属となった
明治21	1888	県立医学校は廃止となり、病院は独立したが、翌年廃止され病院の機械器具一式個人に貸与され、私立熊本病院として経営され春雨齋と称した
明治24	1891	私立九州学院医学部が設立された
明治29	1896	私立九州学院医学部が廃止され、私立熊本医学校が設立された
明治34	1901	病院は本荘町に移転した
明治37	1904	専門学校令による私立医学専門学校と認定された
大正10	1921	県に移管されて、熊本県立医学専門学校と改称され、県立病院もまた附属病院となった
大正11	1922	熊本医科大学及び予科が設立された
大正13	1924	専門学校附属病院は大学附属病院と改称した
昭和 4	1929	官立として熊本医科大学が創立され、同附属病院と称した
昭和20	1945	戦禍を蒙り一部病棟を藤崎台陸軍病院跡に移転し藤崎台分室と称した
昭和24	1949	私立学校設置法により、熊本大学医学部附属病院と称した
昭和27	1952	成人科（体研）が設置された（昭和27年4月診療開始）
昭和29	1954	整形外科が設置された（昭和29年5月診療開始）
昭和35	1960	歯科が設置された（昭和36年3月診療開始）
昭和36	1961	藤崎台分室を島崎町済生会病院に移転し、段山分室と改称した 皮膚泌尿器科は皮膚科と泌尿器科に分離した 段山分室は廃止し、本荘地区に合併した
昭和39	1964	中央検査部並びに中央手術部が設置された
昭和40	1965	小児科（体研）が設置された（昭和40年8月診療開始）
昭和41	1966	麻酔科が設置された（昭和42年3月診療開始）中央材料部が設置された
昭和42	1967	第3内科が設置された（昭和43年2月診療開始）中央放射線部が設置された
昭和43	1968	分娩部が設置された
昭和44	1969	脳神経外科が設置された（昭和44年6月診療開始）
昭和47	1972	集中治療部が設置された
昭和48	1973	理学療法部が設置された
昭和49	1974	病理部が設置された
昭和53	1978	救急部が設置された
昭和55	1980	輸血部が設置された
昭和58	1983	循環器内科が設置された（昭和59年2月診療開始）
昭和59	1984	体質医学研究所の改組に伴い、成人科（体研）は代謝内科に、小児科（体研）は発達小児科となった
昭和63	1988	MRI-CT装置棟（S1 486㎡）が竣工
平成元	1989	設備管理棟（R2 780㎡）が竣工
平成3	1991	小児外科が設置された（平成4年3月診療開始）
平成6	1994	特定機能病院として承認された
平成7	1995	神経内科が設置された（平成7年12月診療開始）
平成10	1998	総合診療部が設置された
平成11	1999	医療情報部、治験支援センターが設置された
平成12	2000	感染免疫診療部が設置された
平成14	2002	地域医療連携センターが設置された（平成12年12月） 血液浄化療法部、医療安全管理部が設置された。医療情報部を改組し、医療情報経営企画部が設置された。西病棟（SR12-1 24,547㎡）が竣工
平成15	2003	国際標準ISO9001認証取得した（平成15年3月19日）
平成16	2004	総合臨床研修センターが設置された 診療科の再編を行い、6診療部門31診療科に改められた こころの診療科が設置された（平成16年5月診療開始）
平成17	2005	周産母子センターが設置された
平成18	2006	産科・不妊科は産科となった（平成18年6月1日） 医療技術部、外来化学療法センター、がん診療センター及びME機器センターが設置された 厚生労働大臣から都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受けた（平成18年8月24日） 中央診療棟（SRC7-1 23,790.80㎡）が竣工（ヘリポート設置）
平成19	2007	理学療法部はリハビリテーション部、放射線診断科は画像診断・治療科、輸血部は輸血・細胞治療部となった 分娩部は周産母子センターへ統合された
平成21	2009	地域医療支援センターが設置された（平成21年1月1日） がん診療センターをがんセンターへ改組し、外来化学療法センターを外来化学療法室と改名しがんセンター内へ統合した（平成21年5月1日） 日本医療機能評価機構認証取得した（平成21年6月5日） 医療の質管理センターが設置された（平成21年10月1日）
平成22	2010	救急部及び総合診療部を統合し、救急・総合診療部となった（平成22年4月1日） 先端医療支援センターは高度医療開発センターとなった（平成22年4月1日）
平成23	2011	東病棟（SR12-1 19,718㎡）が竣工 移植医療センターが設置された（平成23年4月1日） こころの診療科は神経精神科に統合、廃止された（平成23年4月1日） 熊本県からの総合周産期母子医療センターの指定（平成23年3月22日付け）に伴い、周産母子センターを総合周産期母子医療センターと改称した（平成23年4月13日）
平成24	2012	栄養管理部が設置された（平成24年5月1日）
平成25	2013	院内保育所を新設した（平成25年5月1日）
平成26	2014	発達小児科と小児科を統合し、診療科名を小児科とした。外来診療棟（S4 11,861㎡）が竣工 がんセンターに緩和ケアセンターを設置し、外来化学療法室、がん相談支援室、がん登録室を、外来化学療法センター、がん相談支援センター、がん登録センターと改称した。（平成26年9月17日） 総合臨床研究部が設置された（平成26年10月1日）
平成27	2015	代謝・内分泌内科は糖尿病・代謝・内分泌内科と改称した。（平成27年4月1日）
平成28	2016	感染対策室は感染制御部（平成28年4月1日）に改組された
平成29	2017	医療安全管理部及び医療の質管理センターを統合し、医療の質・安全管理部（平成29年4月1日）となった
平成30	2018	神経内科は脳神経内科（平成30年9月1日）に名称変更された
平成31	2019	医学部附属から大学附属となり、熊本大学病院に名称変更された（平成31年4月1日）

外来受付・受診の流れ

※外来診療棟では「患者案内システム」を導入しております。



外来診療のご案内

熊本大学病院 平成31年4月1日現在

初診 受付時間 午前8時30分～午前11時

再診 受付時間 午前8時30分（再来受付機：8時15分）～午後5時15分

休診日 土曜日、日曜日、祝日、振替休日、年末年始（12月29日～1月3日）

診療日一覧（初診・再診＝○、初診のみ＝初、再診のみ＝再、特殊再診＝特再、休診日＝休）

■全診療科完全予約制、初診は紹介状が必要です。

■脳神経外科の初診はCTもしくはMRIのCD-ROMも必要となります。

棟名	階数	ブロック	診療科	月	火	水	木	金
外来診療棟	1階	A	循環器内科	○	○	○	○	○
			心臓血管外科	休	○	休	○	休
			総合診療科	○	○	○	○	○
		B	脳神経内科	初	○	○	○	○
			整形外科	休	○	休	○	○
			脳神経外科	○	休	○	休	○
			麻酔科・緩和ケア	○	休	○	再	○
		C	小児外科・移植外科	○	休	○	○	○
	小児科		○	○	○	○	○	
	2階	D	糖尿病・代謝・内分泌内科	○	○	○	○	○
			乳腺・内分泌外科	○	○	○	○	○
			病理診断科	休	休	休	休	○
		E	血液内科	○	再	○	○	○
			膠原病内科	○	休	再	休	○
			腎臓内科	○	○	○	○	○
		F	呼吸器内科	○	○	○	休	○
			消化器内科	○	再	○	○	○
			呼吸器外科	休	○	休	○	○
			消化器外科	○	○	○	○	○
	G	皮膚科	○	再	○	○	○	
		形成・再建科	休	休	○	○	休	
	3階	H	歯科口腔外科	○	○	○	○	○
		I	眼科	○	○	休	○	特再
		J	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	○	休	○	休	○
		K	婦人科	○	不妊外来	○	不妊外来	○
			産科	○	休	○	再	○
		L	泌尿器科	休	○	休	○	○
	画像診断・治療科		○	休	○	休	○	
4階	M	神経精神科	休	○	○	○	○	
中診療棟	地階		放射線治療科	○	○	○	○	○
	2階		リハビリテーション科	休	○	休	○	○

外来予約センターの業務案内

熊本大学病院 外来予約センター

〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

TEL : 096-373-5973

FAX : 096-373-5577

E-mail : yoyaku-center@jimu.kumamoto-u.ac.jp

業務時間 : 8 : 30 ~ 17 : 15

目 的

当センターは、次のことを目的に設置されました。

1. 初診時の待ち時間の短縮
2. 効率的で迅速な医療の提供
3. 重複検査等の省略による患者様への負担軽減

業務内容

外来予約センターでは、初診・再診予約など患者様の診療受付予約業務を行っています。

初診・再診予約

外来診療待ち時間短縮等の患者サービス向上のために、**全ての患者様に対して全ての診療科において完全外来診療予約制度を実施しております。**なお、全ての診療科で紹介状が必要となり、脳神経外科については CT もしくは MRI の CD-ROM も必要となります。

また、初診予約受付は、かかりつけ病院からの紹介によるものを原則としています。紹介元医療機関からの FAX (096-373-5577) での連絡により、患者様へご連絡して受診を相談させていただきます。

なお、当日及び土・日・祝日・休日明けの診療日の希望に関しては急患の方のみとさせていただきます。

初診・再診予約変更

原則やむを得ない場合のみ変更を受け付けています。

予約の変更については、予約日の前日（前日が休診日・祝土日の場合はその前日）までにご連絡をお願いします。外来予約センターにて、新たな予約日時を受付登録します。

なお、CT・MRI を伴う予約の変更については、各科の外来へお願いします。

また、歯科口腔外科及び産科並びにリハビリテーション科の再診予約変更については、各外来にご連絡ください。

紹介元の医療機関さまへお願い

紹介元医療機関で行われた「検査データ」「X線フィルム」等は、紹介状とともに患者様にご持参されるようご手配をお願いします。

本院では、重複検査等を省略することにより、患者様への負担軽減を図るとともに効率的な医療を目指しておりますので、ご協力方よろしくをお願いします。

予約申込（初診・再診変更）

初診の場合

（原則、かかりつけ病院からの紹介が必要となります。）

1. FAX送信票等にてお申し込みください。（次頁予約申込票）
2. FAX送信票等により、受付後、内容を診療科担当医と調整の上、随時患者様へ直接電話にてご連絡をいたします。

連絡先： （外来予約センター）	[FAX] 096-373-5577 （※常時受付をしています。）
業務時間：	月曜～金曜 午前8時30分～午後5時15分 （※FAXは原則午後5時までの到着分をメ切とします。） （土・日・祝日・振替休日及び年末年始は除きます。）
E-mail：	yoyaku-center@jimu.kumamoto-u.ac.jp （※常時受付をしています）

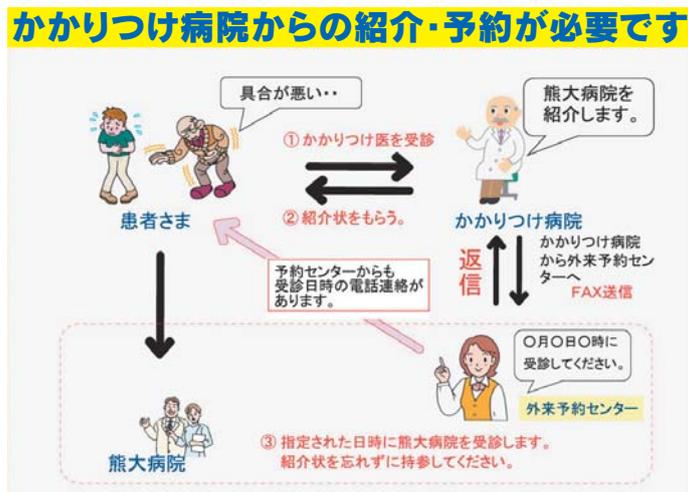
初診・再診変更の場合

電話にて、外来予約センター又は各科外来に予約日の前日までにご連絡ください。（p5の初診・再診予約変更を参照）

やむを得ない事由により予約日時を変更する必要がある場合には、診療科と調整の上、新たな予約日時を登録いたします。

連絡先： （外来予約センター）	[TEL] 096-373-5973 （※専用電話回線です。）
受付時間：	月曜～金曜 午前8時30分～午後5時15分 （土・日・祝日・振替休日及び年末年始は除きます。）

予約方法について



※緊急を要する場合等、状況判断により受診が可能となる場合もございます。

外来予約センター受付時間

月曜～金曜 午前8時30分～午後5時15分
（土・日・祝日・振替休日及び年末年始除きます。）

電話：096-373-5973

FAX：096-373-5577

熊本大学病院 外来診療予約申込票（初診用）

☆ 下欄の所要事項をご記入のうえ、送信してください。

FAX番号 096-373-5577 （常時受付）

熊本大学病院 御中

紹介 医療 機関	医療機関名		
	電話番号	F A X	
	メールアドレス	※メールアドレスは来院等報告を送信するために登録させていただくものです。1機関につき代表となる1つのアドレスをご記入願います。	
	診療科名	医師名	
患者様 関係	フリガナ		性別
	患者様の氏名		
	生年月日	大正・昭和・平成・令和 年 月 日生（ 歳）	
	住所 (連絡先)	〒 電話番号 携帯電話 (※必ず連絡のつく電話番号をご記入下さい。)	
	受診希望科(医師名)	診療科名： 科（ 先生） ※脳神経外科はCTもしくはMRIのCD-ROM必須 □（無い場合は予約取得不可）	
	第1受診希望日	令和 年 月 日（ ）	
	第2受診希望日	令和 年 月 日（ ）	
	セカンドオピニオン外来の申込（有・無）	※有の場合「セカンドオピニオン外来申込書」を記入し 申込書記載のFAXへ送付（様式はHPにあり。）	
※くまもとメディカルネットワーク参加有り <input type="checkbox"/>		検査・画像データ有り <input type="checkbox"/>	



☆ 本紙と「診療情報提供書（紹介状）」を一緒にFAX送信してください。

紹介状の原本は、受診の際、患者様にご持参いただきますようお願いいたします。初診時に紹介状の原本のご持参がない場合は、患者様から保険外併用療養費（選定療養にかかる費用）として、5,400円をいただくこととなります。

☆ 診療日等が決まりましたら、患者様へ直接ご連絡致しますが患者様のご不在の時には、ご家族等へ『伝言』させて頂きます。伝言が不都合な場合は、その旨を事前にお知らせください。

☆ 【セカンドオピニオン外来について】

対象者は患者様本人または患者様の同意を得たご家族で、現在受診中の医療機関（主治医）からの診療情報提供書（紹介状）及び検査データ（レントゲンフィルム・MRI・CT等の画像、血液検査、心電図、病理検査等）をご用意いただける方です。

※新たな検査や治療を行うものではありません。【料金は30分につき10,800円、30分増すごとに10,800円】※全額自費で保険適用はありません。

（備考欄）

お問い合わせ先

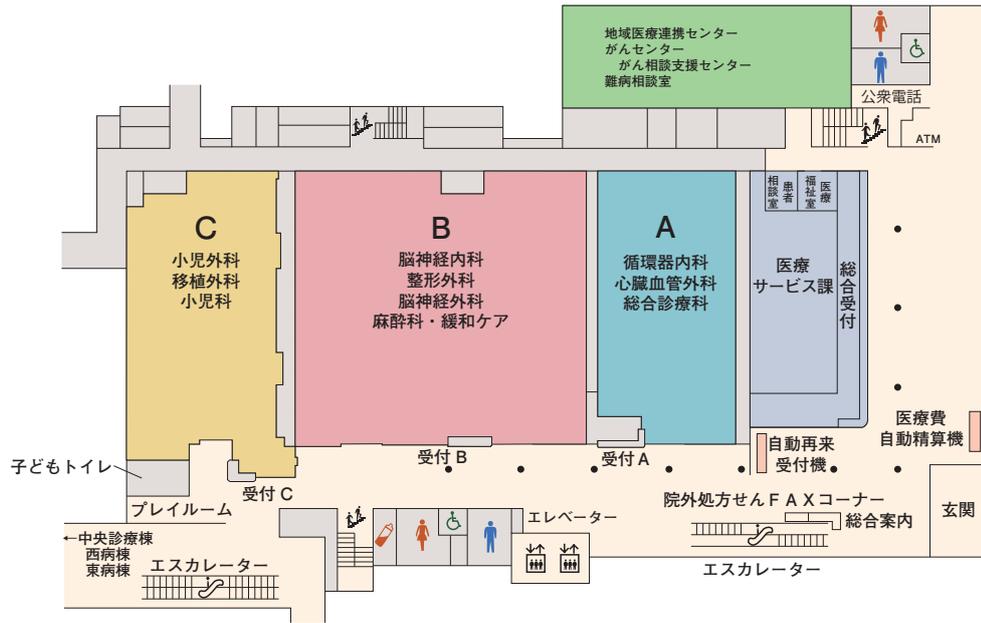
熊本大学病院 外来予約センター

T E L 096-373-5973（直通）

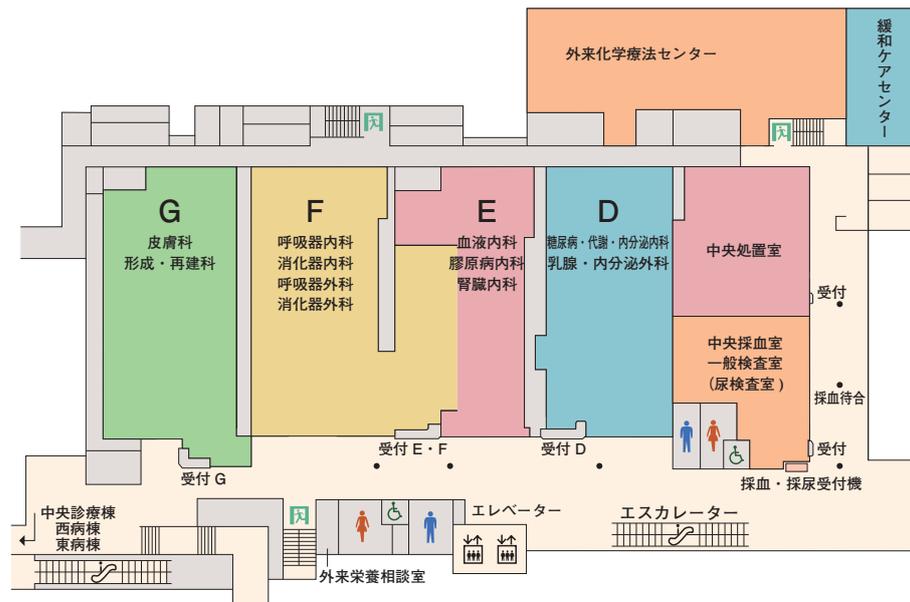
受付時間： 平日 午前8時30分～午後5時15分

病院外来診療棟案内図

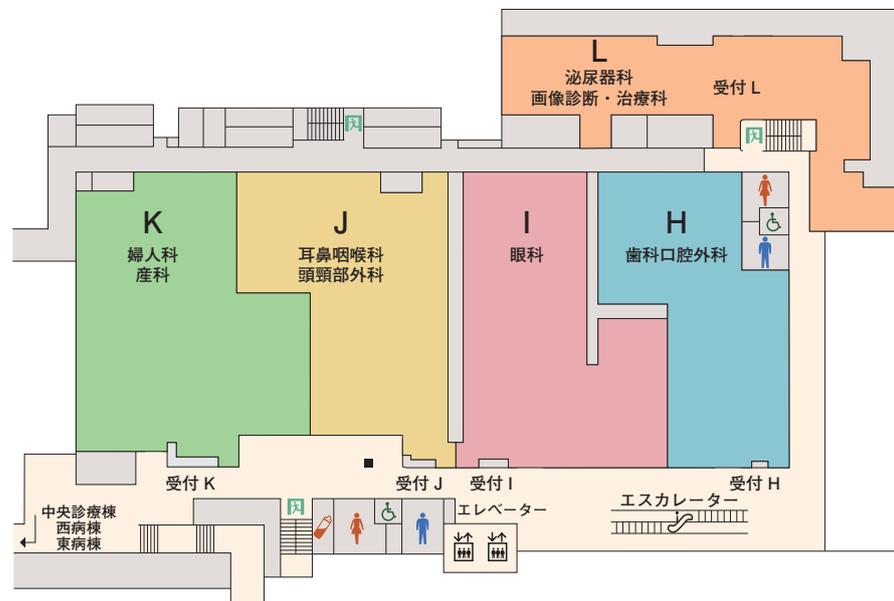
外来棟1階



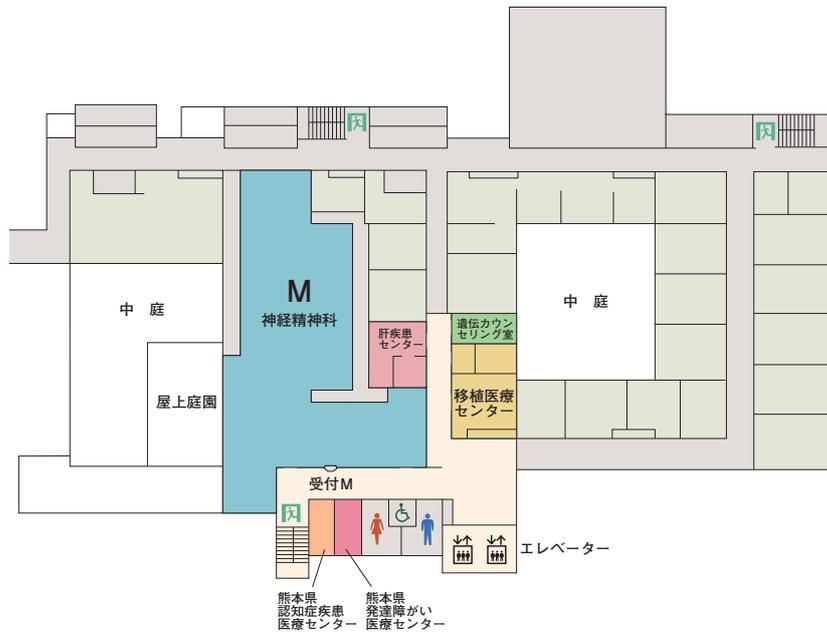
外来棟2階



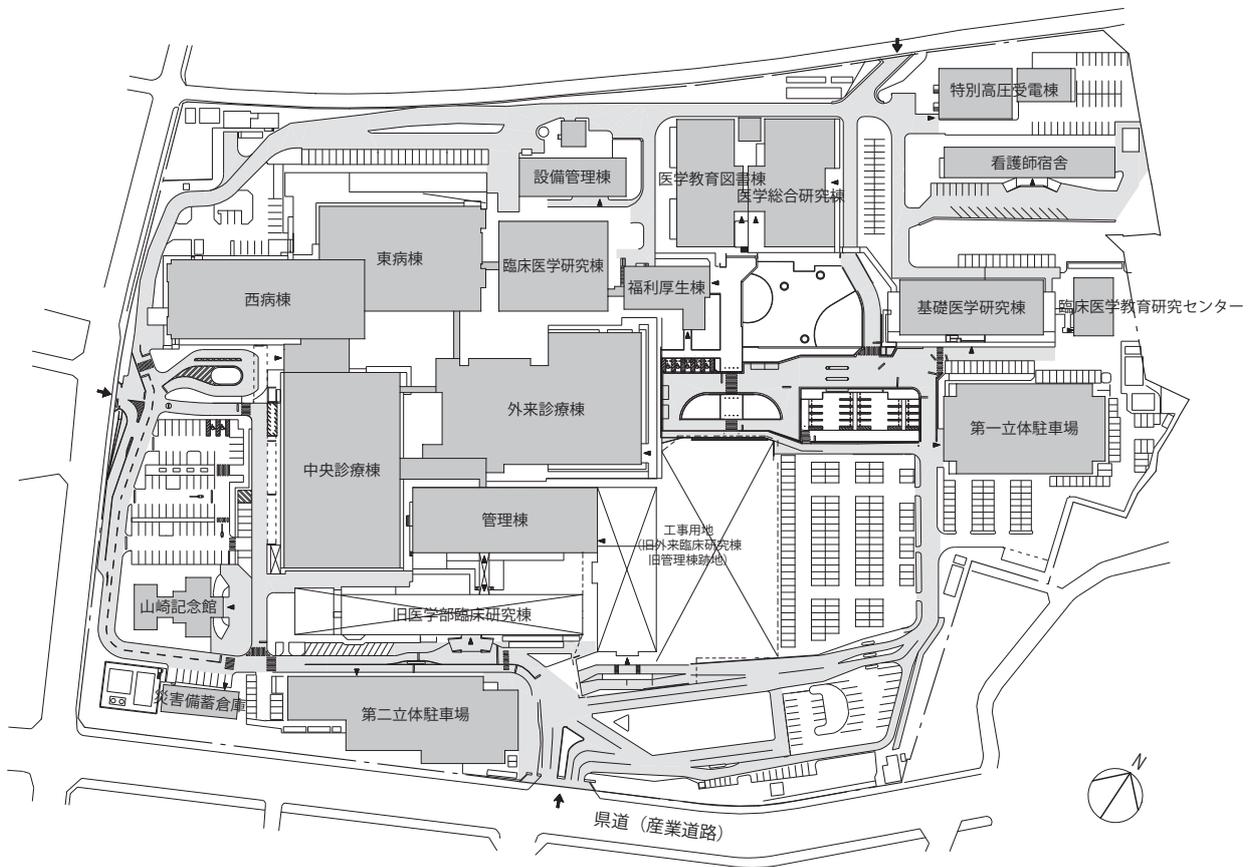
外来棟3階



外来棟 4階



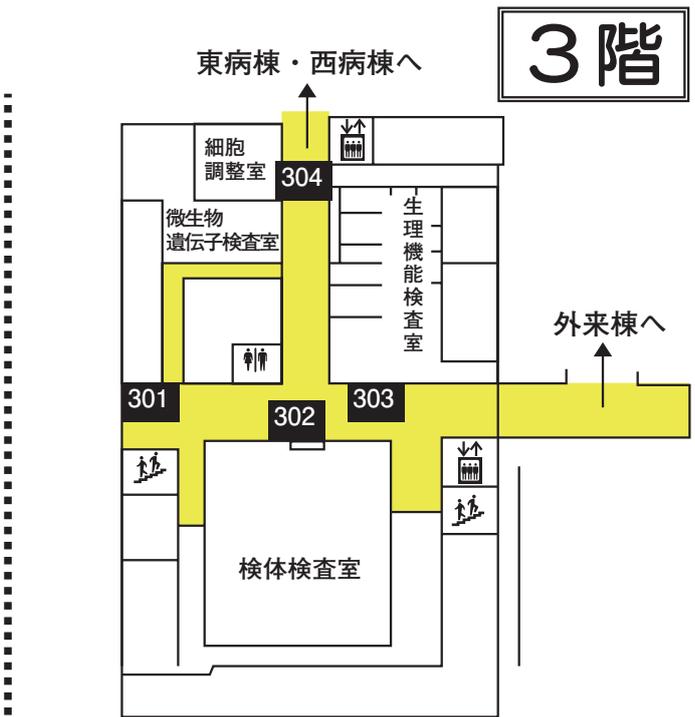
全体見取り図



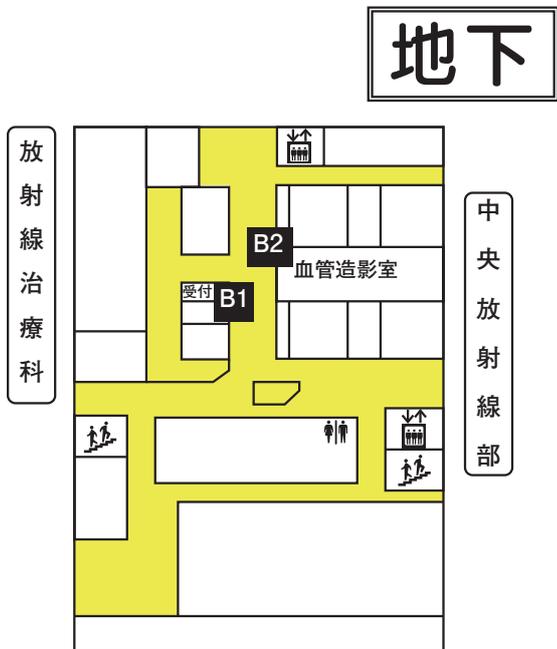
中央診療棟案内図



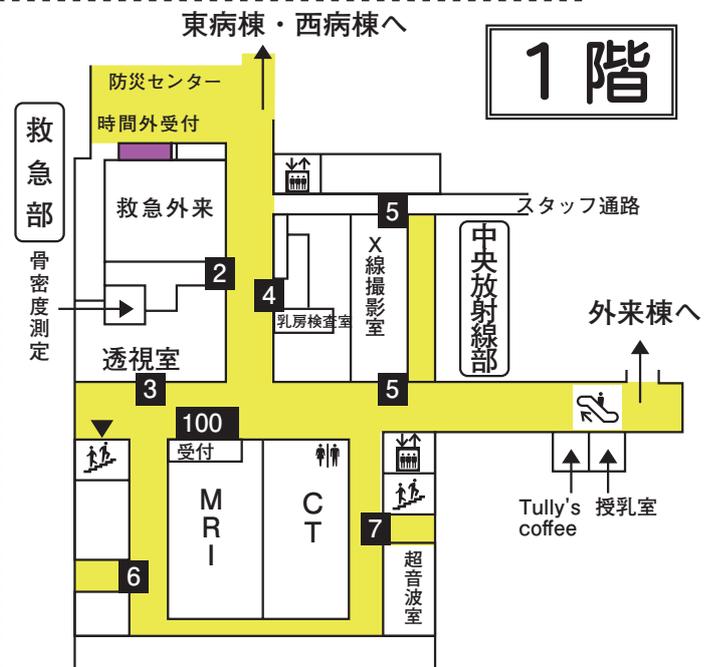
- 201 神経精神科療法室
- 202 内視鏡検査室受付 (光学医療診療部)
- 203 リハビリテーション科受付



- 301 検査部・輸血部管理受付
- 302 検体検査受付
- 303 生理機能検査室【心電図・エコー(心臓・頸部血管等)筋電図・ポリグラフ・脳波・呼吸機能】【検査カフェ】
- 304 微生物遺伝子検査室・細胞採取室



- B1 放射線治療科受付
- B2 血管造影室 入口



- 100 中央放射線部受付
- 2 骨密度測定室 待合室入口
- 3 透視室 待合室入口
- 4 乳房検査室 待合室入口
- 5 X線検査室 待合室入口
- 6 MRI 検査室 待合室
- 7 CT・超音波(腹部・頸部・乳腺・リンパ節等)検査室 待合室

地域医療連携センター



センター長

(感染免疫診療部・准教授)

の さか き さと
野坂 生郷



副センター長

(医療情報経営企画部・准教授)

な かむら た い し
中村 太志



副センター長

(がんセンター・講師)

す やま こう い ち
陶山 浩一

連絡先 TEL (096)373-5701・5934
FAX (096)373-5720
E-mail:renkei@kuh.kumamoto-u.ac.jp

本院では特定機能病院として、可能な限りより多くの人々に高度で先進的な医療を提供するとともに、本院での治療を終了した患者様が地域において継続的かつ適切な医療サービスを適切な場所で受けることが可能となるよう平成12年12月に「地域医療連携センター」を開設しました。在宅・転院支援及び患者様や家族、地域の医療機関からの相談・問い合わせ等について、地域医療機関の皆様ときめ細かい連携をはかり患者サービス向上のための活動を行っています。

当センターの業務の趣旨をご理解のうえ、今後ともご支援ご協力をよろしく申し上げます。

センターの業務案内

患者様の療養支援業務

退院後の療養（在宅療養、施設療養）の相談
地域医療福祉関係機関との連絡調整

患者様の各種相談業務

疾病による心理的、社会的、経済的問題や家族関係等の悩みの相談対応、病気に関する相談
公費医療制度の案内、手続きの説明

地域連携業務

患者様の地域医療機関への紹介業務
地域医療機関からの紹介患者の受け入れ、セカンドオピニオン外来
地域医療機関、行政機関、福祉施設等との情報交換
地域医療機関、行政機関、福祉施設等情報のデータベース化



患者・家族の方

地域医療連携センターでは、熊本大学病院の「診療内容」「病気」や「けが」によって起こる生活上や療養上の問題に関する相談をお受けしています。

※当センターは、こんなときにご利用ください。

Q 退院後の生活について不安や悩みがある。

※家族に重い負担がかからないだろうか？ 在宅医療を受けることができるか？

Q 経済的な不安がある。

※高額な医療費が支払えない。医療費が家計を圧迫している。

Q 介護保険や障がい福祉サービス等、福祉等の制度について知りたい。

※介護の申し込み方法や県や市が支援・補助してくれる制度はないか？

Q 誰に相談してよいのか判らない。

※医師や看護師には、聞きづらいこと。医師に聞くとよいのか、看護師や事務に聞くとよいのか判らないこと。

Q 自分の家の近くで療養したい。

Q 治療と仕事の両立について相談したい。

※当センターでは、次のようなお手伝いをします。

- 1) 熊本大学病院の診療内容についての情報を提供します。
- 2) 社会福祉の制度、介護サービス、訪問看護などの情報を提供します。
- 3) 必要なサービスの内容・料金などについて調べ、ご紹介します。
- 4) 適切な施設・病院等に連絡をとりご紹介します。
- 5) 退院後の生活に向けての準備のお手伝いをします。
- 6) 在宅療養の仕方、介護方法の相談をお受けします。

すぐにお答えできない場合でも、後日お知らせいたしますのでご相談ください。
秘密は厳守いたします。費用はかかりません。

がんセンター

連絡先 TEL (096)373-5676 FAX (096)373-5828



センター長
まつおか まさお
松岡 雅雄

熊本大学病院は、2006年8月都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、熊本県のがん診療の中心病院として機能していくことが求められています。そのため、本院内に全人的な高い質のがん医療の提供を目的として2006年6月「がん診療センター」が設置（2009年5月がんセンターに改組）されました。がんセンターのミッションは①本院で集学的がん治療を実施する体制の整備、②熊本県内の各地域病院の医療従事者に対するがん治療の教育および啓発、③がん登録の実施支援であります。

2014年の厚生労働省健康局通知に基づき、これまでの緩和ケアチームから緩和ケアセンターの改組が行われました。また、それに伴い、がん相談支援センター、外来化学療法センター、がん登録センターへと名称、組織の変更が行われています。

センターの業務案内

- (1) がんの治療には手術療法、放射線療法、がん化学療法の三大治療に加え、内視鏡治療や分子標的治療、緩和療法や支持療法などその診療に大きな幅があり、根治・延命・QOLの向上を達成するためには、それぞれを組み合わせた集学的治療が必要です。
- (2) がんセンターは下部組織である、外来化学療法センター、がん相談支援センター、がん登録センター、緩和ケアセンターを統括しています。がんセンター内の審議機関として、センター運営委員会を設置し各センターの活動活性化や情報交換を進めています。さらに、外来化学療法専門委員会、院内がん登録専門委員会、がん化学療法レジメン審査専門委員会、緩和ケア専門委員会は各部門内での検討事項について協議しています。
- (3) がんセンター外来の開設：がんセンター外来として、腫瘍内科医（陶山）による外来を行っております。各種固形がんに対するセカンドオピニオンにも対応しております。
- (4) その他センターに関すること：がん治療の前進のためには新しい薬剤の開発や新しい治療法の開発などが必要ですが、そのためには治験や臨床試験が必要不可欠です。センターでは、臨床試験支援センターや薬剤部との協力のもと、より活発に熊本からエビデンスを発信できるように、病院内で行われているがんに関する治験や臨床試験を全面的にサポートしてまいります。

熊本大学病院がんセンター組織図



外来化学療法センター

センター長：陶山^{すやま} 浩一^{こういち}
看護師長：岡本^{おかもと} 泰子^{ひろこ}

悪性腫瘍に対する化学療法の多くは、外来で施行可能となりつつあります。化学療法の進歩によって以前より長い延命を得ることが可能となったことで、「治療を行いながら充実した人生を送る」ためには、外来での通院による化学療法は重要なポイントです。私達は、外来での化学療法を「より安全に、より快適な環境で、より短い時間で」という患者様の要望に応えるために、2006年4月から外来化学療法センターを開設いたしました。がん化学療法看護認定看護師を含む11名の専従看護師と、がん看護専門看護師の資格を有する1名の専任看護師長、クラーク2名、外来がん治療認定薬剤師を含む2名の専任薬剤師、がん薬物療法専門医・指導医の資格を有する医師を含む2名の専任医師の18名体制でより専門的で安全な治療を心がけています。

患者様にできるだけ快適に治療を受けていただくため、現在12台のベッド、8台のリクライニングシートにモニターを設置し、自由にテレビやDVDなどが視聴できるようになっています。また、メディカルCDによるBGMを流し、治療中の患者様がくつろいでいただける環境を用意しています。

がん相談支援センター

センター長：松岡^{まつおか} 雅雄^{まさお}
副看護師長：石坂^{いしざか} 暁子^{あきこ}

- 1) がんに関する相談：がんに関する相談や情報提供の窓口として「がん相談支援センター」を設置しております。院内の患者様だけでなく、院外の患者様やご家族、地域の方々もご利用いただけます。病気や治療のこと、今後の療養生活や治療費のことなど、がんにかかわる全般的な質問や相談に対応いたします。
- 2) 就労支援：毎月第2、4水曜日には、ハローワークの就職支援ナビゲーターと共に仕事に関する情報提供や就職に向けた支援を行っております。
- 3) 患者会・がんピアおしゃべり相談室の開催：患者様やご家族を対象に開催し、当センターがその支援を行っております。

がん登録センター

センター長：宇宿^{うすく} 功市郎^{こういちろう}

がんセンターでは、厚生労働省が定める標準登録様式に基づく院内がん登録を実施するために、「がん登録センター」を設置いたしました。登録されたデータは集計の上、国のがん対策基礎資料を始め診療活動の支援、研究、教育のために役立てています。

また、国立がん研究センターへのデータ提出、国（熊本県）への全国がん登録データの提出、熊本県がん診療連携協議会幹事会がん登録部会への情報提供なども実施しています。

緩和ケアセンター／緩和ケアチーム

センター長：山本^{やまもと} 達郎^{たつお}
ジェネラルマネージャー：安達^{あたち} 美樹^{みき}

- (1) 都道府県がん診療連携拠点病院である本院では、がんセンターの下に「緩和ケアセンター」を2014年9月に設置いたしました。緩和ケアセンターは、緩和ケアチームが主体となり、専門的緩和ケアを提供する院内拠点組織として活動しております。
- (2) 本院では、2006年12月から緩和ケアチーム（医師、専門看護師、認定看護師、薬剤師、管理栄養士、公認心理師、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー等）を結成し、患者様やご家族に対し早期から痛みや呼吸困難、倦怠感といった身体症状の緩和及び不安・抑うつなどの精神的苦痛の緩和やサポートを、主治医及び病棟看護師等と協力して行っております。
- (3) 患者様やご家族の療養生活の質の維持向上のため、緩和ケア医療が早期から適切に行われるよう医療人への教育（医学教育・看護教育）や研究会等を開催しています。また、切れ目のない緩和ケアが行えるよう地域の医療機関、在宅療養支援診療所及び訪問看護支援施設と連携を図っています。

学会認定研修施設等一覧

令和元年6月現在

診療科等	各学会認定資格等の指定研修施設等の認定名称	認定年月
呼吸器内科	日本臨床腫瘍学会認定研修施設	平成22年4月
	日本がん治療認定医機構認定研修施設	平成24年11月
	日本呼吸器学会認定施設	平成27年4月
	日本アレルギー学会専門医教育研修施設	平成31年4月
	日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設	平成28年1月
消化器内科	日本内科学会認定教育施設	平成29年9月
	日本消化器病学会専門医認定施設	平成31年1月
	日本消化器内視鏡学会専門医指導施設	平成29年12月
	日本肝臓学会認定施設	平成31年4月
	日本カプセル内視鏡学会指導施設	平成26年2月
	日本消化管学会胃腸科指導施設	平成25年11月
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設	平成22年4月
	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	平成24年4月
血液内科	日本内科学会認定教育施設	平成29年9月
	日本血液学会認定血液研修施設	平成31年4月
感染免疫診療部	日本感染症学会認定研修施設	平成31年3月
膠原病内科	日本リウマチ学会教育施設	平成30年9月
腎臓内科	日本腎臓学会研修施設	平成28年4月
	日本透析医学会専門医認定施設	平成28年4月
	日本高血圧学会専門医認定施設	平成30年4月
	日本内科学会認定教育施設	平成29年9月
糖尿病・代謝・内分泌内科	日本糖尿病学会認定教育施設	平成28年4月
	日本内科学会認定教育施設	平成29年9月
	日本内分泌学会認定教育施設	平成31年4月
	日本老年医学会認定施設	平成31年4月
	日本肥満学会認定肥満症専門病院	平成28年1月
	日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設	平成27年11月
循環器内科	植え込み型除細動器植え込み認定施設	平成18年4月
	心臓再同期療法：両心室ペーシングペースメーカー植え込み認定施設	平成20年4月
	日本老年医学会認定施設	平成26年4月
	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	平成26年4月
	日本心血管インターベンション治療学会研修施設	平成25年4月
	日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設	平成26年4月
	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	平成24年4月
	日本脈管学会認定研修指定施設	平成25年1月
	経カテーテルの大動脈弁置換術実施施設	平成26年11月
	経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）認定施設	平成27年3月
	浅大腿動脈ステントグラフト実施認定施設	平成29年3月
	日本内科学会認定教育施設	平成29年9月
	埋込型補助人工心臓管理施設	平成29年11月
	IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設	平成30年12月
	成人先天性心疾患学会認定修練施設	平成31年4月
脳神経内科	日本神経学会認定教育施設	平成31年4月
	日本脳卒中学会専門医認定研修教育施設	平成29年1月
	日本内科学会認定教育施設	平成29年9月
心臓血管外科	日本外科学会外科専門医修練指定施設	平成24年1月
	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設	平成25年1月
	日本胸部外科学会指定施設	平成18年1月
	関連10学会構成腹部大動脈瘤ステントグラフト血管内治療実施施設	平成25年1月
呼吸器外科	関連10学会構成胸部大動脈瘤ステントグラフト血管内治療実施施設	平成20年7月
	呼吸器外科専門医基幹施設	平成29年1月
消化器外科	日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設	平成23年1月
	日本外科学会外科専門医修練指定施設	平成24年1月
	日本外科学会外科専門医修練指定施設	平成24年1月
	日本消化器外科学会専門医修練施設	昭和60年1月
	日本消化器病学会専門医認定施設	平成26年1月
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設	平成22年4月
	日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設A	平成25年6月
	日本がん治療認定医機構認定研修施設	平成24年11月
	日本食道外科専門医研修施設	平成25年1月
	日本消化管学会胃腸科指導施設	平成26年11月
乳腺・内分泌外科	日本胆道学会認定指導医制度指導施設	平成30年7月
	日本乳癌学会認定医・専門医認定施設	平成29年1月
	日本外科学会外科専門医修練指定施設	平成24年1月
小児外科／移植外科	日本がん治療認定医機構認定研修施設	平成24年11月
	日本小児外科学会専門医育成認定施設	平成26年4月
産科／婦人科	日本外科学会外科専門医修練指定施設	平成24年1月
	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設指定	平成25年4月
	日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設	平成23年5月
	婦人科悪性腫瘍研究機構登録参加認定施設	平成24年10月
	日本周産期・新生児医学会周産期母体・胎児専門医暫定基幹研修施設	平成28年4月
	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	平成24年4月
	日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医研修施設	平成22年10月
日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設	平成28年4月	

診療科等	各学会認定資格等の指定研修施設等の認定名称	認定年月
泌尿器科	日本泌尿器科学会専門医教育施設	平成28年4月
	日本透析医学会専門医認定施設	平成23年4月
小児科	日本臓器移植ネットワーク腎移植施設	平成19年4月
	日本小児科学会小児科専門医研修施設	平成28年4月
	日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定研修施設	平成31年4月
	日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医研修施設	平成27年4月
整形外科	日本小児神経学会小児神経科専門医研修施設	平成28年4月
	日本整形外科学会認定医研修施設	昭和58年4月
皮膚科／形成・再建科	脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設	平成29年4月
	日本がん治療認定医機構認定研修施設	平成24年11月
	日本皮膚科学会認定専門医研修施設	平成28年4月
	日本皮膚科学会認定専門医主研修施設	平成28年4月
眼科	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設	平成30年4月
	JCOG 参加施設（皮膚腫瘍グループ）	平成29年4月
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	日本眼科学会眼科専門医研修施設	平成29年4月
	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	平成29年4月
歯科口腔外科	日本気管食道学会気管食道科専門医研修施設（咽喉系）	平成27年11月
	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修施設	平成27年1月
	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設	平成29年4月
	日本口腔外科学会専門医研修機関	平成28年10月
画像診断・治療科 放射線治療科	日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医制度指定研修施設	平成30年12月
	日本口腔ケア学会認定口腔ケア施設	平成26年4月
	日本顎関節学会顎関節症専門医研修施設	平成28年1月
	日本口腔科学会認定研修施設	平成28年12月
神経精神科	日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関	平成28年4月
	日本放射線腫瘍学会認定施設	平成21年9月
	日本インターベンショナルラジオロジー学会（日本 IVR 学会）専門医修練施設	平成27年1月
	日本核医学会専門医教育病院	平成28年1月
脳神経外科	関連10学会構成胸部大動脈瘤ステントグラフト血管内治療実施施設	平成20年7月
	関連10学会構成腹部大動脈瘤ステントグラフト血管内治療実施施設	平成25年1月
	日本精神神経学会精神科専門医研修施設	平成28年4月
	日本総合病院精神医学会専門医研修施設	平成30年3月
麻酔科	日本老年精神医学会認定医研修施設	平成28年4月
	日本認知症学会専門医教育施設	平成28年4月
	日本脳神経外科学会専門医認定施設	平成31年4月
	日本定位・機能神経外科学会技術認定施設	平成31年4月
中央検査部	JCOG 脳腫瘍グループ参加認定施設	平成31年4月
	日本てんかん学会研修認定施設	平成30年10月
	日本麻酔科学会麻酔科標榜研修施設	平成28年4月
	日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設	平成30年4月
救急・総合診療部	心臓血管麻酔専門医認定施設	平成31年4月
	日本臨床検査医学会認定研修施設	平成28年7月
	ISO 15189認定臨床検査室	平成28年2月
	精度保証施設	平成29年4月
集中治療部	認定臨床微生物検査技師制度研修施設	平成27年1月
	認定輸血検査技師制度指定施設	平成28年4月
	公益社団法人日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設	平成29年4月
	日本救急医学会専門医指定施設	平成28年1月
病理部	日本内科学会認定教育施設	平成27年9月
	日本集中治療医学会専門医研修施設	平成27年4月
	日本臨床細胞学会教育研修施設認定	平成26年11月
	日本病理学会病理専門医研修認定施設B	平成30年4月
輸血・細胞治療部	日本臨床細胞学会認定施設	平成27年4月
	日本輸血細胞治療学会認定医指定施設	平成26年4月
	認定輸血検査技師制度指定施設	平成28年4月
	学会認定・輸血看護師制度指定研修施設	平成27年4月
薬剤部	日本がん治療認定医機構認定研修施設	平成30年4月
	日本臨床腫瘍学会認定研修施設	平成27年4月
	日本医療薬学会認定薬剤師研修施設	平成21年1月
	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設	平成22年2月
看護部	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設	平成23年4月
	日本病院薬剤師会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設	平成21年4月
	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設	平成25年1月
	日本臨床薬理学会認定薬剤師制度研修施設	平成28年1月
医療技術部	日本看護協会急性重症患者看護専門看護師研修施設	平成23年4月
	日本看護協会がん看護専門看護師研修施設	平成24年4月
	日本看護協会がん化学療法看護認定看護師研修施設	平成20年4月
	日本看護協会集中ケア認定看護師研修施設	平成21年4月
栄養管理部	日本看護協会皮膚排泄ケア認定看護師研修施設	平成19年4月
	日本看護協会脳卒中リハビリテーション看護認定看護師研修施設	平成28年4月
	日本看護協会慢性心不全看護認定看護師研修施設	平成24年4月
	日本救急撮影技師認定機構指定実地研修施設	平成24年4月
栄養管理部	認定臨床微生物検査技師制度指定研修施設	平成22年4月
	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	平成24年4月
	日本臨床衛生検査技師会認定精度保証施設	平成25年4月
	日本静脈経腸栄養学会（栄養サポートチーム専門療法士）実施修練認定教育施設	平成24年2月
	日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設	平成31年4月
	日本病態栄養学会・日本栄養士会認定がん病態栄養専門管理栄養士研修実地修練施設	平成29年10月
	日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設	平成29年9月

●診療科の紹介



救急・総合診療部

かさおか しゅんじ
笠岡 俊志
(教授)

どの臓器に問題があるのか明らかでない場合や多彩な症状などで、受診する診療科が明らかでない患者さんを、総合的に診療して、必要に応じて専門診療科をご紹介したり、または、総合診療科で継続して診療をいたします。

診療科の特性として、基本的には、最先端、高度の医療の提供は行わず、身体的な問題のみならず、心理的要因、社会的要因もお持ちで、それぞれの問題を可能な限り対応する診療を実践しており、また、その様な総合的な診療能力を養成するために、医学生や研修医、専攻医の実習・研修も実践しております。

これらの取組を実践していくことで、熊本県の地域医療に求められる医療と人材を提供し、地域医療に貢献していくことを目指しております。

より良い医師養成ということも、大学病院の重要な使命の一つではありますが、このためには患者様のご理解・ご協力が不可欠でもあり、より一層のご理解・ご協力をお願いしたい状況です。よろしくようお願い申し上げます。

■スタッフ紹介

地域医療・総合診療実践学寄附講座

外来診療日記号 ○=初診 ◎=再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医	
			月	火	水	木	金		
まつい くはこ 松井 邦彦	特任教授/地域医療支援センター長	総合診療、内科		◎				日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本循環器学会専門医	
さどはらみちと 佐土原道人	特任助教	総合診療、内科				◎	◎	日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本プライマリ・ケア連合学会指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会総合内科指導医、日本病院総合診療医学会認定医	
まへだ こうすけ 前田 幸佑	特任助教	総合診療、内科					◎	◎	日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定医

地域医療支援センター

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医		
			月	火	水	木	金			
たにくち じゅんいち 谷口 純一	特任准教授/救急・総合診療部 副部長	総合診療、内科、救急医学	◎			◎	※隔週	◎	日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医	
たかやなぎ ひろし 高柳 宏史	特任助教	総合診療、家庭医療			◎	◎			◎	日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医、日本医師会認定産業医

救急・総合診療部

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医		
			月	火	水	木	金			
かさおか しゅんじ 笠岡 俊志	教授/救急・総合診療部 部長	救急医学、総合診療、内科		◎					◎	日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本循環器学会専門医、日本救急医学会専門医、日本救急医学会指導医、日本集中治療医学会集中治療専門医

主な診療領域

受診する診療科が不明な患者様

- 1) 障害の原因となる臓器が分からない患者様 (例：全身倦怠感、発熱、食欲不振、気分不良、体重減少など)
- 2) 多彩な症状のある患者様 (例：めまい+頭痛+動悸+意欲低下+全身あちこちの痛みなど)
- 3) 複数の臓器にわたる疾患の為、受診する診療科がわからない患者様 (例：糖尿病+高血圧症+虚血性心疾患+感染症など)
- 4) 健康問題に関して受診希望される患者様 (例：健・検診の異常 等)

診療科長



さかがみ たくろう
坂上 拓郎
(教授)

●診療科の紹介

呼吸器内科は咳、痰、息切れ、喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼー）、血痰、息詰り、発熱、胸痛、居眠り、いびき、胸水などの呼吸器症状のある方、検診にて胸部レントゲン、CTで異常陰影の指摘を受けた方の精密検査のために、各々の専門領域の医師が診療に当たります。

喘息、慢性咳嗽、慢性閉塞性肺疾患（COPD）はピークフローモニタリングや喀痰などから気道炎症を評価し個々の患者様に応じた治療を行っています。診断のための呼気ガス中の一酸化窒素（NO）濃度を測定して気道病変を予測して治療の評価をしています。また、吸入手技やピークフロー測定などの指導、呼吸器リハビリを通じて患者教育、指導に力を入れています。新薬の治験に参加し、新薬開発に取り組みながら最新の治療を目指しています。

肺癌の早期診断と最新の抗癌化学療法・分子標的治療を実施しています。手術可能な症例は本院の呼吸器外科と密な連携で治療にあたります。抗癌剤の感受性に関する基礎的研究や、西日本がん研究機構（WJOG）や九州肺癌研究機構（LOGiK）、さらに肺癌治療の国際研究グループに参加して抗癌剤及び放射線治療、併用化学療法などの臨床試験を行っています。通院でも外来化学療法センターにて治療を行っています。

びまん性肺疾患、肺線維症は、診断・治療に難渋することが多い疾患で、気管支鏡検査、気管支肺泡洗浄、胸腔鏡下肺生検などを行い、正しい診断と治療方針を決定し、最新の治療を行っています。肺胞蛋白症や、肺リンパ脈管筋腫症に対しても、積極的な診断・治療を行っています。

肺炎、気管支炎、気管支拡張症などの呼吸器感染症は、頻度の高い疾患ですが、細菌検査室と協力し、必要十分な抗菌剤治療を実施するとともに予防にも努力しています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
さかがみ たくろう 坂上 拓郎	教授	呼吸器内科、喘息、COPD、びまん性肺疾患		◎				日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医
いちやす ひでのり 一安 秀範	准教授	呼吸器内科、びまん性肺疾患、COPD		◎			◎	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、ICD認定医、身体障害者福祉法指定医
おかもと しんいちろう 岡本真一郎	助教	呼吸器内科、感染症		◎			◎	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本感染症学会専門医・指導医、ICD認定医、抗菌化学療法認定医・指導医、身体障害者福祉法指定医、日本医師会認定産業医
さえぎ しょう 佐伯 祥	助教	呼吸器内科、肺癌		◎	◎			日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医、がん治療認定医
とみた ゆうすけ 富田 雄介	助教	呼吸器内科、肺癌、呼吸不全	◎	◎				日本内科学会総合内科専門医・指導医
さるわり こういち 猿渡 功一	助教	呼吸器内科、肺癌	◎				◎	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、がん薬物療法専門医、がん治療認定医
とくながけん たろう 徳永健太郎 (集中治療部)	助教	呼吸器内科、呼吸管理、集中治療						日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本集中治療学会専門医、難病指定医、身体障害者福祉法指定医
ほりお ゆうこう 堀尾 雄甲	特任助教	呼吸器内科、呼吸管理、喘息	◎		◎			日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
いやま しんじ 猪山 慎治	特任助教	呼吸器内科、肺癌、呼吸不全	◎					日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医
よしだ ちえこ 吉田知栄子	医員	呼吸器内科、喘息	◎					日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、ICD認定医、身体障害者福祉法指定医
ますなが あいこ 増永 愛子	医員	呼吸器内科、びまん性肺疾患、緩和ケア			◎			日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、がん治療認定医、ICD認定医、身体障害者福祉法指定医
はまだ しょうへい 濱田 昌平	医員	呼吸器内科、肺癌、呼吸管理、びまん性肺疾患					◎	日本内科学会認定医
さかた しんや 坂田 晋也	医員	呼吸器内科、肺癌、緩和ケア			◎			日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、がん治療認定医、日本医師会認定産業医、身体障害者福祉法指定医
さとう りょう 佐藤 亮	医員	呼吸器内科、肺癌、緩和ケア						日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医
あかいけ きみたか 赤池 公孝	医員	呼吸器内科、びまん性肺疾患					◎	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医、がん治療認定医、肺癌CT検診認定医
じょうだい たかゆき 城臺 孝之	医員	呼吸器内科、肺癌		◎				日本内科学会認定医
さとうなほこ 佐藤奈穂子	医員	呼吸器内科、びまん性肺疾患						日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医
いしづか しほ 石塚 志穂	医員	呼吸器内科						日本内科学会認定医

なかしま 中嶋 啓	医員	呼吸器内科						○	日本内科学会認定医
こまつ 小松 太陽	医員	呼吸器内科					○		日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医
たかはし 高橋比呂志	医員	呼吸器内科							日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医
いまい 今井 美友	医員	呼吸器内科							
たしま 田嶋 祐香	医員	呼吸器内科							
ないとう 内藤 大貴	医員	呼吸器内科							
みやざき 宮崎 蒼	医員	呼吸器内科							

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
専門としている疾患および対象 ◎気管支喘息 ◎慢性閉塞性肺疾患（COPD） ◎肺癌、胸膜・縦隔の腫瘍 ◎びまん性肺疾患 (特発性肺線維症、サルコイドーシス、膠原病性 間質性肺炎、過敏性肺炎、肺胞蛋白症、肺リン 巴脈管筋腫症など) ◎呼吸器感染症 (気管支炎、肺炎、気管支拡張症、胸膜肺炎、肺 化膿症、膿胸など) ◎睡眠時無呼吸症候群 ◎急性呼吸不全 (ARDS、急性間質性肺炎、間質性肺炎の急性増 悪) ◎在宅酸素療法を必要とする患者様の管理検査・ 診断方法	肺機能検査（ β_2 刺激剤を用いた吸入前後におけ る改善率の測定） 気道過敏性の検査（アセチルコリン吸入による 過敏性測定） 呼気中一酸化窒素（NO）濃度測定、喀痰検査 胸部レントゲン写真、胸部 CT 写真、心電図 肺胸部レントゲン写真 胸部 CT 写真、胸部 MRI（FDG-PET は必要な 場合、院内・院外にて検査） 気管支鏡検査・超音波気管支鏡検査・透視下肺 生検・CT 下肺生検 喀痰細胞診、肺機能検査、心電図 胸部レントゲン写真、胸部 CT 写真 気管支鏡検査・超音波気管支鏡検査・透視下肺 生検 CT 下肺生検・ビデオガイド下胸腔鏡下肺生検 気管支肺胞洗浄液の細胞分画の検討 肺機能検査、心電図 胸部レントゲン写真、胸部 CT 写真、気管支鏡 検査 喀痰細菌検査・喀痰塗染染色標本の鏡検 肺機能検査、心電図、胸腔試験穿刺 アプノモニター（簡便法） 睡眠ポリグラフ（精密検査）（外部委託） 脳波、頭蓋写真、心電図 胸部レントゲン写真、胸部 CT 写真 気管支鏡検査、気管支肺胞洗浄 喀痰検査（細胞培養、細胞診など） 肺機能検査、心電図、動脈血液ガス分析 動脈血液ガス分析 経皮的動脈血酸素飽和度（SpO ₂ ）測定器（パル スオキシメーター） 胸部レントゲン写真、胸部 CT 写真、 肺機能検査、心電図	吸入療法の指導 副腎皮質ステロイドホルモン剤の吸入療法 β_2 刺激剤の吸入療法、抗コリン作動薬の吸入療 法 ロイコトリエン拮抗薬の内服療法、テオフィリン の内服療法・抗 IgE 抗体療法 呼吸リハビリテーション 外科的肺切除（外科手術） 導入放射線化学療法後の外科的肺切除（外科手 術） 放射線化学療法 化学療法・外来通院化学療法、分子標的療法、 免疫療法 緩和ケア治療 副腎皮質ステロイドホルモン剤の内服療法 免疫抑制剤の内服療法、ムコフィリン吸入治療 PMX-DHP 療法、全肺洗浄 抗線維化剤による治療 抗菌薬の点滴もしくは内服治療 マクロライド系抗菌薬の少量長期内服療法 去痰剤、胸腔ドレナージ CPAP 等の補助人工呼吸器の装着（鼻マスク、 顔マスク）（睡眠時に装着する） 口腔内装置の装着 口腔拡張手術 副腎皮質ステロイドホルモンパルス治療 免疫抑制剤の投与 集中治療（人工呼吸、全身管理） 酸素吸入療法 呼吸リハビリテーション 原疾患の治療を併せて行う

診療科長



たなか もとひこ
田中 基彦
(准教授)

●診療科の紹介

消化器内科では食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝胆膵などのすべての消化器領域を網羅し、臨床経験豊富な専門医が検査や診療にあたっております。具体的には、超音波内視鏡、拡大内視鏡、小腸内視鏡、胆道内視鏡、カプセル内視鏡などの特殊内視鏡検査による精密診断、内視鏡的ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術 (EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)、内視鏡的乳頭括約筋切開術 (EST)、内視鏡的乳頭バルーン拡張術 (EPBD)、食道胃静脈瘤硬化療法・結紮術等の先進的な内視鏡的治療、原発性肝癌 (以下、肝癌) に対するラジオ波焼灼術 (RFA)、肝動脈塞栓術、リザーバー動注化学療法などを駆使した最新治療、慢性肝炎に対する抗ウイルス療法、難治性消化器癌への抗癌剤治療、炎症性腸疾患の免疫抑制療法などに精力的に取り組み、十分な成果をあげています。

炎症性腸疾患である潰瘍性大腸炎の劇症型に対しては、免疫抑制剤を使用しています。一方、まだ国内で認可されていない新薬に対する治療 (国に認められた臨床試験) にも積極的に参加し、多くの患者様にご案内申し上げます。このように消化器内科では多岐にわたる消化器疾患に対して、最先端の治療を受けることが可能です。

(詳細はホームページをご覧ください。)

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診察日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
たなか もとひこ 田中 基彦	准教授	肝癌、慢性肝疾患	○ ◎			○ ◎		日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本消化器内視鏡学会専門医
なおえ ひであき 直江 秀昭	講師	消化管疾患全般	○ ◎			○ ◎		日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本がん治療認定医機構認定医
たてやま まさくに 立山 雅邦	助教	慢性肝炎、肝癌		○	○ ◎			日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医
わたなべ たけひさ 渡邊 丈久	助教	肝疾患全般、NASH/NAFLD				○ ◎		日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医・暫定指導医
ながおか かつや 長岡 克弥	特任助教	消化器疾患全般			○ ◎			日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医、がん治療認定医機構認定医
はしご しゅんぺい 階子 俊平	特任助教	胆・膵疾患、EUS-FNA	○ ◎					日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本胆道学会認定指導医
かわさき たけし 川崎 剛	特任助教	肝疾患全般				○ ◎		日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医
くしま りょうすけ 具嶋 亮介	特任助教	消化管疾患の診断と治療、消化管病理				○ ◎		日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、日本がん治療認定医機構認定医
みやもと ひであき 宮本 英明	特任助教	消化管悪性腫瘍、胆膵悪性腫瘍			○ ◎			日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、がん薬物療法専門医、日本肝臓学会専門医
よしまる ようこ 吉丸 洋子	医員	肝疾患全般	○ ◎					日本内科学会認定内科医・指導医
おやましんいちろう 小山真一郎	医員	消化管疾患の診断と治療					○ ◎	日本内科学会認定内科医
ふるた ようき 古田 陽輝	医員	消化管疾患全般、炎症性腸疾患	○ ◎					日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医
おばた まさひろ 小畑 雅寛	医員	胆・膵疾患全般						日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医
まつの けんし 松野 健司	医員	消化器疾患全般					○ ◎	日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医
やまさき あきら 山崎 明	医員	消化器疾患全般	○ ◎					日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医
いわさき はじめ 岩崎 肇	医員	消化器疾患全般				○ ◎		日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医
とくなが たかゆき 徳永 堯之	医員	消化器疾患全般					○ ◎	日本内科学会認定医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医
たきがわ ゆきこ 瀧川有記子	医員	消化器疾患全般		○				日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

ひがし 東	てつお 哲生	医 員	消化器疾患全般						日本内科学会認定内科医
ほんだ 本田	むねのり 宗倫	大学院生	消化器疾患全般			○ ○			日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
たなかけん 田中健太郎	たろう	医 員	消化器疾患全般					○ ○	日本内科学会認定医
ならはら 檜原	さとし 哲史	医 員	消化器疾患全般	○ ○					日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医
ひのくま 日隈ゆかり		医 員	消化器疾患全般						
つるた 鶴田	ゆいこ 結子	医 員	消化器疾患全般						
おおつか 大塚	ふみや 郁弥	医 員	消化器疾患全般						
おおの 大野	けん 健翔	医 員	消化器疾患全般						
くろいわ 黒岩	ともひろ 朋裕	医 員	消化器疾患全般						
ささき 佐々木	ひろあき 大晃	医 員	消化器疾患全般						
たけの 竹野	ひろし 洋司	医 員	消化器疾患全般						
のがみ 野上	すずか 鈴夏	医 員	消化器疾患全般						
まみつかだい 馬見塚大悟	ご	医 員	消化器疾患全般						
よねだ 米田	あきら 暁	医 員	消化器疾患全般						

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<p>◎肝・胆・膵疾患 急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害、自己免疫性肝炎、NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）、劇症肝炎、胆石、胆のう炎、胆のう癌、胆管癌、膵癌、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎</p> <p>◎消化器疾患 食道・胃・大腸癌、胃・十二指腸潰瘍、食道・胃静脈瘤、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、逆流性食道炎、GIST</p>	<p>腹部超音波 CT MRI 血管造影 IVR CT 肝生検（超音波ガイド下） 超音波内視鏡 内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP) 上部消化管内視鏡 下部消化管内視鏡 小腸内視鏡 拡大内視鏡 胆道内視鏡 カプセル内視鏡</p>	<p>インターフェロン療法 抗ウイルス療法 エタノール注入療法（PEI） ラジオ波焼灼療法（RFA） 肝動脈塞栓療法（TAE） リザーバ動注化学療法 肝癌ワクチン療法 内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST） 内視鏡的逆行性胆道ドレナージ（ERBD） 経皮内視鏡的胃ろう造設術（PEG） 放射線化学療法 化学療法 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD） 内視鏡的静脈瘤硬化療法（EIS） 内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL） アルゴンプラズマ熱凝固療法（APC） 白血球除去療法</p>

診療科長



まつおか まさお
松岡 雅雄
(教授)

●診療科の紹介

血液内科では、血液疾患全般の診断・治療を行っています。血液疾患は貧血、異常出血を始め、発熱、リンパ節腫脹、肝臓・脾腫大などで発症することが多い病気です。また、特に症状はなくても、血液検査の異常で見つかる患者様もいらっしゃいます。

当科では、さまざまな血液悪性腫瘍の診断・治療を行っており、急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫や成人T細胞白血病の治療などで全国の臨床治療研究に参加しています。また、平成7年度より悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などに対して、自家末梢血幹細胞移植を行っており、平成24年度から白血病をはじめとするさまざまな血液疾患に対して同種造血幹細胞移植を開始しています。

血液内科の病棟は無菌室8床と準無菌室5床を有しており、造血幹細胞移植時などに患者様に入室頂き、併設の感染免疫診療部と協力しながら、感染症の予防と血液疾患患者様に発生した感染症の治療を行っています。

当科では、血液疾患の治療に際し、患者様とご家族へ十分なお説明を行い、ご理解とご協力をいただいた上で治療を行います。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診察日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
まつおか まさお 松岡 雅雄	診療科長 教授	血液内科学、ヒトレトロウイルス学			○			日本血液学会評議員、日本癌学会評議員、日本ウイルス学会評議員、日本ウイルス学会理事、日本HTLV-1学会理事、日本学術会議連携会員
まつした しゅうぞう 松下 修三	教授	HIV 感染症					◎	日本エイズ学会理事長、日本遺伝子治療細胞療法学会評議員、国際エイズ学会理事(アジア・パシフィック地域)、日本内科学会認定内科医、日本エイズ学会認定医、日本エイズ学会指導医
はた ひろゆき 畑 裕之	教授	多発性骨髄腫						日本血液学会評議員、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本骨髄腫患者の会顧問医師、International Myeloma Foundation Scientific Advisory Member
かわぐち たつや 川口 辰哉	客員教授	血液内科学、感染症、院内感染制御					◎	日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会指導医、日本血液学会認定血液専門医、日本血液学会認定血液指導医、日本血液学会評議員、日本化学療法学会評議員、インフェクションコントロールドクター(ICD)、PNH 研究会理事
のさか きさと 野坂 生郷	准教授	成人T細胞白血病、悪性リンパ腫					◎ ◎	日本内科学会認定内科医、日本内科学会指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会認定血液専門医、日本血液学会認定血液指導医、日本がん治療認定医機構認定医、インフェクションコントロールドクター、日本輸血細胞治療学会認定医、抗菌薬適正使用認定医、がん薬物療法専門医、がん薬物療法指導医、抗菌化学療法認定医、日本血液学会評議員
よねむら ゆうじ 米村 雄士	講師	血液疾患全般、輸血医学、細胞治療学、造血幹細胞	◎					日本輸血・細胞治療学会認定医、日本輸血・細胞治療学会評議員、日本血液学会評議員、サイトメトリー学会理事、細胞治療認定管理師
なかた ひろとも 中田 浩智	講師	免疫不全、感染症、院内感染制御	◎		◎			日本内科学会認定内科医、インフェクションコントロールドクター(ICD)、抗菌化学療法指導医、日本エイズ学会認定指導医、日本感染症学会認定感染症専門医、日本血液学会認定血液専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会認定血液指導医
うちば みつひろ 内場 光浩	助教	血液疾患全般、輸血医学、凝固線溶学		◎				日本輸血学・細胞治療学会認定医、日本輸血・細胞治療学会理事、日本輸血・細胞治療学会九州支部長、日本血栓止血学会代議員
いわた えいさく 岩永 栄作	助教	血液疾患全般					◎	日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医、日本内科学会総合内科専門医
うえの しきこ 上野志貴子	助教	血液疾患全般		◎ 午後のみ			◎	日本内科学会認定医、日本血液学会認定血液指導医、日本内科学会認定指導医、日本血液学会認定血液専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本旅行医学会認定医
たてつ ひろ 立津 央	助教	血液疾患全般					◎	日本内科学会認定指導医、日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本血液学会認定血液専門医、日本血液学会認定血液指導医、日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医
とくなが けんじ 徳永 賢治	助教	血液疾患全般	◎					日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医、日本血液学会認定血液指導医
かわの やわら 河野 和	助教	多発性骨髄腫、形質細胞性疾患	◎		◎			日本内科学会認定内科医、日本骨髄腫学会代議員
えんどう しんや 遠藤 慎也	特任助教	血液疾患全般						日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医
うえの にいな 上野 二菜	医員	血液疾患全般						日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医
いとうえ よしたか 井上 明威	医員	造血細胞移植、悪性リンパ腫	◎				◎	日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医、日本血液学会認定血液指導医、日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医、日本輸血・細胞治療学会認定医、日本内科学会総合内科専門医
たかき み 高木あゆ美	医員	血液疾患全般						日本輸血・細胞治療学会認定医、日本内科学会認定内科医
ふるた りえ 古田 梨愛	医員	血液疾患全般						日本内科学会認定内科医、日本医師会認定産業医
やまむら あやこ 山村 綾子	医員	血液疾患全般						日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医

つじはし 辻橋みずほ	医 員	血液疾患全般							日本内科学会認定内科医
やまだ あさみ 山田 麻美	医 員	血液疾患全般							日本内科学会認定内科医
いまかね だいすけ 今金 大輔	医 員	血液疾患全般							
むらい まさゆき 村井 優之	医 員	血液疾患全般							
かみや ちはる 神谷 千晴	医 員	血液疾患全般							
くどう 工藤ひまり	医 員	血液疾患全般							
はなだ たかし 花田 駿志	医 員	血液疾患全般							
むらた かつみ 村田 克美	医 員	血液疾患全般							

※月・水・木・金の初診担当は当番制

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<p>◎貧血 貧血全般、溶血性貧血、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群など</p> <p>◎血液がん 急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、成人T細胞白血病など</p> <p>◎骨髄増殖性疾患 多血症、骨髄繊維症、血小板増多症など</p> <p>◎凝固異常 血友病、血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固症候群など</p>	<p>採血と骨髄穿刺を行うことで、末梢血や造血の場である骨髄中の細胞数や形態を調べさせていただきます。これら血液形態学的検査に加えて、特殊染色、細胞表面マーカー、血液細胞にふくまれる染色体や遺伝子の検査を組み合わせることで確定診断を行っています。</p> <p>悪性リンパ腫、成人T細胞性白血病などの、リンパ球系の疾患においては、腫大したリンパ節を一部採取し、病理組織検査を行うことで、確定診断と治療方針の決定を行っています。</p> <p>さらに、病変の広がりや評価し、感染症などの併存疾患を検索するために、CT、MRI、FDG-PET等の各種画像検査を併用しています。</p>	<p>国内外のエビデンス（科学的根拠）や各種ガイドラインに基づいた、いわゆる標準治療を行う事を基本としています。また本邦からのエビデンスを発信すべく様々な臨床試験や新薬の治験も積極的に行っています。同種造血幹細胞移植も年間10-15件実施しています。</p> <p>◎急性白血病 複数の抗がん剤を組み合わせた強力な多剤併用化学療法による治療が基本となります。さらに病型、リスク因子などに基づき同種造血幹細胞移植が必要となることがあります。現在、当科では寛解導入治療から移植までスムーズに行える体制が整っています。ご高齢あるいは合併症をお持ちの方など、強い化学治療が困難な場合には、体力に応じた治療法を工夫しています。</p> <p>また当科はJALSG（日本成人白血病治療共同研究グループ）に参加している施設で、新規治療の開発、共同研究も盛んに行っています。</p> <p>◎慢性白血病 慢性骨髄性白血病は、分子標的治療薬であるチロシンキナーゼ阻害薬にて大幅な生命予後改善が得られるようになり、基本的には外来での治療管理を行っています。国内外の多施設共同臨床試験にも参加しています。慢性リンパ性白血病では抗体療法と抗がん剤の組み合わせを行っています。</p> <p>◎多発性骨髄腫 最近では、様々な新薬が使用できるようになりました。従来からの（殺細胞性）抗がん剤だけでなく、プロテアソーム阻害剤、免疫調節薬（レナリドマイドやサリドマイドなど）の登場で生命予後の大きな改善が得られるようになりました。生活の質を落とさないようにするため骨関連事象（骨折など）の予防にビスホスホネートやデノスマブも使用しています。また比較的若年の方には、自家末梢造血幹細胞移植を併用した大量化学療法も行っています。</p> <p>◎悪性リンパ腫 悪性リンパ腫には様々な組織型が存在し、それぞれに応じた標準治療を行っています。抗体療法（リツキシマブ、モガムリズマブなど）や自家末梢造血幹細胞移植を併用した大量化学療法の経験も豊富です。イブリットモマブチウキセタン（ゼパリン®）使用も可能な施設であり、症例ごとに最適な治療を提供しています。</p> <p>また、当科はJCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）参加施設でもあり新しい標準治療の確立と進歩を目的として様々な研究活動（多施設共同臨床試験）を行っています。</p> <p>悪性リンパ腫や多発性骨髄腫では、入院で治療導入を行った後、外来化学療法への移行も積極的に行っています。</p> <p>当科は血液系の腫瘍に関しては、化学療法（抗がん剤治療）と造血幹細胞移植を専門とする診療科です。しかし、集学的治療とって放射線治療や手術療法が必要となる場合もあります。その際は各診療科と連携をとり治療にあたります。</p> <p>また、緩和ケアを積極的に導入しています。緩和ケアというと終末期のケアを思い浮かべる方も多いと思いますが、そうではなくがん治療などに伴う患者様とご家族のさまざまな苦痛を予防し緩和することを意味します。当科では強力な化学療法や造血幹細胞移植の際に無菌室に入ってくださいこともあります。治療に伴う身体的な症状（抗がん剤使用による口腔・喉頭の疼痛や嘔気など）に加えて、慣れない無菌室での生活や予後への不安など精神的な苦痛を感じられる患者様もおられます。現在ではがん治療の初期段階から、種々の治療と共に緩和ケアを行うことが望ましいとされており、当院の緩和ケアチームと連携を図り診療にあたっております。</p> <p>◎良性疾患について 再生不良性貧血、赤芽球病、骨髄異形成症候群、溶血性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症など多くの難治性貧血に関して、厚生労働省の調査研究班の「診療の参照ガイド」に準拠した診療を行っています。新規治療薬の導入も積極的に行っており、分子標的療法、生物学的製剤（発作性夜間血色素尿症PNHに対するエクリズマブや特発性血小板減少性紫斑病ITPに対するロミプロスチムやエルトロノボグ）も使用可能にしています。骨髄異形成症候群には同種造血幹細胞移植も行っています。</p> <p>また、凝固線溶系疾患は血液疾患の中でも希少な分野とされていますが、当科では凝固線溶系疾患を専門とする医師が在籍しており、これらの疾患に対する診断、治療、院内院外からのコンサルティンクを受けています。</p> <p>また、入院ベッド数などの医療資源には限りがありますが、熊本市内、熊本県内には当科出身の医師やご協力を頂いている関連施設が多数あり、緊密な連携をとりながら診療にあたっています。</p> <p>医学の急速な発展に伴い、新規薬剤も次々と登場しています。欧米で使用可能な薬剤が国内で未承認であるなど、いわゆるドラッグラグ（外国では使用されているのに日本国内での採用が遅れていて使用できないこと）の問題なども生じており、血液疾患でも例外ではありません。しかし、当科においては治験など特殊な例を除き、基本的には国内の保険診療に準拠した治療を行っています。</p>

診療科長



まつおか まさお
松岡 雅雄
(教授)

●診療科の紹介

当科では、全身性の自己免疫疾患である膠原病、リウマチ性疾患の診療を行っています。県内外からの紹介患者様を受け入れ、大学病院の特長である高い専門性と最新の医療機器を駆使し、臨床各科と連携することで、最新の診療を心掛けています。膠原病は病気そのものや、治療により、易感染状態になることがあります。当科では、血液内科と感染免疫診療部と併設されていることもあって、血液疾患治療や免疫不全の患者様への支持療法の経験を十分に活かした積極的な治療を行っています。

膠原病は、下記の「主な診療領域」に示した疾患の集まりです。また、消化器や呼吸器のような特定の臓器疾患とは異なり、全身性の疾患です。発生頻度が稀な疾患から、比較的好くみられる疾患まで多岐にわたります。

膠原病の原因の多くは、自己に対する異常な免疫反応によるものです。この異常が、全身で、特に結合組織を中心に起こることを特徴としています。症状としては、発熱、関節痛、関節のこわばり、手指の腫脹、全身倦怠感、レイノー現象、口腔乾燥など様々な症状が見られます。

このように全身に様々な症状が出現することや、発生頻度が稀なことから、一般に膠原病は診断や治療が難しいことがあります。しかしながら、膠原病は正確に診断し、適切に治療すれば、多くの患者様で症状は改善され、場合によっては治癒が期待できます。

近年の膠原病領域の進歩は著しく、特に関節リウマチでは診断法や治療法が飛躍的に向上しました。診断の面では、リウマチ因子や、抗CCP抗体に加えてMRIやエコーなどを組み合わせることで早期に正確に診断することができるようになりました。治療の面では、生物学的製剤が登場してから、治療成績が画期的に進歩し、今まで不治とされていましたが、治癒も期待できるようになりました。事実、関節リウマチの治療は「care (療養)」から「cure (治癒)」へと進んできたと言われて来ています。さらに、この生物学的製剤の効果が乏しい場合にも有効なJAK阻害剤も使用されています。また、最近ではIgG4関連疾患や自己炎症症候群など新しい疾患概念も登場しています。治療の面でも、肺高圧症治療薬の登場や免疫グロブリン大量静注療法の適応拡大など治療が日々進歩しています。

膠原病の代表的な治療法にはステロイド療法や免疫抑制療法などがあります。一方で、その副作用もよく知られておりますが、現在は副作用対策が進歩して、より安全に治療を受けられるようになってきています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
まつおか まさお 松岡 雅雄	診療科長 教授	血液内科学、ヒトレトロウイルス学						日本血液学会評議員、日本癌学会評議員、日本ウイルス学会評議員、日本HTLV-1学会理事、日本学術会議連携会員
ひらた しんや 平田 真哉	講師	膠原病、リウマチ内科学		○	◎			
みやがわ えいこ 宮川 英子	医員	膠原病、リウマチ内科学		◎			○	日本内科学会認定内科医
ふるた りえ 古田 梨愛	医員	膠原病、リウマチ内科学					◎	日本内科学会認定内科医、日本医師会認定産業医
つじはし 辻橋みずほ	医員	膠原病、リウマチ内科学					◎	日本内科学会認定内科医
みずはし ゆみこ 水橋由美子	医員	膠原病、リウマチ内科学				○	◎	日本内科学会認定内科医
むらい まさゆき 村井 優之	医員	膠原病、リウマチ内科学					◎	
いわくら みかこ 岩倉未香子	非常勤 診療医師	膠原病、リウマチ内科学					◎	日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会認定リウマチ専門医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<p>膠原病・リウマチ性疾患、および類縁疾患全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関節リウマチ ・悪性関節リウマチ ・全身性エリテマトーデス ・強皮症 ・多発性筋炎・皮膚筋炎 ・混合性結合組織病 ・オーバーラップ症候群 ・抗リン脂質抗体症候群 ・シェーグレン症候群 ・IgG4関連疾患 ・結節性多発動脈炎 ・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 ・多発血管炎性肉芽腫症 ・顕微鏡的多発血管炎 ・大動脈炎症候群（高安動脈炎） ・成人発症スティル病 ・側頭動脈炎・巨細胞性動脈炎 ・リウマチ性多発筋痛症 ・RS3PE 症候群 ・ベーチェット病 ・強直性脊椎炎 ・サルコイドーシス ・痛風 ・乾燥性関節炎 ・SAPHO など 	<p>検査所見も重要ですが、実際に患者様からよく問診、理学所見をとることが最も重要と考えています。</p> <p>当科では紹介状の内容や患者様に記入していただく問診票を大変参考にしています。初発症状や症状が一日の中でいつ強いのか、発熱はあるか、関節痛はあればどの部位なのか、左右対称性であるかなどで、検査をする前に疾患を絞り込むことができます。</p> <p>次に、一般的な血液像、血液生化学検査、炎症反応等でさらに疾患を絞り込み、各種自己抗体検査を組み合わせで施行しています。さらに病態に応じてレントゲンやCT、MRI、エコー、RI 検査など画像検査を施行しています。疾患、病態ごとに最も適切な検査を迅速に行い、速やかに診断、治療に至ることができるように努めています。</p>	<p>◎関節リウマチ</p> <p>近年、新しい抗リウマチ薬の登場により、治療法が劇的に変化しています。これにより、単に痛みをとることではなく、これまでは到達が難しかった「寛解」、すなわち関節リウマチという病気の活動性・炎症を抑え、関節の破壊を防ぐことが目標とできる時代になってきました。</p> <p>当科でも、関節リウマチに対する厳格な治療を目指した「Treat to target (T2T)」に基づいた治療を進めています。具体的には早期からメソトレキセートを中心とした抗リウマチ薬を積極的に用いて、発症後、可能な限り短期間で「寛解」を得られるように努めています。これらの治療に抵抗性の場合には、適切な時期に患者様の病態に合った生物学的製剤・JAK 阻害剤を選択して導入しています。また、関節の腫脹や疼痛などの症状の軽減には即効性の高いNSAIDs や少量のステロイドを用いて、苦痛の軽減を図っています。</p> <p>一方で、これらの薬剤には様々な副作用が発現する可能性が知られております。しかし、当科で培った豊富な経験を生かして、副作用の予防と早期発見に努めて、患者様に安全な医療を提供することができるようにスタッフ一同日々研鑽を重ねています。</p> <p>◎全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎、血管炎症候群など</p> <p>大学病院の特性を生かして様々な科と連携しながら、診断と重症度を評価した上で、適正な量と種類のステロイドや免疫抑制剤を使用します。重篤な副作用として感染症の合併がありますが、血液疾患治療や免疫不全の患者様への支持療法の経験を生かして慎重に対策をしながら積極的な治療を行っています。</p> <p>拳児希望の方や妊娠された方には病状を評価し、本人やご家族とよく相談しながら治療薬の選択をしています。</p> <p>◎ベーチェット病</p> <p>症状により、NSAIDs、コルヒチン、免疫抑制剤、必要な場合にはステロイドや生物学的製剤を選択、併用します。眼症状に対しても眼科と密接に連携して治療を行っています。</p>

診療科長



むこうやま まさし
向山 政志
(教授)

●診療科の紹介

腎臓内科では腎炎・ネフローゼ、腎不全、高血圧、電解質異常など、腎疾患全般の専門総合診療を担当しています。

血尿・蛋白尿や腎機能低下がある場合には、疾患の経過、腎機能、尿蛋白量を評価し、腎生検による確定診断と治療方針の決定を行っています。

腎生検の組織で疾患活動性が高い場合には、Evidence-Based Medicineに基づいたステロイド療法、エンドキサンパルス療法やシクロスポリンなどの免疫抑制剤の投与、さらに必要に応じて血液中の原因物質を除去する血液吸着療法・血漿交換療法を行い、個々の症例の年齢、基礎疾患、合併症に加えて社会的背景も考慮した最良の治療選択を行っています。

慢性腎不全の治療としては食事療法と高血圧のコントロールに特に注意しています。食事療法は、減塩(6g/日)および高カロリー(30~35kcal/kg)、低蛋白(0.6~0.8g/kg)が基本ですが、具体的な説明は担当医とともに栄養管理室の栄養士が行っています。

残念ながら末期腎不全に至った場合は、適切な時期に透析や腎移植などの腎代替療法が必要になります。透析には血液透析と腹膜透析の2つの方法があり、専門医の指導のもと、安全に治療を行っています。腎移植についても十分な情報を提供した上で最適な治療方法を選択していただきます。

一方、高血圧のコントロールは、まず食事の塩分制限と、肥満のある症例では適切な食事療法、運動療法で生活習慣の是正をはかり、薬物療法としては腎保護および尿蛋白減少効果が証明されているアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬やアンジオテンシンII受容体拮抗薬(ARB)を積極的に使用しています。定期的に尿蛋白測定を実施し、治療効果の判定を行っています。

高血圧は、腎臓だけではなく、心臓や脳などの様々な臓器に障害を来す重要な疾患です。高血圧には、原因の明らかでない本態性高血圧と原因のある二次性高血圧があります。二次性高血圧には糖尿病性腎症や慢性糸球体腎炎などの腎障害に起因する腎実質性高血圧、腎動脈の狭窄による腎血管性高血圧、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などによる内分泌性高血圧、薬剤による薬剤性高血圧などがあります。この二次性高血圧は原疾患の診断が重要になりますが、当科では日本高血圧学会専門医が的確な診断および治療を行っています。

■スタッフ紹介

外来診療日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
むこうやま まさし 向山 政志	教授	腎炎、腎不全、高血圧、内分泌疾患、電解質異常				◎		日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本高血圧学会専門医・指導医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医
いのうえ ひでき 井上 秀樹	特任准教授	腎炎、腎不全、高血圧、腹膜透析			◎		◎	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
くわばら たかしげ 栗原 孝成	講師	腎炎、腎不全、高血圧、糖尿病性腎症	◎				◎	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医
あだち まさたか 安達 政隆	助教	腎炎、腎不全、高血圧、尿管管疾患				◎	◎	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本高血圧学会専門医・指導医
いずみ ゆういちろう 泉 裕一郎	助教	腎炎、腎不全、高血圧、尿管管疾患		◎			◎	日本内科学会認定医・指導医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医
かぎぞえ ゆたか 柿添 豊	助教	腎炎、腎不全、高血圧、尿管管疾患		◎			◎	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本透析医学会専門医、日本腎臓学会専門医、日本高血圧学会専門医・指導医
はやた まなぶ 早田 学	助教	腎炎、腎不全、急性腎障害	◎		◎			日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医、日本集中治療医学会専門医
みずもと てるひこ 水本 輝彦	特任助教	腎炎、腎不全、高血圧、尿管管疾患						日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医
なかがわ てるまさ 中川 輝政	特任助教	腎疾患全般						日本内科学会認定医・指導医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医
なかがわ みゆき 中川美悠紀	医員	腎疾患全般						日本内科学会認定医・指導医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医
みうら れい 三浦 玲	医員	腎疾患全般						日本内科学会認定医・指導医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医
まつなが あいこ 松永 愛子	医員	腎疾患全般						日本内科学会認定医・指導医、日本透析医学会専門医
とみなが あき 富永 亜希	医員	腎疾患全般						
しまさき あきこ 嶋崎 明子	医員	腎疾患全般						
なかむら たかし 中村 敬志	医員	腎疾患全般						
ながよし ゆう 永芳 友	医員	腎疾患全般						

おだ 小田	あきら 晶	非常勤 医師	腎疾患全般		●			日本内科学会認定医、日本透析医学会専門医、日本腎臓学会専門医
うえだ 植田	みき 美紀	非常勤 医師	腎疾患全般					日本内科学会認定医、日本透析医学会専門医、日本腎臓学会専門医
おかむら 岡村	けいこ 景子	非常勤 医師	腎疾患全般					日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本腎臓学会専門医、日本透析学会専門医
まつお 松尾	なほみ 尚美	非常勤 医師	腎疾患全般					日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医、日本透析学会専門医
やまさき 山崎	ともこ 朋子	非常勤 医師	腎疾患全般					日本内科学会認定医、日本透析医学会専門医
のぶおか 信岡	まみこ 真美子	非常勤 医師	腎疾患全般					日本内科学会認定医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<p>◎腎疾患 急性及び慢性腎炎、ネフローゼ症候群、急性及び慢性腎不全、透析、糖尿病性腎症、ループス腎炎、膠原病</p> <p>◎高血圧症</p>	<p>◎蓄尿や検尿による詳細な腎炎、腎機能の評価</p> <p>◎腎生検診断： 超音波ガイド下での針生検にて確定診断を行い治療方針を決定する（要入院）</p> <p>◎二次性高血圧、中でも腎血管性高血圧や内分泌性高血圧の診断において必要とされる詳細な検査（負荷試験や画像検査）を行う（要入院）</p>	<p>◎食事療法：減塩、高カロリー低蛋白食等</p> <p>◎ステロイドや免疫抑制剤による治療</p> <p>◎血液浄化療法や腹膜透析の導入及び合併症治療</p> <p>◎内シャント作製、シャントトラブルの治療（経皮的血管拡張術）</p> <p>◎腹膜透析カテーテル挿入</p> <p>◎IgA腎症に対する口蓋扁桃摘出術＋ステロイドパルス療法</p> <p>◎多発性嚢胞腎に対するバソプレシン受容体拮抗薬治療の導入</p>

診療科長



あらき えいいち
荒木 栄一
(教授)

●診療科の紹介

糖尿病・代謝・内分泌内科は、代謝・内分泌疾患について診療を行っています。代表的な代謝疾患としては糖尿病、脂質異常症、動脈硬化症、高尿酸血症、肥満症、などがあり、内分泌疾患として甲状腺疾患（バセドウ病・橋本病・甲状腺腫瘍・バセドウ眼症など）、下垂体疾患（先端巨大症・クッシング病・尿崩症・下垂体腫瘍など）、副腎疾患（クッシング症候群・原発性アルドステロン症・副腎腫瘍など）があります。糖尿病については病型・病期に応じた最適な血糖コントロールを行うとともに、網膜症、腎症、神経障害などの最小血管や大血管合併症を検査するための特殊外来を設けており、神経伝導速度・自律神経検査・眼底検査・尿中マイクロアルブミン検査・頸動脈超音波検査・血圧脈波検査などにより総合的な合併症の評価と治療を行っています。

虚血性心臓病・脳血管障害・末期腎不全・高度の糖尿病網膜症に対しては専門診療科と連携して適切な治療を提供しています。また教育入院や入院・外来患者様を対象とした糖尿病教室を行い、正確な知識の普及に努めています。その他、脂質異常症・動脈硬化症・肥満症についても専門外来と専門診療科を行っています。

内分泌疾患についても下垂体、甲状腺、副腎などの疾患に対し、各種負荷試験や画像検査を行い専門診療科を行っています。また、外科的治療が必要な場合には専門診療科と連携して適切な治療を提供しています。特に甲状腺疾患は特殊外来日を設け、エコーによる画像診断を行い、必要時は穿刺吸引針生検により診断を確定しています。近年増加してきた副腎偶発腫に対してはクリティカルパスにより機能診断と治療方針の決定を行い、機能性腫瘍に対しては専門外科系診療科と連携して腹腔鏡手術を含む治療を提供しています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再来 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
あらき えいいち 荒木 栄一	教授	糖尿病、内分泌・代謝			○ ◎		○ ◎	日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会認定専門医、日本糖尿病学会認定研修指導医、日本内分泌学会認定指導医、日本老年医学会認定指導医、日本病態栄養学会認定病態栄養専門医、日本肥満学会肥満症専門医
まつむら たけし 松村 剛	准教授	糖尿病、内分泌・代謝、脂質異常症	○ ◎				○ ◎	日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会認定専門医、日本糖尿病学会認定研修指導医、日本動脈硬化学会専門医、日本動脈硬化学会認定指導医
こんどう たつや 近藤 龍也	講師	糖尿病、内分泌・代謝		○ ◎		○ ◎		日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会認定専門医、日本糖尿病学会認定研修指導医、日本内分泌学会認定専門医、日本内分泌学会認定指導医
もとしま ひろゆき 本島 寛之	特任 准教授	糖尿病、内分泌・代謝	○ ◎	○ ◎				日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会専門医、日本糖尿病学会認定研修指導医
かわしま じゅんじ 河島 淳司	助教	糖尿病、内分泌・代謝			○ ◎	○ ◎		日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会認定専門医、日本内分泌学会認定専門医、日本内分泌学会認定指導医
せのくちたかふみ 瀬ノ口隆文	助教	糖尿病、内分泌・代謝			○ ◎		○ ◎	日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会認定専門医、日本動脈硬化学会認定指導医
よしなが かよ 吉永 佳代	特任助教	糖尿病、内分泌・代謝		○ ◎	○ ◎			日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定指導医、日本内分泌学会専門医
いがた もとゆき 井形 元維	助教	糖尿病、内分泌・代謝				○ ◎		日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会認定専門医、日本糖尿病学会認定研修指導医、日本内分泌学会専門医
いしい のりお 石井 規夫	特任助教	糖尿病、内分泌・代謝	○ ◎			○ ◎		日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会認定専門医、日本動脈硬化学会認定専門医
さかぐち まさし 阪口 雅司	特任助教	糖尿病、内分泌・代謝					○ ◎	
はなたに さとこ 花谷 聡子	特任助教	糖尿病、内分泌・代謝			○ ◎			
おの かおる 小野 薫	診療助手	糖尿病、内分泌・代謝						(ICUへ出向)
さとう あきこ 佐藤 明子	医員	糖尿病、内分泌・代謝						日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会認定専門医
きたの 北野さやか	医員	糖尿病、内分泌・代謝						日本内科学会認定内科医
かじはら のぶひろ 梶原 伸宏	医員	糖尿病、内分泌・代謝				○ ◎		日本内科学会認定内科医
にしだ さいこ 西田 彩子	医員	糖尿病、内分泌・代謝						日本内科学会認定内科医

たまのい あい 玉野井 愛	医 員	糖尿病、内分泌・代謝						
のだ かおり 野田 花織	医 員	糖尿病、内分泌・代謝						
よ なみねしんいち 与那嶺真一	医 員	糖尿病、内分泌・代謝						
いりえこうしろう 入江晃士朗	医 員	糖尿病、内分泌・代謝						
おおつか ゆり 大塚 由理	医 員	糖尿病、内分泌・代謝						
こばやし ゆか 小林 由佳	医 員	糖尿病、内分泌・代謝						
ふるかわ のぼる 古川 昇	臨床医学 教育研究 センター 准教授	糖尿病、内分泌・代謝	○ ○					日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定 医、日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会認 定専門医、日本糖尿病学会認定研修指導医
しもだ せいや 下田 誠也	熊本県立 大学教授 非常勤 診療医師	糖尿病、内分泌・代謝	○ ○ (第4週)					日本内科学会認定医、日本糖尿病学会認定専門医、 日本糖尿病学会認定研修指導医、日本内分泌学会 認定専門医
ごとうりえこ 後藤理英子	地域医療支 援センター 特任教授	糖尿病、内分泌・代謝		○ ○				日本内科学会認定内科医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<p>(1) 糖尿病 口渇、多飲多尿、手足のしびれ、 視力障害、発汗異常、立ちく らみなどの症状、尿糖陽性、 高血糖などの検査異常</p> <p>(2) 脂質異常症、動脈硬化症 黄色腫、高コレステロール血 症・高中性脂肪血症等の検査 異常</p> <p>(3) 高血圧症 血圧の上昇、めまい、ふらつき、 頭痛、頭重感</p> <p>(4) 内分泌疾患 (ア) 下垂体疾患 (イ) 甲状腺疾患 頸部腫れ・しこり、動悸・ 発汗、浮腫など (ウ) 副腎 比較的若い年齢での高血 圧症、超音波・CT・MRI などで偶然みつかった副 腎線腫</p> <p>(5) その他の代謝性疾患 (肥満症、痛風・高尿酸血症、 骨粗鬆症)</p>	<p>〈糖尿病、脂質異常症、高血圧症、動脈硬 化症〉 血液、尿検査による血糖値、HbA1c、コ レステロール、中性脂肪といった生活習慣 病関連の項目の他、腎機能、肝機能検査等 を行います。糖尿病については、糖負荷試験 による糖尿病の診断、グルカゴン負荷試験 によるインスリン分泌能の評価、また、人 工膵島を用いたインスリン抵抗性の評価も 行います。さらに、皮下連続式グルコース 測定システム (Continuons Glucose Monitoring System;CGMS) を用い、 1～2週間の血糖値の変動を連続してモニ タリングすることにより、適切な治療の 選択やインスリン量の調節を行います。ま た、糖尿病の合併症の検査として眼底検査、 自律神経検査、尿蛋白定量検査、動脈硬化 の度合いを調べる検査 (頸動脈エコー、足 関節上腕血圧比 (ABI)、脈波伝搬速度 (PWV) を実施しています。</p> <p>〈内分泌疾患〉 血液、尿検査による各種ホルモン検査、 負荷試験に加えて、画像検査 (甲状腺エ コー、CT、MRI、シンチグラム) を行い ます。</p> <p>〈その他代謝性疾患〉 血液、尿検査による生活習慣病関連の項 目の他、肥満症では腹部 CT による内臓/ 皮下脂肪分布の評価、骨粗鬆症では病気の 程度や治療効果を評価するための骨塩定量 を行っています。</p>	<p>〈糖尿病、脂質異常症、高血圧症、動 脈硬化症〉 食事療法、運動療法による生活習慣 の改善を行い、効果が不十分な場合に は薬物療法を行います。糖尿病におけ る薬物療法にはインスリン療法も含ま れますが、当科では厳格な血糖管理を 行うための強化インスリン療法を積極 的に導入しています。さらに、インス リンポンプ療法、あるいは皮下連続式 グルコース測定システム (CGMS) とインスリンポンプを連動させた、 SAP (Sensor Augmented Pump) 療法などの先進的な糖尿病治療を提 供します。また、合併症として虚血性心 疾患、脳血管障害、腎不全、高度の糖 尿病網膜症を認めた場合、専門診療科 と連携して適切な治療を行います。</p> <p>〈内分泌疾患〉 薬物療法による内科的治療、手術に よる外科的治療及び放射線治療があり、 手術や放射線治療が必要な場合には専 門治療科と連携、適切な治療を提供し、 さらに治療後に必要となるホルモン補 充療法を行っています。</p>

循環器内科

医局 373-5175
外来 373-5553
病棟 373-7418

診療科長



つじた けんいち
辻田 賢一
(教授)

●診療科の紹介

県内唯一の特定機能病院として、あらゆる心血管疾患を診療します。

- ・狭心症 / 心筋梗塞：画像 / 最新機器を駆使した最先端カテーテル治療。
- ・不整脈：カテーテル心筋焼灼術、ペースメーカーなどのデバイス。
- ・弁膜症：TAVI などのカテーテル治療と心臓手術を適宜選択。
- ・心不全：補助人工心臓 / インペラ / 心臓再同期療法 / 移植など集学的心不全治療。
- ・リードレスペースメーカー、感染リード抜去。

2017年より内科 / 外科合同の「心臓血管センター」を設置し、ドクターカー、ドクターヘリによる循環器救急医療を展開し、多くの命を救命しています。しかしながら救命できても心筋梗塞の発症は患者さんの生活の質を低下させます。心筋梗塞を防ぎ健康長寿を延伸すべく、早期発見早期治療をお勧めします。専門性の高い高度な先進医療を行い、健康増進を通して熊本の地域社会に貢献してまいります。

- ・日本循環器学会指定 循環器専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
- ・植込型補助人工心臓管理施設
- ・IMPELLA 実施施設
- ・植込型除細動器植込認定施設
- ・【心臓再同期療法】両心室ペーシングペースメーカー植込込み認定施設
- ・経静脈電極抜去術（レーザー）認定施設
- ・浅大腿動脈ステントグラフト実施認定施設
- ・日本老年医学会認定施設
- ・成人先天性心疾患学会認定修練施設

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊外来

氏名	職名	専門分野 / 専門領域	外来診療日					専門医 / 認定医
			月	火	水	木	金	
つじた けんいち 辻田 賢一	教授	循環器全般、虚血性心疾患、冠動脈インターベンション・構造的な心疾患カテーテル治療	○	◎				日本内科学会評議員・認定内科医・認定指導医、日本循環器学会九州地方会役員 / 評議員・特別正会員 (FJCS)・認定循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会理事・九州支部副支部長・専門医、日本心臓病学会特別正会員 (FJCC)、日本冠疾患学会理事・特別正会員 (FJCA)、日本心血管画像動態学会理事、身体障害者福祉法第15条1項指定医師、難病指定医、厚生労働省認定臨床研修指導医、日本高血圧協会熊本支部長、経カテーテル的大動脈弁置換術 SAPIEN シリーズ指導医・CoreValve シリーズ指導医、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、欧州心臓病学会特別正会員 (FESC)、米国内臓病学会特別正会員 (FACC)、植込み型除細動器 / ペーシングによる心不全治療資格
非常勤診療医師 かわの ひろあき 河野 宏明	保健学科 教授	循環器疾患全般、先天性心疾患、弁膜症、女性の狭心痛、高血圧			●			日本内科学会認定内科医・認定指導医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本超音波医学会超音波認定医・指導医、日本女性医学会評議員、日本性差医学会評議員、日本骨粗鬆症学会認定医
かいきた こういち 海北 幸一	准教授	循環器全般、虚血性心疾患、冠動脈インターベンション				◎	○	日本内科学会認定内科医・認定指導医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、植込み型除細動器 / ペーシングによる心不全治療資格、日本心臓病学会特別正会員 (FJCC)、日本循環器学会九州地方会評議員、身体障害者福祉法第15条1項指定医師、難病指定医、日本循環器学会社員、欧州心臓病学会特別正会員 (FESC)、厚生労働省認定臨床研修指導医、共用試験医学系 OSCE 外部評価者、日本循環器科学会特別正会員 (FJCS)、日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会運営委員、日本心血管画像動態学会評議員、経カテーテル大動脈弁植込込み術施行医、日本血栓止血学会認定医
非常勤診療医師 そえしま ひろふみ 副島 弘文	保健センター 准教授	循環器全般、心不全、虚血性心疾患、高血圧					◎	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本心臓病学会特別正会員 (FJCC)、日本医師会認定産業医、難病指定医、身体障害者福祉法第15条1項指定医師
やまもとえいいちろう 山本英一郎	診療講師	循環器全般、高血圧、虚血性心疾患、動脈硬化		○	◎			日本内科学会認定内科医・認定指導医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本医師会認定産業医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本高血圧学会認定専門医・認定指導医・特別正会員 (FJSH)・評議員、日本老年医学会老年専門医、日本脈管学会認定脈管専門医、日本心不全学会代議員
すずき さとる 鈴木 達	循環器 予防医学 先端医療 講師	循環器全般					○	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本医師会認定産業医、身体障害者福祉法第15条第1項指定医師、難病指定医
さかもと けんじ 坂本 憲治	講師	循環器全般、虚血性心疾患、冠動脈インターベンション					○	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、認定研修指導医、日本循環器学会認定専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、九州・沖縄地方会運営委員、日本心臓病学会特別正会員 (FJCC)、難病指定医

ふくなが 福永	たかし 崇	救急・総合診療部 助教	循環器全般					日本内科学会内科認定医・総合内科専門医・JMECC ディレクター、日本循環器学会専門医、日本心臓病学会上級臨床医 (FJCC)、日本心臓リハビリテーション学会指導士、アメリカ心臓協会 (AHA) ; ACLS コースディレクター・BLS リードインストラクター・PEARS インストラクター、日本救急医学会 ICLS ディレクター、ICLS-WS ディレクター、JATEC プロバイダー、MCLS プロバイダー、インフェクションコントロールドクター (ICD 制度協議会)、日本専門医機構総合診療領域特任指導医
非常勤診療医師 なかむら 中村	たいし 太志	医療情報経営企画部 准教授	循環器全般、心不全、高血圧、虚血性心疾患		◎			日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本高血圧学会認定専門医・認定指導医・特別正会員 (FJSH)、難病指定医、日本禁煙学会禁煙指定指導医
うすく 宇宿	ひろき 弘輝	中央検査部 助教	循環器全般、心臓超音波検査				◎	日本内科学会内科認定医・総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本心エコー学会 SHD 心エコー図認定医、日本心臓血管麻酔学会日本周術期経食道心エコー (JB-POT) 認定医、埋込み型除細動器 / ペーシングによる心不全治療資格、日本超音波学会専門医
あらか 荒木	さとし 智	助 教	循環器全般		◎			日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、難病指定医
ありま ゆういちろう 有馬勇一郎		助 教	循環器全般、心臓リハビリテーション		◎			日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、厚生労働省認定臨床研修指導医、日本血管生物医学会評議員、難病指定医
たかしお 高潮	せいじ 征爾	助 教	循環器全般、心不全、心筋症、弁膜症、肺高血圧症				◎ ◎	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、難病指定医、心臓リハビリテーション指導士、アミロイドーシス診療センター 副センター長
すえた 末田	だいすけ 大輔	心血管先端医療 助教	循環器全般、腫瘍循環器学		◎ ◎			日本内科学会認定内科医・指導医、日本循環器学会専門医、日本高血圧学会専門医・指導医・特別正会員 (FJSH)・評議員、日本動脈硬化学会評議員、日本抗加齢医学会専門医・評議員、厚生労働省認定臨床研修指導医、難病指定医
かなざわ 金澤	ひさのり 尚徳	不整脈先端医療 助教	循環器全般、不整脈、カテーテルアブレーション、デバイス植え込み・除去				◎ ◎ ◎ ペースメーカー 外来	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・認定指導医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医、植え込み型除細動器 / ペーシングによる心不全治療資格、エキシマレーザー心内リード除去資格、完全皮下植込み型除細動器植込み資格、着用例除細動器処方医、日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士、身体障害者福祉法第15条1項指定医師、難病指定医、AHA BLS インストラクター、九州不整脈研究会幹事
ふじすえこういちろう 藤末昂一郎		医療の質・安全管理部 助教	循環器全般、虚血性心疾患、末梢動脈疾患、動脈硬化		◎ ◎ ●			日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・認定指導医、日本循環器学会認定循環器専門医、厚生労働省認定臨床研修指導医、難病指定医、日本心臓血管インターベンション治療学会認定医、ゼネラルリスクマネージャー
やまなが 山永	けんし 健之	専門医療実践 助教	循環器全般				◎	日本内科学会認定内科医、日本心臓血管インターベンション治療学会認定医
いとう 伊藤	みわ 美和	専門医療実践 助教	循環器全般、不整脈		◎ ◎		◎ ペースメーカー 外来	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本救急医学会認定 ICLS コースインストラクター、日本内科学会認定内科救急 ICLS (JMECC) コースインストラクター、日本循環器学会九州支部評議員、難病指定医
いわさき 岩崎	たかし 貴士	医 員	循環器全般				◎ 冠脈インターベンション 後 再診 外来	
かねまる 金丸	ゆうすけ 佑右	医 員	循環器全般				◎ ペースメーカー 外来	◎ 日本内科学会認定内科医
きやま 木山	たくや 卓也	医 員	循環器全般		◎		◎ ペースメーカー 外来	
ながまつ 永松	すぐる 優	医 員	循環器全般		◎			日本内科学会認定内科医
にしはら 西原	たいき 大貴	医 員	循環器全般				◎	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会認定循環器専門医
みつせ 満瀬	たつろう 達郎	医 員	循環器全般		◎			日本内科学会認定内科医
やました 山下	たかよし 享芳	医 員	循環器全般					日本内科学会認定内科医

おいけ 史 尾池 史	医員	循環器全般					日本内科学会認定内科医
さとう 良太 佐藤 良太	医員	循環器全般				冠動脈インターベンション後診察	日本内科学会認定内科医
たかえ 将史 高江 将史	医員	循環器全般				冠動脈インターベンション後診察	日本内科学会認定内科医
くぼ 雄二 久保田雄二	医員	循環器全般					日本内科学会認定内科医
こもり 貴史 小森田貴史	診療助手	循環器全般					日本内科学会認定内科医
にし 雅人 西 雅人	医員	循環器全般			○		日本内科学会認定内科医
かわはら 勇成 川原 勇成	医員	循環器全般			○	◎	日本内科学会認定内科医
もりおか 真美 森岡 真美	医員	循環器全般					日本内科学会認定内科医
なかた 恵実 中田 恵実	医員	循環器全般					日本内科学会認定内科医
なかむら 淳 中村 淳	心血管治療先進医療客員教授	循環器全般、虚血性心疾患、冠動脈インターベンション					日本内科学会認定内科医・認定指導医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、植込み型除細動器 / ペーシングによる心不全治療資格
ほきもと 誠治 掃本 誠治	心血管治療先進医療客員教授	循環器全般、虚血性心疾患、冠動脈インターベンション					日本内科学会認定内科医・認定指導医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本循環器学会総務幹事・評議員、日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医代議員、日本心臓病学会評議員、日本心臓病学会特別正会員 (FJCC)、植込み型除細動器 / ペーシングによる心不全治療資格、エキシマレーザー冠動脈形成術、血管形成術資格、エキシマレーザー心内リード除去資格、身体障害者福祉法第15条指定医、難病指定医、欧州心臓病学会特別正会員 (FESC)、厚生労働省認定臨床研修指導医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
全ての心臓血管疾患	全ての心臓血管診断評価手技・機器が利用可能です。	<ul style="list-style-type: none"> ○狭心症・心筋梗塞に対する最先端カテーテル治療：冠動脈ステント植え込み術・慢性完全閉鎖治療・エキシマレーザー冠動脈形成術・経皮的冠動脈形成術・冠動脈血栓吸引術・ロータブレーター・方向性冠動脈粥腫切除術 (DCA) ○頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション ○重症心不全に対する補助循環：インペラ・PCPS・IABP ○末梢動脈疾患に対する血管内治療 (EVT) ○弁膜症に対するカテーテル治療：経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)・バルーン大動脈弁形成術 (BAV)・経皮的僧帽弁交連切開術 ○ペースメーカー植え込み術・心臓再同期療法・埋め込み型除細動器植え込み術 ○バルーン肺動脈形成術 (BPA) ○心嚢穿刺・心嚢液ドレナージ ○下肢深部静脈血栓症に対する下大動脈フィルター留置術 ○デバイス感染に対するエキシマレーザー心内リード除去術



やました たろう
山下 太郎
(特任教授)

●診療科の紹介

家族性アミロイドポリニューロパチー、脳梗塞、運動ニューロン疾患、てんかん、片頭痛、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳炎・髄膜炎、脊髄小脳変性症、重症筋無力症、多発性筋炎といった脳神経内科疾患に加え、甲状腺疾患、膠原病、糖尿病などの一般内科疾患に伴う神経合併症の診断と治療を行っています。外来診療においては、月曜日から金曜日まで毎日脳神経内科専門外来を複数枠設けることで紹介患者さんの神経学的診察を丁寧に行うとともに、逆紹介率の向上に努めています。入院診療においては、関連病院で対応困難な難治例も積極的に受け入れ、最先端の治療に取り組んでおります。具体的には、家族性アミロイドポリニューロパチーには移植外科と連携した肝移植に加え、原因タンパク質安定化剤、siRNAを用いた核酸医薬療法の治験、脳梗塞超急性期例には血栓溶解療法／血管内治療、ギラン・バレー症候群や多発性硬化症などの神経免疫疾患の重症例には免疫グロブリン大量注射や血液浄化療法、重症筋無力症にはステロイド療法に加え胸部外科と連携した拡大胸腺摘出術などの治療を行っています。現在アミロイドーシスをはじめ、多くの患者さんが、熊本県内外から診療を受けに受診されています。

脳血管障害先端医療寄付講座、分子神経治療学寄付講座、メディカルスタッフの人材育成を介して行う次世代型包括的神経難病診療体制構築事業寄付講座といった3つの寄付講座を設立することで、様々な難病患者さんに広く門戸を開き、多くの専門医が診療、研究、教育に携わることを可能としています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野／専門領域	外来診療日					専門医／認定医
			月	火	水	木	金	
やました たろう 山下 太郎	特任教授	アミロイドーシス、神経変性疾患		○ ◎				日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本神経学会指導医
なかじま まこと 中島 誠	特任教授	脳血管障害		○ ◎				日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医、日本神経学会指導医、日本脳卒中学会専門医
なかね しゅんや 中根 俊成	特任教授	免疫性神経疾患、不随意運動、自律神経疾患				○ ◎		日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本神経学会指導医
やました さとし 山下 賢	准教授	運動ニューロン疾患、筋疾患、末梢神経疾患					○ ◎	日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本神経学会指導医
うへだ みつはる 植田 光晴	講師	自律神経、アミロイドーシス、神経変性疾患			○ ◎			日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本神経学会指導医
みすみ ようへい 三隅 洋平	診療講師	アミロイドーシス、神経変性疾患					○ ◎	日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本神経学会指導医
うへだ あきひこ 植田 明彦	助教	脳血管障害、神経変性疾患、頭痛					○ ◎	日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本内科学会総合内科専門医
ますだ てるあき 増田 曜章	診療講師	神経疾患全般		○ 午前のみ				日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本神経学会指導医
たかまつこう たろう 高松孝太郎	特任助教	神経疾患全般			○ ◎			日本内科学会認定医、日本神経学会専門医
なかばら けいいち 中原 圭一	特任助教	神経疾患全般						日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
むかいの あきひろ 向野 晃弘	特任助教	神経疾患全般		○ 午前のみ				日本内科学会認定医、日本神経学会専門医
いのうえ やすてる 井上 泰輝	特任助教	神経疾患全般					○ ◎	日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経学会指導医
まつばらそういちろう 松原崇一郎	特任助教	神経疾患全般					○ ◎	日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本脳神経超音波学会認定脳神経超音波検査士
わたなべ てつや 渡邊 哲也	特任助教	神経疾患全般						日本内科学会認定医
なみとめ さとし 波止 聡司	特任助教	神経疾患全般						日本内科学会認定医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<p>◎脳血管障害（脳梗塞・脳出血など）</p> <p>◎神経変性疾患（家族性アミロイドポリニューロパチー・認知症・パーキンソン病・運動ニューロン疾患・脊髄小脳変性症など）</p> <p>◎頭痛（片頭痛・緊張型頭痛・群発頭痛など）</p> <p>◎不随意運動（振戦・ジストニアなど）</p> <p>◎筋疾患（多発筋炎・筋ジストロフィー・重症筋無力症など）</p> <p>◎てんかん、末梢神経障害、脊髄疾患</p> <p>◎脳炎、髄膜炎</p>	<p>病気の始まり方やその後の経過を知るために詳しいお話をうかがいます。次に、病気の種類や起こっている場所を明らかにするために詳細な診察（神経学的診察）を行います。</p> <p>診察結果に応じて病気の種類を判断し、それぞれの病気に応じた補助検査によって診断を確定します。</p> <p>補助検査：CT、MRI、神経超音波検査、脳血流シンチ、脳血管造影、血液検査、神経伝導検査、針筋電図、髄液検査、脳波、筋生検、神経生検など</p>	<p>病気に応じて治療法は様々です。</p> <p>◎脳血管障害：脳梗塞（発症4.5時間以内）は tPA 静注療法を行います。その他、局所線溶療法、抗血栓療法、脳保護療法など正確な脳梗塞の病型診断に基づいて適確な治療法を選択します。</p> <p>◎神経変性疾患：パーキンソン病には L-DOPA、ドパミンアゴニストなどの薬物療法に加え、脳神経外科との協力の下、外科治療も検討しています。脊髄小脳変性症については、必要に応じて遺伝子診断を行い、薬物療法を行います。</p> <p>◎頭痛：二次性頭痛を除外し、トリプタン製剤などにて治療を行います。</p> <p>◎筋疾患：正確な病型診断のために組織検査を行った上で、ステロイド大量療法、免疫抑制療法などを患者さんに応じて選択します。重症筋無力症については、拡大胸腺摘出術を含めた全身治療を行います。</p> <p>◎末梢神経障害：筋電図による評価と神経組織検査により、ステロイド治療、免疫グロブリン大量療法、血液浄化療法などを行います。</p> <p>◎脳炎・髄膜炎：原因となる病原体を迅速に同定し、抗ウイルス剤、抗真菌薬、抗結核薬などを適切に選択して治療します。</p>

診療科長



ふくい としひろ
福井 寿啓
(教授)

●診療科の紹介

虚血性心疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、不整脈、大動脈疾患、末梢血管に対する外科治療を行っています。

当科の特徴としては、高度の外科治療技術で質の高い治療を行うとともに、全診療科を有する熊本大学病院ならではの総合力で、他疾患を合併した重症例に対しても安全な治療を行っています。

狭心症や心筋梗塞に対する冠動脈バイパス手術では、人工心肺を使用しない心拍動下バイパス術を積極的に行い早期退院、早期社会復帰に努めています。

心臓弁膜症に対しては、自己弁を温存する弁形成術や患者様の生活スタイルに合った人工弁置換術を行い、良い成績を上げています。循環器内科と共同し、重症大動脈弁狭窄症に対し、経カテーテル大動脈弁置換術も積極的に行っています。

また、胸部大動脈瘤に対するステント付き人工血管を用いた外科手術、外科手術や低侵襲、血管内治療、腹部大動脈瘤や末梢動脈瘤に対する人工血管置換術や低侵襲血管内治療、動脈閉塞症に対するバイパス手術など、最新の知見に基づいた治療を行い、良好な成績を収めています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
ふくい としひろ 福井 寿啓	教授	心臓血管外科		○ ◎		○ ◎		外科専門医・指導医、心臓血管外科専門医・修練指導者、日本冠疾患学会 FJCA (特別正会員)
おかもと けん 岡本 健	講師	心臓血管外科				○ ◎		外科専門医、心臓血管外科専門医、脈管専門医、腹部ステントグラフト指導医、胸部ステントグラフト指導医、下肢静脈瘤に対する血管内焼却術実施医、心臓血管外科指導医
たづめ ひろかず 田爪 宏和	助教	心臓血管外科		○ ◎				外科専門医、循環器専門医、脈管専門医、下肢静脈瘤に対する血管内焼却術実施医、AHA ACLS 公認インストラクター、心臓血管外科専門医
のぐち りょう 野口 亮	助教	心臓血管外科						外科専門医、心臓血管外科専門医、循環器専門医、下肢静脈瘤血管内焼却術実施医、心臓リハビリテーション指導医
きつさ としあき 佐々 利明	特任助教	心臓血管外科						外科専門医、心臓血管外科専門医、腹部ステントグラフト指導医
とみなが おさむ 富永 磨	医員	心臓血管外科						
ひだか ひであき 日高 秀昭	医員	心臓血管外科						

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<ul style="list-style-type: none"> ◎虚血性心疾患 (狭心症、心筋梗塞) ◎心臓弁膜症 ◎不整脈 ◎成人先天性心疾患 ◎大動脈瘤 (胸部および腹部) ◎末梢動脈疾患 (腹部内臓動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞) ◎静脈疾患 (静脈痛、深部静脈血栓症) 	<p>循環器内科と連携し、心臓カテーテル検査、心臓超音波検査、核医学検査等を行います。</p> <p>血管疾患については、CT、MRI、血管造影、血管超音波検査を主として行っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎冠動脈バイパス術 ◎弁形成、弁置換術 ◎メイズ手術、ペースメーカー植込み ◎根治術 ◎人工血管置換術 血管内治療 (ステントグラフト内挿術) ◎血管バイパス術 血管内治療 (ステントグラフト内挿術) ◎静脈除去術

呼吸器外科

医局 373-5533

診療科長



すずき まこと
鈴木 実
(教授)

●診療科の紹介

呼吸器外科では年間300例以上〔2018年ではトータル372例（うち肺癌225例）〕の手術を行っており、その50%を胸腔鏡という内視鏡を用いることにより手術によるダメージを少なくし、痛みを軽減しています。

また肺癌においては区域切除で手術のダメージを少なくしています。また1cm以下の小さな肺の病変でも胸腔鏡による肺生検により100%の診断率を達成しています。一方、周囲に浸潤する進行肺癌に対しても可能であれば何処の施設よりも積極的に周囲臓器の合併切除に取り組んでいます。

また、気管にある腫瘍は切除と再建術が必要です。それは難しい手術ですが、当科ではその手術を積極的に行い、優れた治療成績を出しています。気道狭窄に対しては積極的にステント治療を行い、速やかに症状を改善します。そして、何よりも大事にしていることが「患者さんへの思いやり」です。

個々の患者様の身になって、相談を受けています。検査、手術を安心して受けることができるために、担当医が本人と家族に十分な説明を行っています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医	
			月	火	水	木	金		
すずき まこと 鈴木 実	教授	呼吸器・縦隔の外科					○	日本外科学会指導医、外科専門医、日本胸部外科学会認定医、日本胸部外科学会指導医、呼吸器外科専門医、呼吸器外科指導医、日本呼吸器外科学会指導医、気管支鏡専門医、気管支鏡指導医、がん治療認定医、がん治療認定暫定教育医、認定産業医	
いけだ こうえい 池田 公英	准教授	呼吸器・縦隔の外科		○				◎	外科専門医、外科指導医、呼吸器外科専門医、気管支鏡専門医、気管支鏡指導医、肺がんCT健診認定医、がん治療認定医
しらいし けんじ 白石 健治	講師	呼吸器・縦隔の外科						◎	外科専門医、呼吸器外科学会専門医
ますだ よしこ 増田 佳子	助教	呼吸器・縦隔の外科		◎				○	外科専門医、呼吸器外科専門医
ふじの こうすけ 藤野 孝介	助教	呼吸器・縦隔の外科							外科専門医、呼吸器外科専門医
おおすみ ひろのぶ 大隅 祥暢	特任助教	呼吸器・縦隔の外科							外科専門医、呼吸器外科専門医
はまさき ひろかず 濱崎 博一	医員	呼吸器・縦隔の外科							
たなか ひでかず 田中 秀和	医員	呼吸器・縦隔の外科							
やまだ ひろゆき 山田 紘之	医員	呼吸器・縦隔の外科							

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<p>◎健康診断で肺の異常な影を指摘され、肺癌と診断或いは疑いがある。</p> <p>◎健康診断で縦隔の異常な影を指摘され、腫瘍の疑いがある。</p> <p>◎肺癌と診断されたが、手術可能かどうか微妙である。</p> <p>◎膿胸、気胸と診断された。</p> <p>◎咳や血痰が出る。</p> <p>◎胸、背中、肩の痛みで肺に異常な影を指摘された。</p> <p>◎気管あるいは気管支に腫瘍があり、気管や気管支の切除再建が必要である。</p> <p>◎気管に腫瘍あるいは良性の狭窄があり、ステント治療あるいは拡張術が必要である。</p>	<p>1. CT 検査： 早期の肺癌ですりガラス状の影のものがあります。CT でこの影の濃度を調べ、悪性度の判定を行っています。また、多列 CT を用い、血管気管支の走行を立体的に見ることができ、手術に役立ちます。</p> <p>2. PET-CT 検査： 現在、FDG-PET（腫瘍のブドウ糖の取り込みをみる。これで腫瘍の悪性度が予想される）は肺癌診療で重要な検査のひとつとなっています。この検査で悪性度の評価およびリンパ節、その他の臓器（脳を除く）への転移を調べることができます。</p> <p>3. MRI（拡散強調画像）： 肺癌の悪性度判定およびリンパ節転移を調べるのに今一番新しい検査です。通常の MRI より若干長く時間がかかります。</p> <p>4. 気管支鏡： 通常はのどおよび気管の局所麻酔で、気管支の中の観察および病理学的診断を行います。また、当科では超音波内視鏡を駆使し、肺癌の縦隔リンパ節への転移の有無を調べることができます。</p> <p>5. 胸腔鏡検査： 胸腔鏡は他の検査と違い、患部を直接観察し、十分な量の検査材料を採取することが可能です。これで、他の検査で診断のつかなかつた肺、縦隔、胸膜の診断をつけることができます。現在、手術中に手で触ってもわからない微小な病変が高性能の CT で発見されています。当科ではリピオドールという造影剤を用いて、マーキングを行い、このような病変の切除を可能にしています。ただし、全身麻酔が必要です。</p> <p>6. 超音波気管支鏡ガイド下針生検（EBUS）： 気管支を使用して、リンパ節転移の有無を調べることができます。</p>	<p>1. 肺癌： 標準的な手術は、肺葉切除といって、片肺の2分の1から3分の1を切除し、気管支の周りのリンパ節も一緒に切除します。1期であれば内視鏡（胸腔鏡）手術により、肋骨や筋肉の損傷なく根治手術を行っています。部分切除、区域切除、気管支形成術といった、肺切除量を減らし、残る呼吸機能を最大限保つような手術も、早期の癌には可能です。内視鏡手術では手術当日に、水、お茶、ジュースも飲み、座ったり、立ったりも可能です。手術の翌日には食事を開始し、病棟を1～2周歩いていただきます。手術後1週間前後で退院可能な状態になります。進行癌では、肋骨、横隔膜、大血管、心臓の一部とともに病巣を取り除くこともあります。特に気管支形成に力を入れており、良好な成績を収めています。また、呼吸器内科と協力し、積極的に術前治療および術後治療を行っています。</p> <p>2. 気道狭窄： 気管および気管支の切除・再建および狭窄部を広げるステント治療を行っています。外科治療だけではなく、ステント治療も豊富な経験を有しています。</p> <p>3. 縦隔腫瘍： たくさんの種類の腫瘍が知られています。当科では多数の手術経験を有しています。なお、一部には化学療法が有効な腫瘍があり、生検により診断をつける必要がある場合があります。</p> <p>4. 重症筋無力症： 重症筋無力症は特定疾患に指定されている原因不明の病気です。治療は、長期に亘る薬物療法となりますが、胸腺を取り除く手術（拡大胸腺摘出術）を先ず行うことによって、治療効果が高まります。比較的稀な病気であり、経験の少ない病院が多いのが現状です。治療中にクリゼ（突然の重症化）が生じ、集中管理を要することがあります。当院ではこの手術の経験が200例以上あり、全国でも有数の経験豊富な病院です。従って、医師、看護師等医療スタッフは、十分な経験を有しています。また、ご希望があれば、内視鏡を使った手術も行っていきます。</p> <p>5. 転移性肺腫瘍： 骨肉腫などの肉腫、大腸癌・肝臓癌などの消化器癌、婦人科癌、乳癌、皮膚癌、頭頸部癌など悪性疾患では、血液の流れに乗って、肺に転移性の腫瘍を生じることがあります。原発巣や他の臓器の転移病巣の治療が順調であれば、肺の病巣を取り除く治療が有効です。当科では身体への負担が少ない内視鏡手術を第一選択にしています。肺の手術の後には、原発巣の治療を行っていた医療機関で追加の治療（抗がん剤、放射線など）を受けることとなります。</p>

診療科長



ばば ひでお
馬場 秀夫
(教授)

●診療科の紹介

食道癌、胃癌、大腸癌に対してはその進行度に応じて内視鏡的粘膜切除、内視鏡下手術、拡大手術を行っており、必要に応じて化学療法や放射線治療法も行い、質の高い最先端の医療を提供しています。患者様の全身状態と癌の進行度（病期、ステージ）を総合的に評価し、患者様一人一人にとって最適と思われる治療法を選択するようにしています。

肝癌の治療では肝切除術、鏡視下手術、ラジオ波凝固療法、肝動脈化学塞栓療法を癌の進行度と肝予備能の両面から適切に選択し、良好な治療成績をあげています。

難治癌である膵癌・胆道癌に対しては、厳密な術前評価のもと、積極的かつ安全な切除を行っています。切除不能な進行癌に対しては、消化器内科、放射線治療科と協力して、集学的治療を取り入れています。膵良性腫瘍または低悪性度腫瘍に対しては臓器温存や鏡視下手術を取り入れ、患者様の負担軽減を図り、術後の早期退院を目指しています。

このように、消化器癌全般に対して早期癌、進行癌、切除不能再発癌の患者様まで最新のエビデンスに基づいた高度な医療を提供しつつ、海外の治験・臨床試験に積極的に参加し、あらたなエビデンスの構築に貢献しています。日々の診療では患者様にとって良好なQOLが保てるように、また常に患者様、ご家族の気持ちに寄り添う医療を心がけています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
ばば ひでお 馬場 秀夫	教授	食道・胃・大腸・肝・胆・膵		○ ◎		○ ◎		日本外科学会指導医、日本外科学会専門医、日本外科学会認定医、日本外科学会理事、日本消化器外科学会指導医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会認定医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本消化器外科学会評議員、日本消化器病学会指導医、日本消化器病学会消化器専門医、日本消化器病学会認定医、日本消化器病学会評議員、日本癌治療学会臨床試験登録医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本癌治療学会理事、日本癌学会評議員、日本臨床腫瘍学会指導医、日本臨床腫瘍学会協議員、日本消化管学会胃腸科指導医、日本消化管学会胃腸科専門医、日本消化管学会胃腸科認定医、日本消化管学会理事、日本胃癌学会代議員、日本食道学会食道外科専門医、日本食道学会食道科認定医、日本食道学会評議員、日本消化器癌発生学会理事、日本臨床外科学会評議員、日本家族性腫瘍学会評議員、日本ハイパーサーミア学会認定医、日本ハイパーサーミア学会代議員、日本気管食道科学会認定気管食道科専門医、日本気管食道科学会理事、日本コンピュータ外科学会評議員、日本がん転移学会評議員、小切開・鏡視外科学会評議員、日本肝胆膵外科学会評議員、日本大腸肛門病学会評議員
いし たかとし 石河 隆敏	准教授	肝				○ ◎		日本外科学会指導医、日本外科学会専門医、日本外科学会認定医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本消化器癌発生学会評議員
ちかもと あきら 近本 亮	准教授	肝・胆・膵				○ ◎		日本外科学会指導医、日本外科学会専門医、日本外科学会認定医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本肝胆膵外科学会高度技能医、日本胆道学会指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本臨床倫理学会臨床倫理認定士、ゼネラルリスクマネージャー
よしだ なおや 吉田 直矢	特任准教授	食道・胃				○ ◎	◎	日本外科学会指導医、日本外科学会専門医、日本外科学会認定医、日本外科学会代議員、日本消化器外科学会指導医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器病学会専門医、日本食道学会食道科認定医、食道外科専門医、日本消化管学会胃腸科専門医、日本消化管学会指導医、日本気管食道科学専門医、日本気管食道学会評議員、日本食道学会評議員、日本胃癌学会代議員、日本内視鏡外科学会技術認定医（食道）
やました よういち 山下 洋市	准教授	肝・胆・膵		○ ◎			○ ◎	日本外科学会指導医、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本消化器外科学会評議員、日本肝胆膵外科学会評議員、日本臨床外科学会評議員、日本消化器癌発生学会評議員、日本外科代謝栄養学会評議員、日本コンピュータ外科学会評議員、日本外科系連合学会評議員、日本消化器病学会九州支部評議員
みやもと ゆうじ 宮本 裕士	講師	大腸			○ ◎		○ ◎	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本大腸肛門病学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医（大腸）、日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本大腸肛門病学会九州支部評議員、日本臨床外科学会評議員、Fellow of the American College of Surgeons (米国外科学会フェロー)、ASCO active

いわがみ しろう 岩上 志朗	助 教	食道・胃	○ ○				○ ○	日本外科学会専門医、日本外科学会認定医、日本外科学会指導医、日本胃癌学会評議員、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、米国外科学会 (FACS)、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
いわたつき まさあき 岩槻 政晃	助 教	食道・胃	○ ○					日本外科学会指導医、日本外科学会専門医、日本外科学会認定医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器病学会専門医、日本食道学会食道科認定医、日本消化管学会胃腸科指導医、日本消化管学会胃腸科専門医、日本胃癌学会代議員、日本臨床外科学会評議員、日本消化器癌発生学会評議員、日本消化器学会九州支部評議員、Fellow of American College of Surgeons
いまい かつのり 今井 克憲	助 教	肝・胆・膵	○ ○				○ ○	日本外科学会認定医、日本外科学会専門医、日本外科学会指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器病学会九州支部評議員、日本消化器病学会評議員、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本がん治療認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、Fellow of the American College of Surgeons、日本肝胆膵外科学会高度技術専門医
はやし ひろみつ 林 洋光	診 療 講 師	肝・胆・膵		○ ○				日本外科学会専門医、日本外科学会指導医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器病学会指導医、日本消化器病学会評議員、日本肝臓学会専門医、日本肝臓学会西部会評議員、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本肝胆膵外科学会高度技術専門医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本内視鏡外科学会消化器・一般外科領域 / 完全腹腔鏡下肝 S3切除術技能認定医、評議員)、日本門脈圧亢進病学会評議員、Fellow of the American College of Surgeons (米国外科学会フェロー)
ながい ようへい 長井 洋平	特 任 助 教	食道・胃				○ ○	○	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本気管食道学会気管食道科専門医、日本食道学会食道科認定医、日本消化器内視鏡学会専門医、社会医学系専門医
ひよし ゆきはる 日吉 幸晴	助 教	大腸				○ ○	○ ○	日本外科学会専門医、日本外科学会指導医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、Fellow of the American College of Surgeons
やまむら けんすけ 山村 謙介	特 任 助 教	肝・胆・膵	○ ○				○ ○	日本外科学会 (専門医)、消化器外科学会 (専門医)、日本消化器病学会 (専門医)、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医 (消化器・一般外科領域)
えとうこうじろう 江藤弘二朗	医 員	食道・胃	○ ○				○ ○	日本外科学会外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器外科学会消化器外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
はらだ かずと 原田 和人	医 員	食道・胃				○ ○		日本外科学会 (専門医)、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
とくなが りょうま 徳永 竜馬	医 員	大腸					○ ○	日本外科学会 (専門医)、日本消化器外科学会 (専門医)、日本消化器病学会 (専門医)、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
ひがし たかあき 東 孝暁	医 員	肝・胆・膵		○ ○			○ ○	日本外科学会 (専門医)、日本消化器病学会 (専門医)、日本肝臓学会 (専門医)、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
消化器の悪性・良性疾患全般 ◎消化管 食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肛門 ◎実質臓器 肝臓・胆道・膵臓・脾臓 ◎後腹膜	最初に、詳細な病歴聴取および身体所見の診察を行います。 その後、病態に応じて下記の特種検査（侵襲の少ない検査から）を行い、診断と治療方針の決定を行います。 ◎特種検査 1. 上部・下部消化管内視鏡検査 2. 上部・下部消化管透視検査 3. 超音波検査 4. CT 検査 5. MRI 検査 6. PET-CT 検査などの RI 検査 7. 超音波内視鏡検査 8. 胆管・膵管造影検査 9. 血管造影検査	最新の国内外のエビデンスに基づき、さらに個々の患者さんの病態・状況に応じたオーダーメイド治療を行っております。 ◎消化管癌 1. 内視鏡的粘膜切除術 2. 鏡視下手術 (腹腔鏡・胸腔鏡を用いた手術) 3. 開腹・開胸手術 4. 化学療法 5. 放射線治療 ◎肝臓・脾臓 1. 開腹・開胸手術 2. 鏡視下手術 (腹腔鏡・胸腔鏡を用いた手術) 3. 局所凝固療法 4. 肝動脈化学塞栓療法 5. 化学療法 6. 放射線治療 7. 部分的脾塞栓術 ◎胆道・膵臓 1. 開腹手術 2. 鏡視下手術 (腹腔鏡を用いた手術) 3. 化学療法 4. 放射線治療 5. 胆道ドレナージ術

診療科長



やまもと ゆたか
山本 豊
(准教授)

●診療科の紹介

乳癌を始めとした乳腺疾患の診断、手術、薬物療法を中心として、内分泌臓器である甲状腺、副甲状腺の外科的治療を担当しています。

特に乳癌では根治性を損なわないように手術療法を縮小化する方向にあり、整容性にすぐれた乳房温存手術とセンチネル（見張り）リンパ生検による腋窩リンパ節郭清の省略が可能です。また、「画像ガイド下組織吸引装置」による生検を数多く経験しており、非触知の微細石灰化病巣に対しても確実な診断が可能です。薬物療法の経験は豊富であり、ガイドラインに準拠した化学療法、ホルモン療法、分子標的治療を行っています。

さらに乳癌患者を精神的に支援するサポートグループも運営されており、定期的に会合が持たれています。甲状腺、副甲状腺疾患の外科治療については出来るだけ創を小さくし、形成外科的な処置を行うことで美容的、機能的にも優れた方法で行っています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診察日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
やまもと 山本 ゆたか 豊	准教授	乳腺・内分泌外科	○ ◎		○ ◎			日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会専門医・指導医、マンモグラフィ読影医、がん治療暫定指導医
いぶすき 指宿 むつこ 睦子	特任 准教授	乳腺・内分泌外科				○ ◎		日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会専門医・指導医、マンモグラフィ読影医、がん治療認定医、暫定家族腫瘍指導医
すえた 末田 あいこ 愛子	助教	乳腺・内分泌外科	○ ◎					マンモグラフィ読影医、日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会専門医、がん治療認定医
とみぐち 富口 まい 麻衣	助教	乳腺・内分泌外科			○ ◎			マンモグラフィ読影医、日本外科学会専門医、がん治療認定医
ふじき 藤木 よしあき 義敬	特任助教	乳腺・内分泌外科		○ ◎				マンモグラフィ読影医、日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、がん治療認定医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<p>◎乳腺疾患の診断・治療 乳房のしこり、血性乳頭分泌、乳癌検診異常（特に微細石灰化病巣）の精査、乳癌の手術治療、化学療法、ホルモン療法、分子標的治療、</p> <p>◎甲状腺癌、良性甲状腺腫瘍、バセドウ病の手術治療</p>	<p>①乳腺疾患 マンモグラフィ、乳腺超音波検査、穿刺吸引細胞診、乳管造影、乳房MRI、乳汁分泌中CEA測定、針生検ステレオガイド下または超音波ガイド下マンモトーム生検</p> <p>②乳癌腋窩リンパ節転移診断 RI法と色素法併用によるセンチネルリンパ節生検</p> <p>③甲状腺・副甲状腺疾患 甲状腺・副甲状腺超音波検査、穿刺吸引細胞診</p>	<p>①乳癌の集学的治療 乳癌に対する各種手術（乳房温存手術、乳房切除術）</p> <p>各種薬物療法（ホルモン療法、化学療法、分子標的治療）</p> <p>新規薬物の臨床試験 緩和医療</p> <p>②良性乳腺疾患の治療</p> <p>③甲状腺疾患の手術 甲状腺全摘、亜全摘、半葉切除、頸部リンパ節郭清など</p> <p>④副甲状腺疾患の手術</p>

診療科長



ひび たいぞう
日比 泰造
(教授)

●診療科の紹介

小児外科担当医師が生体肝移植を行う移植外科医師を兼ねており、胆道閉鎖症など小児の肝胆道系の疾患を、たとえ肝移植が必要な状態となっても当院で対応できる日本でも数少ない診療科の一つです。

もちろん、肝移植だけでなく、一般の小児肝胆道系疾患、小児がんと言われる小児の悪性腫瘍の外科手術を伝統的に多く診療してきており、その経験の蓄積があります。その他、そけいヘルニア、臍ヘルニア、小児の虫垂炎、痔瘻、頑固な便秘など一般的な病気も、小児外科専門の医師が最新の知識と技術をもとに治療いたします。

はっきりと小児外科対応疾患かどうか不明の場合でも、ご紹介いただき、患者様のお話を伺って小児科など他の診療科への再紹介、精査などの対応を取らせていただきます。通常の外来受診日は、月曜、水曜、木曜、金曜の各午前中ですが、緊急疾患には時間外を含め、いつでも対応いたします。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
なかのみわこ 中野美和子	客員 准教授	小児外科	○ ◎		○ ◎			日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医、 日本小児外科学会指導医
ほんだ まさき 本田 正樹	助 教	小児外科、移植外科				○ ◎	am ○ ◎	日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医、 日本移植学会認定医
いその かおり 磯野 香織	助 教	小児外科、移植外科	◎				pm ◎	日本外科学会専門医、日本移植学会認定医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
◎小児肝胆道疾患（胆道閉鎖症、胆道拡張症、劇症肝炎など）	他の乳児期肝疾患との鑑別診断 膵・胆管合流異常の有無の診断	肝門部空腸吻合術、胆道再建術、 肝移植など
◎小児がん（神経芽細胞腫、腎芽腫、 肝芽腫、奇形腫など）	小児科、放射線科などと協力し、集学的 治療を行います。	腫瘍生検、腫瘍摘出術など
◎小児消化器外科疾患（虫垂炎、腸重 積症、ヒルシュスプルング氏病、便秘、 肛門疾患、腸閉塞など）	上部、下部消化管内視鏡検査 注腸検査、直腸肛門内圧検査	根治手術、緊急手術
◎新生児外科疾患（食道閉鎖症、横隔膜 ヘルニア、腹壁異常、先天性腸閉鎖、 鎖肛など）	産科医、小児科医などと緊密に連携し、 診療を行います。	根治手術、緊急手術
◎小児体表疾患（頸部瘻孔、リンパ管 腫など）	超音波検査、CT 検査など	摘出術、注入術など
◎こどものそけいヘルニア、臍ヘルニア		ヘルニア根治術

診療科長



ひび たいぞう
日比 泰造
(教授)

●診療科の紹介

生体・脳死肝移植を主な担当領域としています。

年間、20例以上の生体肝移植を実施しており、九州圏内はもとより、国内でも有数の生体肝移植専門施設となっています。

また、脳死肝移植脳死小腸移植実施施設にも認定されており、臓器移植ネットワークへの登録に関するご相談、脳死移植についてのご相談も承ります。

他の施設での生体肝移植実施後の患者様、あるいはその生体ドナーの方の術後健康相談、フォローアップなどについてもお気軽にお尋ねください。

肝臓だけでなく、小腸、膵臓などの臓器移植に関するご相談もお受けいたします。

通常の外来診察日以外にも、緊急のご相談や症例のご紹介などいつでも対応いたします。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
ひび たいぞう 日比 泰造	教授	移植外科	○ ◎		○ ◎			日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医、American Society of Transplant Surgeons 認定医、日本移植学会認定医、日本がん治療認定医
すがわら やすひこ 菅原 寧彦	准教授	移植外科			◎	◎	○	日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本移植学会認定医、日本消化器病学会指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医
やまもと ひでかず 山本 栄和	診療講師	移植外科	◎			◎		日本外科学会専門医・指導医、日本移植学会認定医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
◎肝硬変（B型、C型、アルコール性）、肝臓がん、劇症肝炎、原発性硬化性胆管炎、原発性胆汁性胆管炎、自己免疫性肝炎、アミロイドポリニューロパシーなどの先天性代謝疾患、移植後の種々の合併症	ドナーおよびレシピエント術前検査を外来及び入院にて行います。 (腹部CT、MRI、超音波検査など)	生体・脳死肝移植術
◎小腸移植：短腸症候群、機能的腸閉塞症など。		生体・脳死小腸移植術

診療科長



かんば ともみ
神波 大己
(教授)

●診療科の紹介

腎・尿路（腎臓、尿管、膀胱、尿道）と男性生殖器（前立腺、精巣、陰茎）の悪性腫瘍を診断治療の柱とし、癌種やその病態に応じて手術療法・化学療法・放射線療法・免疫療法・分子標的治療等の治療法を組み合わせ、集学的な最新最善の治療を心掛けています。新規薬剤の治療にも積極的に対応しています。また、患者様のQOLを重視し、低侵襲治療として腹腔鏡手術やその他の内視鏡手術を積極的に導入しており、癌治療だけでなく腎移植にも応用しています。

特徴的な治療として、前立腺癌に対しては、年齢・性機能・病理結果・病期（ステージ）等に応じて、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術（RARP）（リンパ節郭清、性機能温存・非温存）・強度変調放射線治療（IMRT）（放射線科と連携）・ホルモン療法・抗がん剤治療等を行い、患者様の希望も取り入れながら、きめ細かな治療を心掛けています。腎癌に対しては、低侵襲治療として腹腔鏡下手術はもちろんのこと、小径腎癌に対しては、根治性を損わずに腎機能温存にも配慮したロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術（RAPN）を行っています。進行例には分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を用いた最先端の薬物治療を行っています。浸潤性膀胱癌に対しては積極的に腹腔鏡下膀胱全摘出を行い、2018年度からはロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘出術（RARC）も開始しています。腎盂尿管癌に対しては、低侵襲治療として腹腔鏡下及び後腹膜腔鏡下尿管全摘術を積極的に行っています。膀胱癌や腎盂尿管癌の進行例が抗がん剤治療に抵抗性の場合には免疫チェックポイント阻害薬を用いた治療を積極的に行っています。前立腺肥大症に対しては、経尿道的前立腺核出術（TUEB）を行っています。尿路結石症に対しては、ホルミウムYAGレーザーを用いた内視鏡手術（TUL/PNL）を行っています。また、血液浄化療法部と協力して透析療法をはじめブラッドアクセス、腎移植医療を行っています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
かんば ともみ 神波 大己	教授	腎尿路性器癌、腹腔鏡手術、ロボット支援手術		○				日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医
にし かずひこ 西 一彦	血液浄化療法部部長 准教授	血液浄化、腎移植		●			○ ◎	日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器科学会専門医、日本透析医学会専門医、日本透析医学会指導医、日本がん治療認定医機構認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
すぎやま ゆたか 杉山 豊	助教	泌尿器科一般、神経泌尿器、腎尿路性器癌、血液浄化、腎移植		●			○ ◎	日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医
やまぐち たかひろ 山口 隆大	講師	泌尿器科一般、腎尿路性器癌、腹腔鏡手術、ロボット支援手術					○ ◎	日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本がん治療認定医機構認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医
やつ だじゆんじ 矢津田 旬二	助教	泌尿器科一般、腎尿路性器癌、腹腔鏡手術、ロボット支援手術					○ ◎	日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
むらかみ ようじ 村上 洋嗣	血液浄化療法部 助教	泌尿器科一般、血液浄化、腎尿路性器癌、腹腔鏡手術、ロボット支援手術					○ ◎	日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
もとしま たかのぶ 元島 崇信	助教	泌尿器科一般、腎尿路性器癌、ロボット支援手術		○ ◎				日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科指導医、日本がん治療認定医機構認定医
ふくしま ゆうみ 福島 結美	助教	泌尿器科一般		○ ◎				日本泌尿器科学会専門医
くらはし りょうま 倉橋 竜磨	医員	泌尿器科一般					○ ◎	日本泌尿器科学会専門医
いまむら りゅうじ 今村 隆二	医員	泌尿器科一般						日本泌尿器科学会専門医
あなみ としき 穴見 俊樹	医員	泌尿器科一般						日本泌尿器科学会専門医
うえぞの えいた 上園 英太	医員	泌尿器科一般						
はら ちあき 原 千瑛	医員	泌尿器科一般						
いべ ゆき 井邊 有紀	医員	泌尿器科一般						
くろ だしょういちろう 黒田庄一郎	医員	泌尿器科一般						
むらかみ ひでとし 村上 栄敏	医員	泌尿器科一般						
わたなべ ゆう 渡邊 祐	医員	泌尿器科一般						

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<ul style="list-style-type: none"> ◎泌尿器悪性腫瘍（前立腺癌、腎癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、精巣腫瘍、陰莖癌他） ◎排尿障害（排尿困難、頻尿、尿失禁）をきたす疾患（前立腺肥大症、神経因性膀胱他） ◎腎機能障害をきたす疾患（慢性腎不全、先天性尿路疾患他） ◎尿路結石症（腎結石、尿路結石、膀胱結石） ◎泌尿器内分泌疾患（副腎腫瘍他） ◎尿路性器感染症（膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎、STD 他） ◎性機能障害（勃起障害） 	<p>泌尿器科の検査診断法には PSA 等の腫瘍マーカーを含めた血液検査・尿検査、CT・MRI・PET 超音波・シンチ・単純レントゲン・血管および尿路造影などの画像検査、尿道膀胱尿管を観察する内視鏡検査、尿の勢いや膀胱の収縮力を測定する最新の尿流動態検査などがあります。</p>	<p>尿路悪性腫瘍に対しては、手術・薬物・放射線を用いた集学的な治療を行います。各種手術法は、積極的に最新の手術を取り入れています。前立腺癌、小径腎癌、浸潤性膀胱癌に対しては、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術（RARP）、ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術（RAPN）、ロボット支援根治的膀胱摘除術（RARC）を行っています。腎癌、腎盂尿管癌、また浸潤性膀胱癌に対しても、低侵襲である腹腔鏡下手術を積極的に取り入れています。良性疾患である副腎腫瘍、前立腺肥大症、腹圧性尿失禁に対しては、腹腔鏡下副腎摘除術、経尿道的前立腺核出術（TUEB）などを行っています。尿路結石に対しては、内視鏡手術（TUL・PNL）を中心に行っています。腎不全に対しては、透析療法をはじめ、ブラッドアクセス、腎移植医療を行っています。性機能障害には薬物療法を行います。</p>

診療科長



かたぶち ひでたか
片瀬 秀隆
(教授)

●診療科の紹介

乳幼児期、思春期、性成熟期、更年期、老年期と女性のすべてのライフステージにおける婦人科臓器（外陰、膣、子宮頸部、子宮体部、卵巣、卵管、腹膜、胎盤）の腫瘍性疾患、不妊・内分泌疾患、婦人科領域の感染症、更年期、老年期の加齢に伴う疾患について、同じく女性を診療する部門である周産期診療と密接に協力しつつ、女性に対する全人的診療ができるように努めています。外来診療は日本産科婦人科学会専門医が担当し、希望があれば女性の医師が担当します。

婦人科悪性腫瘍に対しては、手術、化学療法、放射線療法、化学放射線併用療法、免疫療法を総合的に駆使し放射線診断・治療科、外科や病理部の協力を得て対応しています。がんゲノム医療の実施に向けて、遺伝子パネル検査が行えるようになります。その結果を解析し、遺伝子情報に基づくがん個別化治療を検討します。患者様のQOLを第一に考え、特に骨盤リンパ節郭清後に生じる下肢のむくみ（リンパ浮腫）に対して、リンパマッサージなどによる積極的な予防策を行い効果を上げています。また、術後の補助化学療法では外来化学療法センターでの外来治療を積極的に取り入れています。さらに若年がん患者さんにおいては将来の妊娠・出産が可能であるように、平成28年度より生殖医療・がん連携センターを開設しました。他科のがん患者さんを含め、卵子や精子の凍結保存などの妊孕性温存治療を行っています。また、妊娠中に判明した婦人科疾患については周産期分野のスタッフと密接に協力しています。

不妊治療については、周産期の診療スタッフと共に、自然妊娠の可能性を最大限に向上させるよう系統的かつ個別化した診療を行っています。子宮内膜症の患者様に対しては、新規治療薬の開発のため臨床試験が終了しました。子宮筋腫症に対しては積極的な手術療法の導入と術後早期からの妊孕性向上策の導入により約半数の症例が妊娠に至っています。

最近では、月経異常や月経困難症を訴え思春期女性や未婚女性が来院され、女性医師外来が対応・経過観察し、QOL改善が得られている例が増加しています。さらに臨床遺伝専門医による生殖医療カウンセリングを開設しています（要予約）。

■スタッフ紹介

外来診療日記号 ○：初診 ◎：再診

氏名	職名	専門分野／専門領域	外来診療日					専門医／認定医
			月	火	水	木	金	
かたぶち ひでたか 片瀬 秀隆	教授 [医療センター長、[私のカルテ]がん診療センター長、生殖医療・がん連携センター長]	婦人科・産科			○ ◎		○ ◎	日本産科婦人科学会専門医、熊本県母体保護法指定医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、日本女性医学会女性ヘルスケア暫定指導医
おおば たかし 大場 隆	准教授 [兼任/総合周産期母子医療センター]	産科・婦人科						日本産科婦人科学会専門医、日本超音波学会専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本内分科学会内分泌代謝科指導医、日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）指導医、新生児蘇生法インストラクター、熊本県母体保護法指定医
ほんだ りつお 本田 律生	講師 [兼任/総合周産期母子医療センター]	婦人科・産科	○ ◎	◎	○ ◎	◎	○ ◎	日本産科婦人科学会専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医
もとはら たけし 本原 剛志	講師	婦人科・産科	○ ◎		○ ◎		○ ◎	日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医
やまくち むねかげ 山口 宗影	助教	産科・婦人科			◎			日本産科婦人科学会専門医、日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、熊本県母体保護法指定医
さいとう ふみたか 齋藤 文誉	助教 [兼任/総合周産期母子医療センター]	産科・婦人科	◎		◎		◎	日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医
まつお ゆうじ 松尾 勇児	助教	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医
ちが まさひこ 値賀 正彦	助教 [産科病棟医長]	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医
つばき じゅんこ 坪木 純子	助教 [外来医長]	婦人科・産科	◎		◎		◎	日本産科婦人科学会専門医
やまもと なお 山本 直	助教 [婦人科病棟医長]	婦人科・産科	◎		◎		◎	日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医
たけした ゆうこ 竹下 優子	診療助手	婦人科・産科	◎		◎		◎	
しばさき さとし 柴崎 聡	医員	婦人科・産科		◎	◎	◎		
なかむら みわ 中村 美和	医員	産科・婦人科	◎	◎		◎		
せおゆうたろう 瀬尾優太郎	医員	産科・婦人科	◎				◎	
きしもと かおり 岸本かおり	医員	産科・婦人科						

しもかわ りさ 下川 理沙	医 員	産科・婦人科						
さがら あきひと 相良 昭仁	医 員	産科・婦人科						
とみなが まりこ 富永茉莉子	医 員	産科・婦人科						
よしむら さおり 吉村 早織	医 員	産科・婦人科						
すぎの れいか 杉野 麗花	医 員	産科・婦人科						
よしつみ たかこ 吉積 貴子	医 員	産科・婦人科						
たしろ ひろのり 田代 浩徳	非常勤医師 [兼任/保健学科 教授]	婦人科・産科					◎	日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
あらかね ふとし 荒金 太	非常勤医師	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、日本産科婦人科学会 指導医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医
おおたけ ひでゆき 大竹 秀幸	非常勤医師	婦人科・産科					◎	日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
おかむら よしのり 岡村 佳則	非常勤医師	婦人科・産科					◎	日本産科婦人科学会専門医、日本産科婦人科学会 指導医、日本生殖医学会生殖医療専門医
たうら ゆみこ 田浦裕三子	非常勤医師	産科・婦人科			NIPT/ 遺伝カ ウンセ リング			日本産科婦人科学会専門医、日本人類遺伝学会臨 床遺伝専門医、日本内分科学会内分泌代謝科専門 医
ほんだ ともこ 本田 智子	非常勤医師	産科・婦人科					◎	日本産科婦人科学会専門医、熊本県母体保護法指 定医、日本生殖医学会生殖医療専門医
さかぐち いさお 坂口 勲	非常勤医師	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医、日本周産期・新生児医学会周 産期専門医（母体・胎児）、日本がん治療認定機構 がん治療認定医、新生児蘇生法インストラクター、 熊本県母体保護法指定医、日本骨粗鬆症学会認定医
ささき みるみ 佐々木瑠美	非常勤医師	産科・婦人科					◎◎ NIPT/ 遺伝カ ウンセ リング	日本産科婦人科学会専門医、日本人類遺伝学会臨 床遺伝専門医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<p>◎婦人科臓器の悪性腫瘍 ：子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、 卵管癌、膣癌、外陰癌、腹膜 癌、絨毛性疾患</p> <p>◎婦人科臓器の良性腫瘍 ：子宮筋腫、卵巣腫瘍、類腫瘍 疾患（子宮内膜症、子宮腺筋 症）、胞状奇胎</p> <p>◎更年期、老年期の疾患 ：更年期障害、萎縮性膣炎、骨 粗鬆症、子宮下垂・膀胱脱・ 直腸脱</p> <p>◎不妊症・内分泌疾患・月経異常</p> <p>◎婦人科臓器の感染症 ：外陰ヘルペス、尖圭コンジ ローマ、クラミジア感染症、 その他の感染症</p>	<p>◎細胞診検査・組織診検査</p> <p>◎コルポスコピー</p> <p>◎子宮鏡</p> <p>◎超音波/CT/MRI/PET</p> <p>◎HPV 検査</p> <p>◎不妊症・不育症検査（腹腔鏡検 査、子宮卵管造影、超音波卵管 造影法など）</p>	<p>◎手術</p> <p>子宮悪性腫瘍手術 卵巣悪性腫瘍手術 単純子宮全摘出術 子宮頸部異形成に対するレーザー蒸散術 超音波メスを用いた子宮頸部円錐切除術 経膣手術（子宮脱根治術 他） 腹腔鏡下手術（子宮内膜症手術、 卵巣腫瘍摘出術 等） 子宮鏡下手術（粘膜下筋腫摘出術、 内膜ポリープ摘出術 他） 子宮形成手術（子宮筋腫核出術、 子宮腺筋症減量手術 他）</p> <p>◎その他の治療</p> <p>【抗がん化学療法】 子宮頸癌・子宮体癌・ 卵巣癌・絨毛性疾患 等</p> <p>【放射線治療】 子宮頸癌・子宮体癌 等</p> <p>【放射線化学同時併用療法】 子宮頸癌</p> <p>【高用量黄体ホルモン療法】 子宮体癌（初期癌）</p> <p>【ホルモン補充療法更年期障害・骨粗鬆症・悪 性腫瘍術後（両側卵巣切除後）】</p> <p>【不妊症・不育症治療】 AIH、IVF-ET</p> <p>【胞状奇胎の管理治療】</p> <p>【がん・生殖医療】 配偶子胚の凍結保存</p>

診療科長



なかむら きみとし
中村 公俊
(教授)

●診療科の紹介

小児科では、「小児期の内科的な病気全般」および「精神・身体の様々な発達障害を持った子供さん達のよりよい日常生活に向けてお手伝いをする診療科」として以下のような疾患の診断・治療・予防を中心に一般小児および特殊外来を行っています。

「小児期の内科的な病気全般」として下記のような症状のある方を診察しています。

新生児マスキニングで、異常を指摘された。顔色が悪く、貧血が続く。出血が止まりにくい。感染症を繰り返し治りにくい。多飲多尿。やせてきた。同学年の中で背が低い。骨折を繰り返す。血尿や蛋白尿を指摘された。腎生検が必要と言われた。身長に比べ体重が極端に重い。家族に高脂血症の患者がいる。嘔吐・下痢が続く。けいれんを繰り返す。生まれつきの異常や遺伝する病気について相談したい。小児難病と呼ばれる病気に悩んでいる。骨髄移植や造血幹細胞移植による治療を希望したい。遺伝についてなど小児に関係ある疾患について診断・治療を行っています。

「精神・身体の様々な発達障害を持った子供さん達のよりよい日常生活に向けてお手伝いをする診療科」として疾患の診断・治療・予防を中心に一般小児および特殊外来を行っています。

①けいれん性疾患、②神経・筋疾患（筋ジストロフィー、先天性筋疾患など）、③精神・運動発達障害（脳性麻痺、自閉症、ADHD、LDなどを含む）、④不登校、⑤神経内分泌疾患（低身長、低体重、糖尿病、甲状腺疾患、肥満、拒食症など）、症状として、小児期におこるけいれん、麻痺、歩行の遅れ、言葉の遅れ、発育、発達の遅れ、学習障害、多動、自閉症、低身長、低体重、やせ、肥満、拒食、過食、不登校などで御心配、お困りであれば御相談ください。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
なかむら きみとし 中村 公俊	教授	代謝、内分泌、遺伝	○ ◎				○ ◎	日本小児科学会専門医、臨床遺伝専門医・指導医
新生児学寄附講座 みつぶち ひろし 三淵 浩	特任教授	新生児/代謝/遺伝カウンセリング	◎				◎	日本小児科学会専門医、臨床遺伝専門医・指導医、新生児専門医・指導医
まつもと しろう 松本 志郎	准教授	新生児/内分泌、代謝	◎		AM ◎			日本小児科学会専門医
いんどう やすひろ 犬童 康弘	講師	神経/遺伝性疾患			○ ◎		AM ◎	日本小児科学会専門医、臨床遺伝専門医
総合周産期母子医療センター いわい まさのり 岩井 正憲	講師	新生児/発達	○ ◎ (PM)		◎			日本小児科学会専門医
総合周産期母子医療センター さかもと けいこ 坂本理恵子	講師	小児一般	◎			PM ◎		日本小児科学会専門医
小児在宅医療支援センター おささ しろう 小篠 史郎	特任講師	神経/筋/発達/発達障害(自閉症、ADHDなど)		◎		◎		日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医
まへ ひろよ 間部 裕代	助教	内分泌		○ ◎		○ ◎		日本小児科学会専門医、日本代謝内分泌専門医・指導医
のむら けいこ 野村 恵子	助教	神経/筋/発達/発達障害(自閉症、ADHDなど)		○ ◎		◎		日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
あなん ただし 阿南 正	助教	血液、腫瘍	◎		AM ◎		◎	日本小児科学会専門医、日本血液学会専門医、日本がん治療認定医
たむら ひろし 田村 博	助教	腎臓/透析			◎		AM ◎	日本小児科学会専門医
きど じゅん 城戸 淳	助教	内分泌 代謝				AM ◎		日本小児科学会専門医
新生児学寄附講座 たなか けんいち 田中 健一	特任助教	新生児			PM ◎			日本小児科学会専門医、新生児専門医
地域専門医療推進学寄附講座 いのうえ たけし 井上 武	特任助教	新生児			PM ◎			日本小児科学会専門医、新生児専門医
まつお おさむ 松尾 倫	診療助手	循環器		◎		◎		日本小児科学会専門医、日本小児循環器科専門医
小児在宅医療支援センター ならむら てつお 柵村 哲生	特任助教	新生児						日本小児科学会専門医、新生児専門医
地域専門医療推進学寄附講座 ながた ゆうこ 永田 裕子	特任助教	腎臓/透析	AM ◎					日本小児科学会専門医、日本腎臓学会専門医
ながまつ ふさ 永松 扶紗	診療助手	内分泌		◎			PM ◎	日本小児科学会専門医
なかむら ともみ 中村 朋美	診療助手	小児一般						日本小児科学会専門医
かわさき たつや 河崎 達弥	診療助手	小児一般						日本小児科学会専門医
いりえ しんじ 入江 慎二	診療助手	新生児						日本小児科学会専門医
みやむら ふみや 宮村 文弥	診療助手	小児一般/循環器						日本小児科学会専門医

やました たかひろ 山下 貴大	診療助手	血液・腫瘍					PM ◎	日本小児科学会専門医
くわだ なおみ 鋤田 直美	医 員	膠原病			◎ ◎		◎	日本小児科学会専門医
かしき ともこ 榎木 朋子	医 員	小児一般		◎	◎			日本小児科学会専門医
こうろぎ けんさく 興梧 健作	医 員	血液・腫瘍						日本小児科学会専門医
ひだか ゆうこ 日高 優子	医 員	腎臓・透析		AM ◎				日本小児科学会専門医
いまむら ひろこ 今村 紘子	医 員	小児一般						
ふるいえけい しろう 古家圭士郎	医 員	小児一般		◎				
くすのきしょういちろう 楠木翔一郎	医 員	小児一般				◎		
おおつか りな 大塚 里奈	医 員	小児一般						
かたやま だいすけ 片山 太輔	医 員	小児一般						
はまぐち まさよし 濱口 正義	医 員	小児一般						
かわの りな 河野 里奈	医 員	小児一般						
かたおか なつみ 片岡 菜摘	医 員	小児一般						
ほとけぶち なおと 佛淵 尚人	医 員	小児一般						
もりなが しんご 森永 信吾	客員助教	血液、腫瘍					AM ◎	日本小児科学会専門医・指導医、日本血液学会専門医、日本小児血液がん学会専門医・指導医、日本造血細胞移植学会専門医
教育学部 教授 なかざと ひとし 仲里 仁史	非常勤 診療医師	腎臓、透析			AM ◎		PM ◎	日本小児科学会専門医、日本腎臓学会専門医・指導医
崇城大学薬学部 教授 まつくら まこと 松倉 誠	非常勤 診療医師	神経 / 発達 / 発達障害 (自閉症、ADHD など)		PM ◎				日本小児科学会専門医
じょうどいたかこ 上土井貴子	非常勤 診療医師	生体リズム / 小児の心のケア		◎				日本小児科学会専門医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<ul style="list-style-type: none"> ◇【小児科一般】 ◇【代謝性疾患】糖尿病、脂質異常症、先天性代謝異常症 ◇【血液疾患、悪性腫瘍】貧血、血小板減少症、血友病、白血病、悪性リンパ腫、悪性固形腫瘍、免疫不全 ◇【先天異常、遺伝性疾患】奇形症候群、染色体異常 ◇【膠原病】全身性エリテマトーデス、若年性特発性関節炎 ◇【内分泌疾患】低身長、甲状腺疾患、副腎疾患、思春期早発症、やせ、肥満 ◇【腎疾患】急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全 ◇【神経疾患】てんかん ◇【新生児】未熟児、呼吸窮迫症候群、黄疸 ◇【重症心身障がい】 ◇【神経・筋疾患】筋ジストロフィー、けいれん性疾患、変性疾患 ◇【発達・発育障害】発達遅延、自閉症、多動性障害 ◇【自律神経障害】不登校 	<ul style="list-style-type: none"> ◇検尿、一般血液生化学は共通 ◇血糖、経口ブドウ糖負荷テスト、アンモニア、血液ガス、アミノ酸定量、尿有機酸分析等 ◇骨髓検査、髄液検査、染色体検査等 ◇各種自己抗体検査等 ◇各種ホルモン検査、各種負荷テスト等 ◇検尿、血圧、腎生検、腎シンチ等 ◇神経筋疾患…血液検査、髄液検査、脳波、遺伝検査（特殊）、筋生検 ◇発達・発育障害…発達検査、知能検査、箱庭 ◇内分泌疾患…ホルモン分泌検査、画像、生理検査、遺伝検査（特殊）、成長曲線作製、生活食事リズム作製 	<ul style="list-style-type: none"> ◇【適宜】インスリン治療、食事指導、運動指導、特殊ミルク等 ◇化学療法、放射線治療、骨髄移植、末梢血幹細胞移植等 ◇遺伝カウンセリング等 ◇免疫抑制剤等 ◇ホルモン補充療法等 ◇免疫抑制剤、降圧剤、腹膜透析等 ◇抗てんかん薬等、ACTH療法、ケトン食療法 ◇輸液、NICU管理、人工呼吸管理、光線療法、経管栄養等 ステロイド治療、ACTH療法 ◇ガンマグロブリン療法 ◇特殊治療、在宅人工呼吸療法など ◇生活指導、食事指導、カウンセリング

診療科長



かたぶち ひでたか
片瀬 秀隆
(教授)

●診療科の紹介

周産期医療（妊娠・分娩、合併症妊娠の管理、出生前診断）、および生殖医療（不妊症に対する人工授精・体外受精胚移植・顕微授精）の領域について診療を行っています。同じく女性を診療する部門である婦人科と密接に協力しつつ、女性に対する全人的診療ができるように努めています。

外来診療は熟達した専門医師による診療を基本としています。さらに臨床遺伝専門医による遺伝カウンセリングを開設しています（要予約）。

周産期医療に関しては、周産母子センターに新生児治療室（NICU）15床を有し、2011年9月には6床の母体胎児集中治療管理室（MFICU）が新設されました。併せて継続治療室（GCU）12床を有しており、より高いリスクの妊婦さんや新生児への対応を行うために、小児科、発達小児科、小児外科などと連携して、24時間体制でハイリスク新生児の管理を行っています。

不妊症診療に関しては、婦人科の診療スタッフ、不妊分野認定看護師、胚培養士でチームを組んで診療にあたっています。不妊症に対する系統的診断および個別的な診療を行い、適応例に対しては人工授精、体外受精・胚移植、顕微授精といった生殖補助医療技術（ART）を導入し、年間100周期ほどの胚移植を行っています。また、腹腔鏡下手術は不妊症の診断・治療に不可欠の技術となっていますが、当科では1986年より腹腔鏡下手術を導入、婦人科良性疾患や異所性妊娠に対する外科的治療の第一選択として行っています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○：初診 ◎：再診 ■：NIPT/ 遺伝カウンセリング □：MFICU

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
かたぶち ひでたか 片瀬 秀隆	教授 (総合周産期母子医療センター長、「私のカルテ」がん診療センター長、生殖医療・がん連携センター長)	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、熊本県母体保護法指定医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、日本女性ヘルスケア暫定指導医
おおば たかし 大場 隆	准教授 (総合周産期母子医療センター兼任)	産科・婦人科	○ ◎		○ ◎	□	◎	日本産科婦人科学会専門医、日本超音波学会専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科指導医、日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）指導医、熊本県母体保護法指定医
ほんだ りつお 本田 律生	講師 (総合周産期母子医療センター兼任)	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医
もとはら たけし 本原 剛志	講師	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医
やまぐち わねかげ 山口 宗影	助教	産科・婦人科	○ ◎					日本産科婦人科学会専門医、日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、熊本県母体保護法指定医
さいとう ふみたか 齋藤 文誉	助教 (総合周産期母子医療センター兼任)	産科・婦人科						日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医
まつお ゆうじ 松尾 勇児	助教	婦人科・産科	◎		○ ◎		◎	日本産科婦人科学会専門医
ちが まさひこ 値賀 正彦	助教 (産科病棟医長)	婦人科・産科	□	□	□	◎	□	日本産科婦人科学会専門医
やまもと なお 山本 直	助教 (婦人科病棟医長)	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医
つぼき じゅんこ 坪木 純子	助教 (外来医長)	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医
たけした ゆうこ 竹下 優子	診療助手	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医
しばさき さとし 柴崎 聡	医員	婦人科・産科						
なかむら みわ 中村 美和	医員	産科・婦人科						
せ おゆうたろう 瀬尾優太郎	医員	産科・婦人科						
きしもと 岸本かおり	医員	産科・婦人科						
しもかわ りさ 下川 理沙	医員	産科・婦人科						

さ が ら あ き ひ と 相良 昭仁	医 員	産科・婦人科						
と み な が ま り こ 富永茉莉子	医 員	産科・婦人科						
よ し む ら さ お り 吉村 早織	医 員	産科・婦人科						
す ぎ の れ い か 杉野 麗花	医 員	産科・婦人科						
よ し つ み た か こ 吉積 貴子	医 員	産科・婦人科						
保健学科 教授 た し ろ ひ ろ の り 田代 浩徳	非常勤 講 師	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
あ ら か ね ふ と し 荒金 太	非常勤 医 師	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、日本産科婦人科学会 指導医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医
お お た け ひ で ゆ き 大竹 秀幸	非常勤 医 師	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍学会専門医
お か む ら よ し の り 岡村 佳則	非常勤 医 師	産科・婦人科						日本産科婦人科学会専門医、日本産科婦人科学会 指導医、日本生殖医学会生殖医療専門医
た う ら ゆ み こ 田浦裕三子	医 員	産科・婦人科			■			日本産科婦人科学会専門医、日本人類遺伝学会臨 床遺伝専門医、日本内分泌学会内分泌・代謝科專 門医
ほ ん だ と も こ 本田 智子	非常勤 医 師	産科・婦人科						日本産科婦人科学会専門医、熊本県母体保護法指 定医、日本生殖医学会生殖医療専門医
さ か ぐ ち い さ お 坂口 勲	非常勤 医 師	婦人科・産科						日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医、日本周産期・新生児医学会周 産期専門医（母体・胎児）、日本がん治療認定機構 がん治療認定医、新生児蘇生法インストラクター、 熊本県母体保護法指定医、日本骨粗鬆症学会認定 医
さ さ き る み 佐々木瑠美	非常勤 医 師	産科・婦人科				■ (第2期)		日本産科婦人科学会専門医、日本人類遺伝学会臨 床遺伝専門医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<ul style="list-style-type: none"> ○周産期領域 ○不妊症・不育症 ○内分泌疾患 (性腺機能異常、性分化異常など) ○生殖医療カウンセリング (不妊相談室、母体血を用いた出生 前遺伝学的 (NIPT) など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○超音波断層法 パルスドップラー ○胎児心拍モニタリング ○羊水穿刺 (染色体検査 他) 	<ul style="list-style-type: none"> ○切迫流産・早産の予防治療 ○合併症妊娠の治療 多胎妊娠 妊娠高血圧症候群 妊娠糖尿病 等 ○帝王切開術後の経膈分娩 (VBAC) ○早産低出生体重児管理 (NICU) ○異常新生児の集学的管理 (NICU) ○胞状奇胎の管理治療

診療科長



みやもと たけし
宮本 健史
(教授)

●診療科の紹介

骨、関節、筋肉、腱、神経など、体を支えたり動かしたりする仕組みを運動器と呼びますが、整形外科は、この運動器の病気や外傷を診察し、治療を行う診療科です。患者様は新生児から高齢者まで広い年齢層にわたり、先天的な疾患、加齢に伴う疾患、交通事故やスポーツによる外傷、腫瘍、炎症性疾患、代謝性疾患など、多種多様な疾患を対象としています。

当科では、安全で高度な医療を提供するために、専門診療体制を整備し、それぞれの疾患ごとに専門医が診療に当たっています。薬物治療や運動療法（リハビリテーション）などで効果が十分でない場合には、手術が必要となることもあります。当科では関節鏡や内視鏡、また顕微鏡などを使って患者様の負担がより少ない手術法を選択し、なるべく早く日常生活やスポーツへの復帰ができるように心がけています。

また、他施設では扱われない骨・軟部悪性腫瘍や癌の骨転移、側彎症、病的低身長や脚長不同症に対する脚延長などにも積極的に取り組んでいます。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
みやもと たけし 宮本 健史	教授	脊椎・脊髄外科、関節外科、骨粗鬆症、関節リウマチ				◎		日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本骨粗鬆症学会専門医、日本リウマチ学会専門医
ふじもと とおる 藤本 徹	講師	脊椎・脊髄外科		○ (午後のみ)			◎	日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術技術認定医
からすぎ たつき 唐杉 樹	講師	肩関節外科、スポーツ医学		◎			◎	日本整形外科学会専門医
たにわき たくや 谷脇 琢也	助教	脊椎・脊髄外科				◎	◎	日本整形外科学会専門医
おかもと のぶかず 岡元 信和	助教	膝・足関節外科				◎	◎	日本整形外科学会専門医
きとう ひろお 佐藤 広生	助教	骨・軟部腫瘍				◎	○	日本整形外科学会専門医、がん治療認定医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
おか きよし 岡 潔	助教	股関節外科		◎		◎		日本整形外科学会専門医
おか たつや 岡田 龍哉	特任助教	脊椎・脊髄外科		◎		◎		日本整形外科学会専門医
すえよし たかなお 末吉 貴直	特任助教	骨・軟部腫瘍		○			◎	日本整形外科学会専門医
ますだ てつろう 舩田 哲朗	特任助教	膝関節外科				◎	◎	日本整形外科学会専門医
うえはら ゆうすけ 上原 悠輔	医員	股関節外科				◎	◎	日本整形外科学会専門医
とくなが たくや 徳永 琢也	医員	肩関節外科				◎	◎	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本体育協会公認スポーツドクター
なかむら たかゆき 中村 孝幸	医員	脊椎・脊髄外科		◎		◎		日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
ひさなが さとし 久永 哲	医員	膝関節外科		◎				日本整形外科学会専門医
いとう ひとし 伊藤 仁	医員	膝・足関節外科		○			◎ (午後のみ)	日本整形外科学会専門医、身体障害者福祉法第15条指定医、難病指定医
すぎもと かずき 杉本 一樹	医員	脊椎・脊髄外科						日本整形外科学会専門医

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
◎関節外科（変形性膝関節症、変形性股関節症、関節リウマチ、大腿骨頭壊死、五十肩、肩腱板断裂）	画像検査（X線、CT、MRI、超音波）、関節液検査、関節鏡検査	運動療法、理学療法、装具療法、薬物療法、手術療法（関節鏡視下郭清術、骨切り術、人工関節置換術、関節鏡視下授動術、関節鏡視下腱板修復術）
◎脊椎・脊髄外科（椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊椎・脊髄腫瘍、側彎症）	画像検査（X線、CT、MRI、脊髄造影）、電気生理学的検査、ブロックテスト	薬物療法、装具療法、ブロック療法、手術療法（椎弓切除・形成術（内視鏡視下または顕微鏡視下）、椎間固定術、腫瘍摘出術、側彎症手術）
◎腫瘍外科（骨腫瘍、軟部腫瘍）	画像検査（X線、CT、MRI）、生検組織病理検査	手術療法（良性腫瘍：腫瘍切除術、悪性腫瘍：化学療法・放射線療法を併用した患肢温存手術）
◎スポーツ整形外科（膝靭帯損傷、半月板損傷、離断性骨軟骨炎、反復性肩関節脱臼、野球肩、野球肘）	画像検査（X線、CT、MRI、超音波）	運動療法、理学療法、装具療法、薬物療法、手術療法（関節鏡視下靭帯再建術、関節鏡視下半月板縫合術、骨軟骨移植術、関節鏡視下関節形成術）
◎小児整形（脚長不同症、病的低身長、先天性骨系統疾患、先天性股関節脱臼）	各種画像検査（X線、CT、MRI、超音波）	装具療法、手術療法（骨延長術、骨切り術、関節形成術）
◎外傷（骨折、脱臼）	画像検査（X線、CT、MRI）	保存療法（牽引療法、ギプス包帯療法、装具療法）、手術療法（骨接合術、関節整復術）
◎運動器リハビリテーション	画像検査（X線、CT、MRI）、筋力検査、歩行分析、電気生理学的検査、心理テスト	運動療法、理学療法、作業療法、薬物療法、義肢・装具作成

皮膚科

医局 373-5233

診療科長



いん ひろのぶ
尹 浩信
(教授)

●診療科の紹介

皮膚病全般に対する診断。アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、日光過敏症、老化に伴う皮膚病、強皮症などの膠原病、イボ、悪性黒色腫（メラノーマ）をはじめとする皮膚悪性腫瘍などの診療を行っています。また、2006年3月より、ナローバンドUVBを用いた尋常性乾癬、尋常性白斑（しろなまず）、皮膚悪性リンパ腫の治療も開始しました。特殊再診として、月曜日：アトピー性皮膚炎、悪性黒色腫、膠原病、水曜日：乾癬、膠原病、木曜日：乾癬、膠原病、金曜日：レーザー、乾癬を設けて、特色ある治療を行っています。

■スタッフ紹介

外来診療日記号 ○=初診 ◎=再診

氏名	職名	専門分野／専門領域	外来診療日					専門医／認定医
			月	火	水	木	金	
いん ひろのぶ 尹 浩信	教授	強皮症、膠原病、皮膚腫瘍、アトピー性皮膚炎、乾癬、水疱症、創傷治療	○					日本皮膚科学会認定主研修施設指導医、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
ふくしま さとし 福島 聡	准教授	皮膚悪性腫瘍、アトピー性皮膚炎						日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、皮膚悪性腫瘍指導専門医、日本アレルギー学会認定アレルギー専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床免疫学会免疫療法認定医
まきの たかみつ 牧野 貴充	講師	強皮症、膠原病			◎		◎	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
あおい じゅん 青井 淳	助教	皮膚悪性腫瘍			○	◎		日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、日本がん認定医機構がん治療認定医
みやした あずさ 宮下 梓	特任助教 (総合臨床研究部)	皮膚科一般、皮膚悪性腫瘍	◎			◎		日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
かじはら いつこう 梶原 一亨	特任助教	乾癬、膠原病、皮膚悪性腫瘍				○	◎	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医、日本がん認定医機構がん治療認定医
まきの かつなり 牧野 雄成	特任助教	強皮症、膠原病			◎		◎	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
ほんだ のりとし 本多 教稔	診療助手	膠原病、アレルギー			○			日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
なかはら さとし 中原 智史	診療助手	皮膚悪性腫瘍					◎	
なかむら かよ 中村 香代	特任助教	膠原病					◎	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
えがわ きよふみ 江川 清文	医員	皮膚科一般				○		日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
いのうえくにこ 井上久仁子	医員	皮膚科一般						日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
なかやま わかな 中山 若菜	医員	膠原病			◎			日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
かねまる ひさし 金丸 央	医員	皮膚科一般	◎					
わたなべ ちなつ 渡邊 千夏	医員	皮膚科一般	◎					
なかしま さとこ 中島 聡子	医員	皮膚科一般				○		
たなかけんいちろう 田中憲一郎	医員	皮膚科一般			◎			
かねこ あきら 金子 彰良	医員	皮膚科一般	◎					
きよはら さおり 清原佐央里	医員	皮膚科一般						
やまむら しゅうじ 山村 修司	医員	皮膚科一般						

ふるそう あきこ 古荘 晶子	医 員	皮膚科一般							
なかしま かおり 中島 香織	医 員	皮膚科一般							
さわむらそういちろう 澤村創一郎	診療助手 (ICU)	皮膚科一般		◎					
ながもと えいこ 永元 英子	医 員								
さかもと りょうこ 坂元 亮子	医 員								
きよはら みほこ 清原美穂子	医 員								
やました ともか 山下 智香	医 員						◎		
おおつか さき 大塚 紗希	医 員								
いしばし たかゆき 石橋 卓行	医 員								
みやむら ともひろ 宮村 智裕	医 員								
いしまつ しょうこ 石松 翔子	医 員								
みずはし さとる 水橋 覚	医 員								

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<ul style="list-style-type: none"> ◎湿疹、皮膚炎 ◎蕁麻疹 ◎痒疹・そう痒症 ◎薬物による皮膚疾患 ◎血液、リンパ管の疾患 ◎紅皮症 ◎角化異常症、炎症性角化症 ◎水疱症、膿疱症 ◎代謝異常症 ◎肉芽腫 ◎太陽光線による皮膚障害 ◎熱傷、褥瘡 ◎色素異常症 ◎膠原病（強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデス、血管炎など） ◎皮膚腫瘍（上皮系腫瘍、間葉系腫瘍、メラノサイト系腫瘍） ◎細菌感染症、真菌感染症、動物性皮膚症 ◎全身疾患と皮膚 ◎血管腫、母斑 	パッチテスト、IgE RAST IgE RAST、プリックテスト パッチテスト、IgE RAST DLST、パッチテスト、プリックテスト 皮膚病理検査 皮膚病理検査、パッチテスト、全身検査 皮膚病理検査 皮膚病理検査 全身検査、皮膚病理検査 皮膚病理検査 光線過敏検査 視診 皮膚病理検査 自己抗体検査、皮膚病理検査 皮膚病理検査、ダーモスコピー、センチネルリンパ節生検、皮膚超音波診断、遺伝子診断 視診、鏡検、細菌培養 視診、全身検査 皮膚病理検査	外用、内服 内服、外用 内服、外用 内服、外用 内服、外用 内服、外用、入院治療 外用、重症例は内服、紫外線療法 基本的には入院治療 内服、外用 内服、外用、手術 内服、外用 外用、手術、重症例は入院治療 重要例は入院治療 入院治療（軽傷例は外来治療） 手術、化学療法 外用、内服 内服、外用、重症の場合には入院レーザー治療

診療科長



いん ひろのぶ
尹 浩信
(教授)

●診療科の紹介

形成外科とは、先天的あるいは後天的な身体外表の形状・色の変化、すなわち醜状を対象とし、これを外科手技によって、機能はもとより形態解剖学的に正常（美形）にし、外見と機能の回復をはかる外科です。広い意味で外科学に属する分野ですが、特に、なんらかの原因で失われた組織や臓器を「造る外科（再建外科）」としてほかの外科と異なる特徴があります。これにより、精神的なハンディキャップの軽減も含め、患者様の「社会復帰」と患者様の「生活の質（quality of life : QOL）の向上」を目指しています。

当科では腫瘍切除後の再建外科手術を中心として、リンパ浮腫、外傷、熱傷、難治性潰瘍、瘢痕拘縮、ケロイド、四肢先天異常の治療など、幅広い領域の治療を行っています。

■スタッフ紹介

外来診療日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野／専門領域	外来診療日					専門医／認定医
			月	火	水	木	金	
いん ひろのぶ 尹 浩信	教授	皮膚腫瘍、創傷治癒、細胞外マトリックス代謝調節						日本皮膚悪性腫瘍学会理事長 日本褥瘡学会理事 日本皮膚科学会認定主研修施設指導医 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 日本がん治療認定医機構暫定教育医 日本がん治療認定医 加齢皮膚医学研究会幹事 日本褥瘡学会九州地方会世話人 日本美容皮膚科学会理事 日本結合組織学会理事 日本炎症再生医学会評議員
ますぐち しんいち 増口 信一	講師	皮膚腫瘍／熱傷、外傷、外皮の先天異常			○ ◎			日本形成外科学会専門医、日本乳房オンコプラステックサージャリー学会乳房再建用エキスパンダー／インプラント責任医師
いがた としかつ 伊方 敏勝	助教	難治性潰瘍、皮膚腫瘍、乳房再建				○ ◎		日本形成外科学会専門医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、日本乳房オンコプラステックサージャリー学会乳房再建用エキスパンダー／インプラント責任医師、身体障害者福祉法15条指定医（肢体不自由）
にしむら ゆうき 西村 祐紀	医員						◎	日本形成外科学会専門医、日本乳房オンコプラステックサージャリー学会乳房再建用エキスパンダー／インプラント責任医師

主な診療領域

◎皮膚悪性腫瘍、腫瘍切除後の組織欠損

年間100件超の皮膚悪性腫瘍（皮膚がん）手術を行っております（2013年年間手術件数：悪性黒色腫30件、基底細胞癌31件、有棘細胞癌29件、乳房外パジェット病6件、隆起性皮膚線維肉腫4件、など。外来手術は除く）。皮膚がんには色々な種類のものがあり、それぞれ性質や予後も異なります。特に悪性黒色腫（メラノーマ）は予後が他の皮膚癌に比して悪く、的確な診断、迅速な治療が治療の鍵となります。また、手術だけでなく、抗癌剤による治療や放射線による治療も組み合わせ、集学的な治療を行っています。

また、皮膚がんの種類によっては顔面等に頻発し美容的再建が必要になるもの、四肢等に生じ機能的再建が必要になるものもあります。これについても当科で一貫して行っています。

◎リンパ浮腫

リンパ浮腫はリンパ液のうっ滞により上肢や下肢に浮腫が生じる病気です。婦人科癌や乳癌治療後の続発性リンパ浮腫や原因が分からない特発性リンパ浮腫があります。放置するとむくみだけでなく、蜂窩織炎などの感染症も生じます。当科では、リンパ管と細静脈を顕微鏡下で吻合する管細静脈吻合術（Lymphatico-venular anastomosis : LVA）を行っております。

◎乳房再建（自家組織による再建、人工乳房による再建）

乳がん治療により、失われたり変形した乳房を再び取り戻すのが「乳房再建」です。当科では自家組織による再建法、人工乳房（シリコンインプラント）を用いた再建法を行っております。乳腺外科と連携し、患者様に適切な時期・方法を選択してチーム医療を行います。

当院は2013年12月13日付で乳房再建用エキスパンダー実施施設及び乳房再建用インプラント実施施設認定を受けています。

<診療体制>

日本形成外科専門医 3名

外来診療は原則として、初診・再診ともに水・木曜日の午前（初診は紹介状が必要）で、完全予約制です。

外傷など緊急の疾患は麻酔科と協力し迅速に対応いたします。

診療科長



いのうえ としひろ
井上 俊洋
(教授)

●診療科の紹介

眼に関する疾患全般を扱っています。特に高度の手術技量と先進設備を必要とする失明性眼疾患である糖尿病網膜症、緑内障、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症などの治療に積極的に取り組んでおります。本院眼科では、年間約1,700件の手術を行い、特徴は網膜硝子体手術や緑内障手術の頻度が高いことが挙げられます。特に白内障手術との同時手術が多数施行されております。また最新の先進医療としては、硝子体手術における内視鏡手術や加齢黄斑変性症に対する光線力学療法・抗 VEGF 療法、新しい薬物療法の開発などを導入してきました。

診断面では、光干渉断層図 (OCT)、前眼部 OCT、デジタル眼底撮影装置などの画像診断装置を揃え、専門外来として、網膜疾患外来、糖尿病網膜症外来、神経眼科外来、斜視弱視外来、緑内障外来、ぶどう膜炎外来などがあり、専門家による最新の医療を提供しています。

また、当科の理念として、積極的な地域連携を心がけており、かかりつけ医の先生方と緊密な連携により、安心いただける医療体制を構築したいと考えています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
いのうえ としひろ 井上 俊洋	教授	緑内障、神経眼科	○			●		日本眼科学会眼科専門医
ふくしま みきこ 福島美紀子	准教授	網膜疾患、糖尿病網膜症		●		○		日本眼科学会眼科専門医
いとう やすひろ 伊藤 康裕	診療講師	糖尿病網膜症、未熟児網膜症	○	●				日本眼科学会眼科専門医
たかはし えり 高橋 枝里	講師	緑内障、ぶどう膜炎		○		●		日本眼科学会眼科専門医
ありむら かずえ 有村 和枝	助教	網膜疾患、未熟児網膜症、斜視弱視	●			○	●	日本眼科学会眼科専門医
たきはら ゆうじ 瀧原 祐史	助教	緑内障		○		●		日本眼科学会眼科専門医
こじま さち 小島 祥	助教	緑内障、未熟児網膜症		●		○		日本眼科学会眼科専門医
はが あきら 芳賀 彰	助教	網膜疾患、黄斑疾患	●	○				日本眼科学会眼科専門医
なかしま けいいち 中島 圭一	助教	緑内障、未熟児網膜症	○			●		日本眼科学会眼科専門医
ふくしま あやこ 福島亜矢子	助教	網膜疾患、斜視弱視	●			○	●	日本眼科学会眼科専門医
ふたくち あきこ 二口亜希子	医員	緑内障						
ふくしま こうき 福島 巨希	医員							
なかにし みほ 中西 美穂	医員							
うえ だしょうたろう 上田祥太郎	医員							
おだわらあつこ 小田原敦子	医員							
きむら あきとし 木村 顕俊	医員							
きやま ゆう 木山 優	医員							
まえだ なつき 前田 奈月	医員							
こじま せつ 小島 摂	医員							
ほった あきとし 堀田 明俊	医員							
むらた なつみ 村田 夏実	医員							

とくなが 徳永	あんな 杏奈	医 員						
------------	-----------	-----	--	--	--	--	--	--

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<ul style="list-style-type: none"> ◎ぶどう膜疾患 ◎白内障 ◎網膜剥離 ◎緑内障 ◎黄斑疾患 ◎糖尿病網膜症 ◎網膜循環障害 ◎硝子体疾患 ◎斜視・弱視 ◎眼瞼疾患 ◎神経眼科 	<p>視力、視野、色覚など眼科の基本的な検査から、フルオレセイン・インドシアニングリーン蛍光眼底造影、走査レーザー検眼鏡（SLO）、光学的干渉断層計（OCT）、超音波生体顕微鏡（UBM）、多局所網膜電図（VERIS）各種視神経乳頭解析装置などの最新の検査装置を最大限に活用し、迅速で正確な診断と病態の把握に努め、治療方針の決定に役立てています。</p>	<p>網膜・硝子体手術、緑内障手術を中心に、白内障・眼内レンズ手術、斜視手術など、年間1,700件を数える外科的治療の他、加齢黄斑変性に対する光線力学療法・抗 VEGF 療法、黄斑浮腫に対する局所ステロイド療法・抗 VEGF 療法など、最新の知見に基づく治療を行っています。</p> <p>また、視機能の回復が困難となった方に対しても、ロービジョン外来として、残存視力や視野の活用や補助具の選定のお手伝いもさせて頂いています。</p>

診療科長



おりた よりひさ
折田 頼尚
(教授)

●診療科の紹介

当科は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の疾患全般を扱っております。

鼻副鼻腔、耳、口腔咽頭、喉頭、頸部、甲状腺、唾液腺には様々な疾患が起こりますが、おもに手術治療を中心に診療を行っています。

進行癌に対しては、放射線、抗癌剤、手術治療の組み合わせにより治療を行い、腫瘍摘出後は有茎皮弁あるいは遊離皮弁を用いて形態機能再建を積極的に行っています。

これらの悪性腫瘍手術に加えて、音声外科、嚥下機能再建手術、中耳手術、人工内耳埋め込み手術など機能外科手術にも積極的に取り組んでおります。

例年、当科では、これらの手術を含め年間約600件の手術を行っています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診察日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
おりた よりひさ 折田 頼尚	教授	頭頸部腫瘍(含甲状腺腫瘍)、中耳疾患、鼻副鼻腔疾患	○ ◎		○ ◎			日本耳鼻咽喉科学会専門医、頭頸部がん専門医指導医、頭頸部がん専門医暫定指導医、頭頸部がん専門医、がん治療認定医、日本内分泌甲状腺外科専門医
くまい よしひこ 熊井 良彦	准教授	中耳炎、顔面神経麻痺、頭頸部腫瘍、嚥下障害、人工内耳	○		◎ ●			日本耳鼻咽喉科学会専門医、頭頸部がん専門医、がん治療認定医
むらかみ だいぞう 村上 大造	講師	頭頸部腫瘍、耳鼻咽喉科一般	◎		◎ ●		○	日本耳鼻咽喉科学会専門医、がん治療認定医、頭頸部がん専門医
みやまる さとる 宮丸 悟	講師	耳鼻咽喉科一般、頭頸部腫瘍、鼻副鼻腔疾患	◎		◎ ●		◎	日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本気管食道科学会専門医、がん治療認定医、頭頸部がん専門医
いせ ももこ 伊勢 桃子	助教	耳鼻咽喉科一般、聴覚障害、小児難聴	◎		○			日本耳鼻咽喉科学会専門医
にしもと こうへい 西本 康兵	助教	耳鼻咽喉科一般、頭頸部腫瘍、咽頭疾患	◎		○ ●			日本耳鼻咽喉科学会専門医
やまだ たかお 山田 卓生	助教	耳鼻咽喉科一般、平衡障害、補聴器	◎		◎ ●		○ ●	日本耳鼻咽喉科学会専門医
たけだ ひろき 竹田 大樹	特任助教	耳鼻咽喉科一般			◎		○	
みやもと ゆうすけ 宮本 祐亮	特任助教	耳鼻咽喉科一般						
すがむら まゆみ 菅村真由美	医員・パート	耳鼻咽喉科一般	◎					日本耳鼻咽喉科学会専門医
たかむら はるか 高村 晴香	医員・パート	耳鼻咽喉科一般			◎		◎	日本耳鼻咽喉科学会専門医
さいとう はるき 齋藤 陽元	医員	耳鼻咽喉科一般						
おがわしん たろう 小川晋太郎	医員	耳鼻咽喉科一般						
いとうやま まい 伊東山 舞	医員	耳鼻咽喉科一般						
うえだ ひろゆき 植田 寛之	医員	耳鼻咽喉科一般						
おかざき たろう 岡崎 太郎	医員	耳鼻咽喉科一般						
だいとく ともあき 大徳 朋亮	医員	耳鼻咽喉科一般						
たけもと りさ 竹本 梨紗	医員	耳鼻咽喉科一般						
ひろたかおるこ 廣田薫瑠子	医員	耳鼻咽喉科一般						
しもだ ゆたか 志茂田 裕	医員	耳鼻咽喉科一般						
まかた ひろあき 眞方 洋明	医員	耳鼻咽喉科一般						

みのだ 袁田	まさひこ 理彦	医員	耳鼻咽喉科一般						
むらかみ 村上	あきら 瑛	医員	耳鼻咽喉科一般						

認定施設 一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医研修施設、日本気管食道科学会気管食道科専門医研修施設、日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医研修施設、内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設、一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
◎難聴・平衡覚疾患（中耳炎、難聴、耳鳴、めまい、顔面神経麻痺、人工内耳など）	聴力検査、電気生理学的検査、画像検査（CT、MRI）など	薬や手術などの治療
◎上気道疾患（鼻・副鼻腔炎、睡眠時無呼吸症、鼻閉、鼻漏、鼻出血、いびき、口内乾燥感など）	画像検査（単純X線、CT、MRI）、内視鏡検査など	薬や手術などの治療
◎口腔・咽頭疾患（嚥下障害、唾液腺疾患、味覚・嗅覚障害、頸部腫瘍、口腔・咽頭の腫瘍など）	咽頭食道透視検査、内視鏡検査、味覚・嗅覚検査、画像診断（CT、MRIなど）など	薬や手術などの治療
◎音声・言語障害（声帯麻痺、発声障害）	内視鏡検査、画像診断（3DCT）など	発声訓練、手術などの治療
◎アレルギー、免疫疾患（鼻アレルギー、シェーグレン症候群）	鼻汁検査、内視鏡検査、唾液腺造影検査など	薬、減感作治療、手術など
◎頭頸部腫瘍（鼻・咽頭癌、口腔癌、喉頭癌、唾液腺腫瘍、甲状腺の腫瘍）	内視鏡検査、組織検査、画像検査（CT、MRI、PETなど）など	抗癌剤、手術、放射線治療
◎顔面外傷（骨折）	画像検査（CT、MRI）	手術など
◎嚥下障害	嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、嚥下圧検査など	リハビリ、手術など

診療科長



なかやま ひでき
中山 秀樹
(教授)

●診療科の紹介

口腔悪性腫瘍については、切除可能な場合には手術を中心とした治療を行い、術後の機能回復のため、各種皮弁による軟組織や硬組織の即時再建術を行っています。切除困難な場合には、化学放射線療法による治療を行っています。

唾液腺癌や肉腫については手術を主体にし、術後に抗癌剤や放射線による補助療法を行っています。

良性腫瘍の治療法は外科的切除が主体ですが、エナメル上皮腫については機能温存を第一に考え開窓療法を主体に治療しています。

唾液腺粘膜嚢胞、類皮嚢胞、甲状舌管嚢胞などについては摘出術を、歯原性のものであれば歯牙、顎骨の温存を第一に考え、開窓療法を主体に治療しています。

顎変形症における外科的矯正手術は、下顎枝矢状分割術ならびに上顎骨のLeFort I型骨切り術が主体です。

顔面外傷（顎顔面骨骨折、歯牙破折、軟組織損傷）の治療は、顎骨骨折にはミニプレートによる治療を行い、歯牙破折に対しては歯牙の整復・固定、を行っています。軟組織の損傷に対しては、適宜、デブリードメントと縫合術を行っています。

顎関節症の治療法としては症状にあわせて薬物療法、スプリント療法、理学療法、関節円板の整復、関節腔内洗浄療法などを行っています。

口腔感染症については、軽度症例から重症症例まで全身管理を含めて治療し、全身合併症を有する患者様に対しては当院各科と連携して治療を行っています。

口腔粘膜疾患の前癌病変、アレルギー性疾患、自己免疫疾患（天疱瘡、シェーグレン症候群ほか）などに対しては、病理組織学的検査や血清学的検査の結果に従って治療を行っています。口腔乾燥症（ドライマウス）に対しては、原因を精査して適切な診断を行い、症状に応じて保湿指導や唾液腺マッサージ、そして口腔管理の指導を行っています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診察日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
なかやま ひでき 中山 秀樹	教授	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患	○ ◎		○ ◎		○ ◎	日本口腔外科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構 暫定教育医・がん治療認定医（歯科口腔外科）、日本口腔腫瘍学会暫定口腔がん指導医、日本口腔科学会認定医・指導医、日本顎関節学会暫定指導医、臨床研修指導歯科医師
よしだ りょうじ 吉田 遼司	准教授	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患						日本口腔外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）、日本口腔科学会認定医、臨床研修指導歯科医師
ふくま だいき 福間 大喜	助教	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患	○ ◎ ●	○ ◎	○ ◎ ●		○ ◎ ●	日本口腔外科学会専門医、日本口腔科学会認定医、臨床研修指導歯科医師
ひろすえ あきゆき 廣末 晃之	助教	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患						日本口腔外科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）、日本口腔科学会認定医、臨床研修指導歯科医師
ながた まさし 永田 将士	助教	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患	○ ◎ ●		○ ◎	○ ◎	○ ◎ ●	日本口腔外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）、臨床研修指導歯科医師
かわはら けんた 川原 健太	特任助教	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患	○ ◎ ●	○ ◎	○ ◎	○ ◎		日本口腔外科学会認定医・専門医、臨床研修指導歯科医師
よねだ まさかず 米田 雅一	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎関節疾患、口腔粘膜疾患	○ ◎ ●	○ ◎	○ ◎	○ ◎	○ ◎ ●	臨床研修指導歯科医師
たけした ひさし 竹下 尚志	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎関節疾患、口腔粘膜疾患					●	日本口腔外科学会認定医、日本口腔科学会認定医、日本有病者歯科医療学会認定医、日本口腔ケア学会認定資格（3級）、日本化学療法学会認定抗菌化学療法認定歯科医師、臨床研修指導歯科医師
まつおかゆういちろう 松岡祐一郎	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎関節疾患、口腔粘膜疾患	○ ◎	○ ◎		○ ◎	○ ◎	日本口腔外科学会認定医、臨床研修指導歯科医師
こじま たく 小島 拓	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎関節疾患、口腔粘膜疾患						臨床研修指導歯科医師
つるた みき 鶴田 未季	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎関節疾患、口腔粘膜疾患	○ ◎	○ ◎		○ ◎	○ ◎	臨床研修指導歯科医師
なかしま ひかる 中嶋 光	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん、顎関節疾患、口腔粘膜疾患						日本口腔外科学会認定医
かわぐち しょう 川口 翔	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん					●	
ごうはら しゅんすけ 郷原 俊輔	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん	●					
ながお ゆうか 永尾 優果	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん					●	
やまな けいすけ 山名 啓介	医員	歯科口腔外科全般、口腔がん	●					

おおやま 大山	とおる 徹	医 員	歯科口腔外科全般、口腔がん	○ ○	○ ○	○ ○		○ ○	
りゅう 劉	りん 隣	医 員	歯科口腔外科全般、口腔がん	●					
あらかき 新垣	しょうた 勝太	医 員	歯科口腔外科全般、口腔がん						
かりや 假屋	あやか 彩華	医 員	歯科口腔外科、口腔がん	○ ○	○ ○		○ ○	○ ○	
かわはら 河原	みく 未来	医 員	歯科口腔外科、口腔がん						
なかやま 中山	しょうた 翔太	医 員	歯科口腔外科、口腔がん	○ ○	○ ○	○ ○		○ ○	
みやはら 宮原	ともや 知也	医 員	歯科口腔外科全般、口腔がん						
きかい 堺	みほ 美穂	医 員	歯科口腔外科全般、口腔がん	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	
ねい 根井	のりゆき 紀幸	医 員	歯科口腔外科全般、口腔がん	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	
よしだ 吉田	かつら 佳子	医 員	歯科口腔外科全般、口腔がん	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	
くぼ 久保	りゅうた 隆太	後 期 研修医	歯科口腔外科全般、口腔がん						
やすなみ 安浪	りさ 理沙	後 期 研修医	歯科口腔外科全般、口腔がん						

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
◎顎・口腔領域の腫瘍、のう胞	画像診断（CT、MRI、エコー、PET）、 生体組織検査など	外科的処置を中心とした薬物療法、放 射線治療、免疫療法
◎顎・顔面領域の感染症（軟組織の炎 症、顎骨骨膜炎、骨髄炎等）	画像診断、血液、生化学検査など	消炎処置（抗菌剤療法・外科的排膿 術）、原因歯の処置
◎顎・顔面の外傷（軟組織の損傷、歯 牙の外傷、顎骨骨折）	画像診断、咬合検査など	外科的処置（観血的または非観血的整 復固定術）
◎顎関節症	画像診断、咬合機能検査など	薬物療法、外科的処置、保存療法
◎顎変形症	画像診断、ペーパーサージェリーなど	手術前矯正、外科的矯正手術、手術後 矯正
◎唇顎口蓋裂	画像診断、ペーパーサージェリーなど	手術前矯正、外科的矯正手術、手術後 矯正
◎口腔粘膜疾患	触診、生体組織検査など	薬物療法、外科的処置
◎有病者の歯牙ならびに歯周疾患治療	身体障害の診断ならびに必要な画像診 断など	全身麻酔下における歯科治療
◎ドライマウス	唾液量検査、画像診断、生体組織検査、 血液検査など	薬物療法、唾液腺マッサージ、心身医 学的療法

診療科長



いけだ おさむ
池田 理
(准教授)

●診療科の紹介

画像診断・治療科ではいわゆる生活習慣病、特に癌や血管の病気（脳卒中や心筋梗塞、大動脈瘤）を始め、様々な病気の画像診断を行っております。

これらの疾患の診断は超音波、CT、MRI および内視鏡検査などによって行われますが、画像診断・治療科はそれを専門にする診療科で、他の病院で診断がつかない患者様の精密検査や他の診療科からの画像読影コンサルトも行っております。

また、画像診断・治療科では画像診断を治療に応用した低侵襲治療（Interventional radiology）と呼ばれる新しい治療にも積極的に取り組んでおります。

この治療法はCTや血管造影などを用いて手術をせずに癌や血管の病気をなおす方法で、具体的には肝臓癌、肺癌、腎臓癌、膵臓癌、胃癌、食道癌などの癌や閉塞性動脈硬化症、食道胃静脈瘤、腹部大動脈瘤などの血管の病気の治療も行っております。

この治療は効果は手術に匹敵する一方、手術による治療と比較すると治療中の患者の負担が小さく、治療後の回復も早いという特徴があります。

このように画像診断・治療科では最新の画像診断の技術を駆使して、診断のみならず様々な治療を行っておりますので、お気軽にご相談ください。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
いけだ おさむ 池田 理	准教授	画像診断、血管学、IVR			○ ◎			日本医学放射線学会放射線診断専門医、IVR 認定医、ステントグラフト指導医、脈管専門医
非常勤診療医師等 とみぐち せいじ 富口 静二	医学部 保健学科 教授	画像診断、核医学			○ ◎			日本核医学会専門医、日本医学放射線学会放射線診断専門医
きたじま みか 北島 美香	中央 放射線部 准教授	画像診断、中枢神経						日本医学放射線学会放射線診断専門医、検診マンモグラフィ読影認定医、PET 認定医
なかうら たけし 中浦 猛	講師	画像診断、CT、MRI						日本医学放射線学会放射線診断専門医
おだせい たくろう 尾田 済太郎	特任講師	画像診断、CT、MRI						【兼任/画像診断解析学 特任講師】日本医学放射線学会放射線診断専門医
ささお あきら 笹尾 明	特任講師	画像診断、CT、MRI						【兼任/画像動態応用医学 特任講師】日本医学放射線学会放射線診断専門医
かわなか こういち 河中 功一	助教	画像診断、CT下生検、IVR	○ ◎		○ ◎		○ ◎	日本医学放射線学会放射線診断専門医
しらいし しんや 白石 慎哉	助教	画像診断、核医学及びPET	○ ◎					日本医学放射線学会放射線診断専門医、検診マンモグラフィ読影認定医、PET 核医学認定医、日本核医学会専門医
いむ たまさのり 伊牟田 真功	助教	画像診断、消化管内視鏡	○ ◎		○ ◎			日本医学放射線学会放射線診断専門医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
たむら よしたか 田村 吉高	助教	画像診断、IVR						日本医学放射線学会放射線診断専門医、IVR 認定医、ステントグラフト指導医、脈管専門医
さかもと ふみ 坂本 史	中央 放射線部 助教	画像診断、核医学						日本医学放射線学会放射線診断専門医、PET 認定医
うえたに ひろゆき 上谷 浩之	特任助教	画像診断、中枢神経						日本医学放射線学会放射線診断専門医
いのうえせいじろう 井上 聖二郎	特任助教	画像診断、IVR						日本医学放射線学会放射線診断専門医、IVR 認定医、脈管専門医
ながやま やすのり 永山 泰教	特任助教	画像診断、CT、MRI						【兼任/画像解析学 特任助教】日本医学放射線学会放射線診断専門医
きどう まさふみ 木藤 雅文	特任助教	画像診断、CT、MRI						【兼任/地域支援連携ネットワーク実践学 特任助教】日本医学放射線学会放射線診断専門医
つだ のりこ 津田 紀子	医員	画像診断、核医学						日本医学放射線学会放射線診断専門医
たていし まちこ 立石 真知子	医員	画像診断、中枢神経						日本医学放射線学会放射線診断専門医
なかがわ まさたか 中川 雅貴	医員	画像診断、CT、MRI						日本医学放射線学会放射線診断専門医
よこた やすひろ 横田 康宏	医員	画像診断、消化管内視鏡						日本医学放射線学会放射線診断専門医
いのうえ たいへい 井上 泰平	医員	画像診断						
おがさわらこうじ 小笠原 浩司	医員	画像診断						

こんどう 近藤 匠	医 員	画像診断						
さわむら 澤村 駿吾	医 員	画像診断						
かとう 加藤 勇樹	医 員	画像診断						
かんべ 神戸あゆみ	医 員	画像診断						
こばやし 小林 直樹	医 員	画像診断						
じょう 城 亜希	医 員	画像診断						
はやし 林 英孝	医 員	画像診断						

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
中枢神経系 頭頸部・甲状腺 乳腺 胸部 腹部 消化管 悪性腫瘍全般 血管性病変全般	単純X線撮影・MRI・CT・血管造影・ 超音波検査・核医学検査・内視鏡・消 化管造影検査などによる癌やその他疾 患の画像診断を専門的に施行しており ます。集団検診後の精密検査も専門的 な立場から行っております。最近では CTを用いた生検（組織の検査）も増 加しています。	画像診断を治療に応用して、“切らな いで癌やその他の疾患を治す”治療を 行っております。具体的には、早期胃 癌や食道癌などの内視鏡的切除・静脈 瘤治療、悪性腫瘍の経皮的治療（経カ テーテル治療および腫瘍焼灼療法）、 閉塞性動脈硬化症や動静脈奇形等の血 管病変治療（経カテーテル治療）、甲 状腺癌や甲状腺機能亢進症などの内照 射療法などを施行しています。いずれ も手術に比べて機能温存や低侵襲性の 点で優れた成績をあげております。特 に最近では、肺癌や腹部悪性腫瘍・骨腫 瘍などのRFA（ラジオ波焼灼術）の 施行症例数が増加しています。

診療科長



おおや なつお
大屋 夏生
(教授)

●診療科の紹介

2機の高エネルギーX線照射装置（リニアック）を用い、多様な悪性腫瘍（がん）に対する放射線治療を、総合的に行っています。

多くの症例に対して、三次元放射線治療を行っており、子宮頸がんや胆管がんに対する腔内照射も積極的に行っています。

悪性腫瘍の画像診断やセカンドオピニオン（手術を勧められたが放射線治療についても話が聞きたいなど）のご相談も受けております。

最新の診断画像と放射線照射技術を駆使して、放射線を病巣に高度に集中させ、可能な限り正常組織を守る、高精度放射線治療を目指しています。

定位放射線治療（SRT）、強度変調放射線治療（IMRT）、呼吸同期照射、画像誘導放射線治療（IGRT）を実践しています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診

氏名	職名	専門分野／専門領域	外来診察日					専門医／認定医
			月	火	水	木	金	
おおや なつお 大屋 夏生	教授	癌の放射線治療		◎		◎		日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会認定医、がん治療認定医
とうや りょう 東家 亮	准教授	癌の放射線治療		◎	◎	◎		日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会認定医、がん治療認定医
さいとう てつお 齋藤 哲雄	中央放射線部講師	癌の放射線治療	◎			◎	◎	日本医学放射線学会放射線治療専門医、がん治療認定医
まつやま ともひこ 松山 知彦	助教	癌の放射線治療	◎		◎		◎	日本医学放射線学会放射線治療専門医
にのむら さとし 二ノ村 聖	医員	癌の放射線治療	◎	◎	◎			日本医学放射線学会放射線科専門医
わたかべ たかひろ 渡壁 孝弘	医員	癌の放射線治療		◎	◎		◎	
おおつ かひろひと 大津家裕仁	医員	癌の放射線治療				◎	◎	

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<ul style="list-style-type: none"> ◎悪性腫瘍の放射線治療 ◎悪性腫瘍の画像診断 ◎悪性腫瘍の治療に関するセカンドオピニオン ◎甲状腺眼症、ケロイドなどの特殊な良性疾患の放射線治療 		<ul style="list-style-type: none"> ◎外照射（リニアック2機、4MV、6MV、10MV、15MV X線、電子線） ◎高精度3次元放射線治療 ◎全身照射 ◎小線源治療（腔内照射、RALS） ◎定位放射線治療（SRT） ◎強度変調放射線治療（IMRT） ◎回転型強度変調放射線治療（VMAT） ◎呼吸同期照射 ◎画像誘導放射線治療（IGRT）

診療科長



たけばやし みのる
竹林 実
 (教授)

●診療科の紹介

最近、気分が落ち込む、物忘れが気になる、周囲とのコミュニケーションがうまく行かない、眠れない、などでお悩みの方は、お年寄りから子供まで、どの年代の方でもお気軽にご相談ください。身体疾患をお持ちの方で精神的なケアが必要な方、一般精神保健相談など幅広く診療を行っています。気分障害、認知症、児童・思春期の各種専門外来を開設しています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
たけばやし みのる 竹林 実	教授	気分障害、統合失調症、一般精神医学、Neuromodulation therapy			○	◎		精神保健指定医、精神保健判定医、日本精神神経学会専門医・指導医
ふくはら りゅうじ 福原 竜治	講師	一般精神医学、老年精神医学、高次脳機能障害学		○	●		◎	精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本老年精神医学会専門医・指導医
いしかわ ともひさ 石川 智久	助教	一般精神医学、老年精神医学、高次脳機能障害学		○	●		◎	
ゆうき せいじ 遊亀 誠二	助教	一般精神医学、老年精神医学		◎		◎	◎	精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本老年精神医学会専門医・指導医
たなか ひびき 田中 響	助教	一般精神医学、老年精神医学					◎	精神保健指定医、日本老年精神医学会専門医
ほんだ かずき 本田 和揮	特任助教	一般精神医学、老年精神医学		○	●		◎	精神保健指定医、精神保健判定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本老年精神医学会専門医・指導医
すがわら ひろこ 菅原 裕子	助教	気分障害、リエゾン精神医学、臨床精神薬理学			◎			精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本総合病院精神医学会専門医・指導医、日本臨床精神神経薬理専門医
こやま あすか 小山明日香	助教	心理カウンセリング・精神科リハビリテーション						公認心理師、精神保健福祉士
ささき ひろゆき 佐々木博之	特任助教	児童・思春期精神医学			●		○	精神保健指定医
みやがわ ゆうすけ 宮川 雄介	特任助教	一般精神医学、老年精神医学		●	◎			精神保健指定医
もりえだ さとる 森枝 悟	特任助教	サイコオンコロジー・緩和ケアセンター						精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医
かわはら かずひろ 川原 一洋	医員	児童・思春期精神医学			◎	●	○	精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医
あかぎ まりこ 赤城真理子	医員	一般精神医学						
ほと の たけあき 鳩野 威明	医員	一般精神医学						精神保健指定医
かんの てっぺい 神野 哲平	医員	一般精神医学						精神保健指定医
ますだ かずき 増田 一樹	医員	一般精神医学						
みやこ こうたろう 都 剛太郎	医員	一般精神医学						
おおしま ゆうた 大嶋 悠太	医員	一般精神医学						
かわの まみ 河野 真美	医員	一般精神医学						
きのした さとし 木下 聡	医員	一般精神医学						
さかぐち としふみ 坂口 俊史	医員	一般精神医学						
たけいち みずき 武市 翠希	医員	一般精神医学						

ふじやま たかゆき 藤山 寛之	医 員	一般精神医学					
まどば ゆうじ 的場 祐二	医 員	一般精神医学					
みすみ まさひろ 三角 雅裕	医 員	一般精神医学					
もりなみ じろう 森並 次朗	医 員	一般精神医学					
わたなべ ゆ き え 渡邊友起絵	医 員	一般精神医学					
さく た しずか 佐久田 静	医 員 (通常大学院生)	一般精神医学					
ひ だか ようすけ 日高 洋介	医 員 (通常大学院生)	一般精神医学					精神保健指定医、日本精神神経学会専門医
こ が ゆうさく 古賀 裕作	医 員 (通常大学院生)	一般精神医学					
ふく だ あき 福田 瑛	心理士	心理カウンセリング・精神科リハビリテーション					公認心理師、臨床心理士
いのうえ まい 井上 麻衣	心理士	心理カウンセリング					公認心理師、臨床心理士
はらぐち な な こ 原口奈々子	心理士	心理カウンセリング・発達障がい医療センター					臨床心理士
たけお み さ き 竹尾 美咲	心理士	心理カウンセリング					公認心理師
まるやま たかし 丸山 貴志	精神保健福祉士	一般ソーシャルワーカー・精神科リエゾンチーム					社会福祉士
しろうぞのあやこ 四郎園綾子	精神保健福祉士	病棟ソーシャルワーカー					
ほんぼり しん 伸 本堀 伸	精神保健福祉士	一般ソーシャルワーカー・認知症疾患医療センター					
いち き たかひろ 一木 崇弘	精神保健福祉士	外来ソーシャルワーカー・認知症疾患医療センター					社会福祉士
よしうら かずひろ 吉浦 和宏	作業療法士	精神科作業療法・精神科リハビリテーション					
はん 韓 ごあんひ 侑熙 韓 侑熙	作業療法士	精神科作業療法・精神科リハビリテーション					
たかさき あきひろ 高崎 昭博	言語聴覚士	言語療法・精神科リハビリテーション					
うえむら たえこ 上村 妙子	保健師	精神保健相談					

主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<ul style="list-style-type: none"> ◎気分障害（うつ病、双極性障害） ◎症状性・器質性精神障害認知症（アルツハイマー病、ピック病、レビー小体型認知症など） ◎思春期・青年期の気分障害・発達障害 ◎精神病性障害（統合失調症など） ◎コンサルテーション・リエゾン精神科診療（身体疾患を有する患者さんの精神的ケア） ◎てんかん・睡眠障害 ◎その他、一般精神保健相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・画像検査（頭部 MRI、頭部 CT、脳血流シンチグラフィ、心筋シンチグラフィ） ・脳波検査 ・血液・髄液検査 ・心理検査 ・光トポグラフィ検査（準備中） 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神療法 ・薬物療法 ・修正型電気けいれん療法（ECT） ・心理カウンセリング ・精神科リハビリテーション（作業療法、言語療法を含む）

脳神経外科

医局 096-373-5219
病棟 096-373-7026
外来 096-373-5602

診療科長



むかさ あきたけ
武笠 晃丈
(教授)

●診療科の紹介

慢性および突然の頭痛、嘔気、嘔吐、意識障害、性格変化、視力視野障害、聴力低下、けいれん発作、痲呆、耳鳴り、めまい、四肢の麻痺、四肢のしびれ感、手・足のふるえ、歩行障害、パーキンソン病の症状、排尿排便障害、片側顔面のピクツキ、顔面の発作性の激痛などの症状を有する疾患および生下時や小児の脳脊髄の奇形・発達異常についての診断・治療を行っています。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 外来受付 毎週 月・水・金 8時30分～11時 ○＝初診、◎＝再診

氏名	職名	専門分野／専門領域	外来診療日					専門医／認定医
			月	火	水	木	金	
むかさ あきたけ 武笠 晃丈	教授	脳腫瘍、脳血管障害、遺伝子診断と治療	○ ◎		○ ◎			脳神経外科専門医、がん治療認定医、脳卒中専門医、臨床遺伝専門医、家族性腫瘍学会専門医
やまだ かずみち 山田 和慶	特任教授	パーキンソン病、不随意運動疾患、脳深部刺激療法	○ ◎		○ ◎		○ ◎	脳神経外科専門医、機能的定位脳手術技術認定医
はまさき ただし 浜崎 禎	講師	脳血管障害、てんかんの外科、機能的脳神経外科	○ ◎				○ ◎	脳神経外科専門医、脳卒中専門医、がん治療認定医、機能的定位脳手術技術認定医
しのじま なおき 篠島 直樹	講師	神経内視鏡、脳腫瘍	○ ◎		○ ◎			脳神経外科専門医、がん治療認定医、神経内視鏡技術認定医
おおもり ゆうき 大森 雄樹	助教	脳脊髄血管障害、血管内治療	○ ◎				○ ◎	脳神経外科専門医、脳卒中専門医、血管内治療専門医、脳卒中外科技術指導医
くろ だじゅんいちろう 黒田順一郎	助教	脳腫瘍、小児脳神経外科			○ ◎		○ ◎	脳神経外科専門医、がん治療専門医
おおた かずたか 大田 和貴	助教	脳腫瘍、小児脳神経外科、リハビリテーション			○ ◎			脳神経外科専門医、がん治療認定医、リハビリテーション認定医・専門医
たけざき たつや 竹崎 達也	特任助教	脳腫瘍					○ ◎	脳神経外科専門医
かく やすゆき 賀来 泰之	特任助教	脳血管障害、血管内治療	○ ◎		○ ◎			脳神経外科専門医、脳卒中専門医、血管内治療専門医

【特殊外来】 脳ドックを2006年4月1日から開始しました。

実施日：毎週火曜日・木曜日 午前（1日1名）

所要時間：約3時間30分（8時30分～12時）

費用：60,500円（消費税込み）

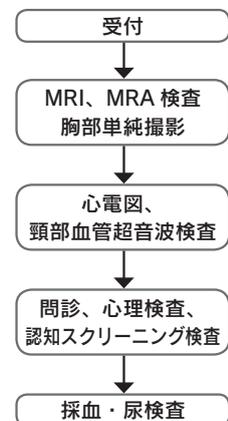
検査の結果は、「脳ドック結果成績表」を後日送付します。

検査結果により治療の必要のある場合には、当院で治療も可能です。

また、他の医療機関での治療を希望される場合はご紹介いたします。

（紹介状作成は有料です。）

検査の流れ



診療領域・主な疾患名	主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
脳・脊髄腫瘍 (小児、成人)	慢性および突然の頭痛、嘔気、嘔吐、四肢の麻痺、意識障害、性格変化、視力視野障害、聴力低下、けいれん発作、痴呆、耳鳴り、めまい	神経放射線学的診断 (CT、MRI、PET、脳血管撮影、脳波、脳磁図)、遺伝子解析	外科的手術 (ナビゲーションシステム、術中モニタリング、覚醒下手術、内視鏡支援)、放射線治療、化学療法
脳・脊髄血管障害 (出血、梗塞、血管奇形)	慢性および突然の頭痛、嘔気、嘔吐、四肢の麻痺、意識障害、性格変化、視力視野障害、聴力低下、けいれん発作、痴呆、耳鳴り、めまい	神経放射線学的診断 (CT、MRI、脳血管撮影、脳波)、脳血流シンチ	外科的手術、バイパス手術、脳血管内治療、超急性期血栓溶解療法
神経性先天奇形	生下時の神経系奇形、徐々に発症する歩行障害や排尿・排便障害	神経放射線学的診断 (CT、MRI)	外科的手術
てんかん	抗けいれん剤でおさまらないけいれん発作	神経放射線学的診断 (CT、MRI、脳波、脳磁図)	外科的手術、術中モニタリング
不随意運動、パーキンソン病	手・足のふるえ、歩行障害、パーキンソン病の症状	神経放射線学的診断 (CT、MRI)、神経機能評価	深部刺激電極埋め込み術、定位的神経破壊術
顔面けいれん、三叉神経痛	片側顔面のピクツキ、顔面の発作性の激痛	神経放射線学的診断 (CT、MRI)、聴性脳幹反射	外科的手術 (微小血管減圧術)
脊椎・脊髄疾患	四肢のしびれ感、麻痺、歩行障害、排尿排便障害	神経放射線学的診断 (CT、MRI)、神経伝達速度	外科的手術
間脳下垂体疾患	視力、視野の異常、手足の増大、月経不順	神経放射線学的診断 (CT、MRI)、下垂体ホルモン検査	内視鏡的経鼻的経蝶形骨洞手術

診療科長



やまもと たつお
山本 達郎
(教授)

●診療科の紹介

当院では年間約5,800例のいろいろな手術の麻酔を実施しています。その経験をもとに、麻酔を安全に実施できるかを手術前に診察いたします。

ペインクリニックでは、なぜ痛みが生じているのかをいろいろな方法（各種心理テスト、ドラッグチャレンジ試験など）で調べ、交感神経・末梢神経を遮断する神経ブロック法、理学療法（電気鍼、レーザー照射）、薬物療法などを用いて痛みを治療します。

■スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=ペインクリニック

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診察日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
やまもと たつお 山本 達郎	教授	麻酔科学、ペインクリニック			○ ◎			日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医、日本ペインクリニック学会専門医・評議員、日本緩和医療学会暫定指導医、日本疼痛学会理事、日本神経麻酔研究会評議員
たしろ まさふみ 田代 雅文	講師	麻酔科学、ペインクリニック				●	○ ◎	日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医、日本ペインクリニック学会専門医、日本慢性疼痛学会専門医
すぎた みちこ 杉田 道子	准教授	麻酔科学、ペインクリニック	○ ◎					日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医、日本ペインクリニック学会専門医
すさき さちこ 洲崎 祥子	助教	麻酔科学、ペインクリニック	○ ◎				○ ◎	日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
こまつ しゅうじ 小松 修治	助教	麻酔科学、ペインクリニック			○ ◎		○ ◎	日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医、日本ペインクリニック学会専門医
ひぐち たくし 樋口 拓志	非常勤 診療医師	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医、日本小児麻酔学会認定医
のなか たかひろ 野中 崇広	助教	麻酔科学						日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医、日本小児麻酔学会認定医
あらき みき 荒木 美貴	非常勤 診療医師	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医、日本小児麻酔学会認定医
こばやし かおり 小林 加織	特任助教	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
いのうえ ゆきこ 井上由季子	特任助教	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
ひらおか ちえこ 平岡知江子	特任助教	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
よしだ こうじ 吉田 拓二	診療助手	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
はやし まさきよ 林 正清	診療助手	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
なかにし しのぶ 仲西 信乃	非常勤 診療医師	麻酔科学、ペインクリニック						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医、日本ペインクリニック学会専門医
やつだ まり 矢津田麻里	医員	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
はやしだ ひろみ 林田 裕美	医員	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
はるた かよこ 春田佳代子	診療助手	麻酔科学						日本麻酔科学会認定医、厚生労働省麻酔科標榜医、日本小児麻酔学会認定医
かじはら なみえ 梶原那美恵	医員	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
とりさき てっぺい 鳥崎 哲平	特任助教	麻酔科学、緩和医療						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
みやがわ なおこ 宮川 直子	医員	麻酔科学						日本麻酔科学会認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
いそべ なおふみ 磯部 直史	医員	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医

とくなが ゆきこ 徳永祐希子	医 員	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
やまだ みさき 山田 美咲	医 員	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
なかしま たくろう 中島 拓郎	医 員	麻酔科学						日本麻酔科学会認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
ゆる きともこ 柚留木朋子	医 員	麻酔科学						日本麻酔科学会専門医・認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
はら まりえ 原 万里恵	医 員	麻酔科学						日本麻酔科学会認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
たなか けんいち 田中 健一	診療助手	麻酔科学						日本麻酔科学会認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
いりえ ちえこ 入江知恵子	医 員	麻酔科学						日本麻酔科学会認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
ながはま しほ 長濱 志帆	医 員	麻酔科学						日本麻酔科学会認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
かわの けんしろう 川野兼士朗	医 員	麻酔科学						日本麻酔科学会認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
なかむら しんご 中村 真吾	医 員	麻酔科学						日本麻酔科学会認定医、厚生労働省麻酔科標榜医
もり たいき 森 泰樹	医 員	麻酔科学						厚生労働省麻酔科標榜医
うえむら ゆみこ 植村友美子	医 員	麻酔科学						
まるやま さくら 丸山 桜子	医 員	麻酔科学						
おおいし まさゆき 大石 将之	医 員	麻酔科学						
これまつしんのすけ 是松伸之介	医 員	麻酔科学						
さかた ゆう 坂田 優	医 員	麻酔科学						
しのづか だい 篠塚 大	医 員	麻酔科学						
そえだ けんぞう 添田 賢造	医 員	麻酔科学						
なかむら ゆうき 中村 勇貴	医 員	麻酔科学						

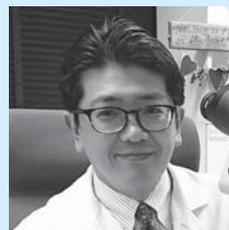
主な診療領域	検査・診断方法	治療方法
<ul style="list-style-type: none"> ◎麻酔相談 ◎ペインクリニック（三叉神経痛、带状疱疹後神経痛、難治性疼痛など） ◎緩和ケア 	<ul style="list-style-type: none"> ◎痛みの定量的評価 ◎簡易サーモグラフィー ◎薬理的疼痛機序鑑別試験（ドラッグチャレンジ試験） ◎痛みの心理評価 	<ul style="list-style-type: none"> ◎薬物療法 ◎神経ブロック ◎痛みに対する認知行動療法 ◎電気鍼、キセノン光治療 ◎高周波熱凝固療法 ◎癌性疼痛治療

病理診断科 (病理部)

連絡先

医局 TEL 096-373-7099

● 部長 みかみ よしき
三上 芳喜
(教授)



診療科の紹介

病理診断科では、術前に患者様から採取された生検材料や、手術で採取された組織・臓器から、組織標本あるいは細胞診標本を作製して顕微鏡で観察し、病理診断を行っており、必要に応じて特殊染色や免疫染色、ホルモンレセプター検索なども行っています。臨床サイドでは、この病理診断に基づいて腫瘍の良悪性や予後などを判断し、治療方針の決定や治療効果の評価を行っています。術中には、採取された新鮮材料から迅速凍結標本を作製して病理診断を行い、リアルタイムに切除範囲の評価や転移の有無の評価などを判定して術者に報告しています。また、生命科学研究所の病理関連講座と協力し、院内・院外の病理解剖業務を行っています。さらに、組織・細胞診の病理診断や免疫染色、術中迅速診断については、院外の医療施設からの受託業務を行っており、テレパソロジーを利用した画像伝送による遠隔病理診断システムも導入しています。

スタッフ紹介

外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診察日					専門医/認定医
			月	火	水	木	金	
三上 芳喜	教授	病理診断学全般、細胞診断学、泌尿・生殖器病理学、乳腺病理学						病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、死体解剖資格医、病理専門医研修指導医
本田 由美	助教	病理診断学全般、細胞診断学、皮膚病理学						病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、死体解剖資格医、病理専門医研修指導医
川上 史	特任助教	病理診断学全般、泌尿・生殖器病理学・デジタルパソロジー						病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、死体解剖資格医
安里 嗣晴	特任助教	病理診断学全般						病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、死体解剖資格医
佐野 直樹	特任助教	病理診断学全般						病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、死体解剖資格医
塩田 拓也	医員	病理診断学全般						日本臨床細胞学会細胞診専門医
大園 一隆	医員	病理診断学全般						病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、死体解剖資格医
大倉 航平	医員	病理診断学全般						
武藤 貴保	医員	病理診断学全般						
西山 尚子	病理技師長							細胞検査士、認定病理検査技師、二級臨床検査士(病理学)
田上 さやか	臨床検査技師							細胞検査士、認定病理検査技師
石原 光浩	臨床検査技師							細胞検査士、認定病理検査技師
中本 環	臨床検査技師							細胞検査士
竹下 博士	臨床検査技師							細胞検査士、認定病理検査技師、緊急臨床検査士
橋向 圭介	臨床検査技師							細胞検査士、認定病理検査技師
片瀨 達也	臨床検査技師							細胞検査士、認定病理検査技師
森 真琴	臨床検査技師							細胞検査士
古田 沙織	臨床検査技師							細胞検査士
福田 美咲	臨床検査技師							
徳永 英博	臨床検査技師							細胞検査士、二級臨床検査士(病理学)

主な診療領域

- ◎病理組織標本作製及び診断
- ◎細胞診標本作製及び診断
- ◎術中迅速凍結組織標本作製及び診断
- ◎術中迅速細胞診標本作製及び診断
- ◎病理解剖(生命科学研究所と協力)
- ◎院外受託標本診断(産学連携経費)

●部長 まつい ひろたか
松井 啓隆
(臨床病態解析学講座教授)



専門分野：検査医学、血液内科学
①②④⑤⑦⑧⑨

しんりき さとる
神力 悟 (副部長・臨床病態解析学・准教授)

専門分野：検査医学、口腔外科学
⑩⑪⑫⑬⑭

うすく ひろき
宇宿 弘輝 (助教)

専門分野：検査医学、循環器内科学
①③⑥⑬⑯⑰⑱

よこやま としろう
横山 俊朗 (技師長)

専門分野：検査医学、病理細胞形態学
⑩⑪⑱⑳㉑㉒

特徴・特色

当部門は、臨床検査医、臨床検査技師が一体となり、特定機能病院である本院の診療・研究・教育を臨床検査を通して支援する部門であり、採血業務から検体検査・生理機能検査などのルーチン検査、さらには先進医療に関する検査支援を行っております。

検体部門では、高度なIT技術を駆使した次世代型検査システムを導入し、検体検査依頼情報から検査行程、結果の報告までを一元管理し、主治医、患者さまに少しでも早く、かつ正確に報告する体制を整えております。当検査室は、国際認証規格を持つ検査室に与えられるISO15189を取得し、より質の高い検査値を提供しております。

生理機能検査部門でも、脳波・筋電図、自律神経機能、肺機能、心機能検査などの部門において最新式の検査システムを構築し、本院のコンピュータシステム(HIS)で動画を参照することが可能となっております。また、微生物・遺伝子検査部門は、院内の感染症検査全般を請け負うとともに、地域の感染症サーベイランス事業などにおいても中核的な役割を担っています。

教育システムにおいても、医学部学生や検査技術科学生などに対し、最新の検査技術、知識をわかりやすく提供するシステムを構築しております。

先進医療に関しては、絶えず新しい検査法を開発し、厚生労働省の先進医療に申請するとともに、こうした検査法が、保険診療にも採用されていっております。

業務領域

◎生理機能検査部門

基本的な業務として、オーダリングシステムを介した検査依頼に対し、採取から結果報告までを一元的に行っております。検体検査においては血液(全血、血清、血漿)、尿、髄液などの検体をもとに生化学的検査、血液学的検査、免疫学的検査、微生物学的検査、形態学的検査などを行い、種々の自動分析装置や解析装置などを駆使し、疾病の診断、薬剤の適切な投与量、治療の効果判定および予後の推定などの正確かつ客観的な情報として、検査データを提供しております。

◎生理機能検査部門

様々な検査機器を用い、生体情報をリアルタイムに提供する分野です。近年コンピュータの進化と共に測定機器もコンパクト化しつつあります。検査としては心電図、脳波、筋電図、自律神経機能、呼吸機能、超音波検査などがあり、生理機能学的に関する情報を提供します。特に心電図および心エコー検査では、各診療端末機での心電図波形の実計測や、心エコーにおいては検査レポート並びに動画像を参照することを可能とし、診断に役立つ結果を提供しております。

◎微生物・遺伝子検査部門

病原体の分離や薬剤感受性試験を実施する分野です。従来の塗抹・培養検査に加え、近年では質量分析装置を用いた菌種同定検査が実用化され、当院でも積極的にこうした新技術を取り入れた検査を実施しています。病原体核酸検査もその一つで、HBV-DNA、HCV-RNA検査なども院内で実施しています。また、院内の様々な診療科との連携のもと、ヒト遺伝学的検査も積極的に進め、高度な医療技術の提供や地域医療支援に努めています。

◎検査カフェ

一般の方々に潜在的に存在する肝障害、腎障害、メタボリック症候群、がんリスクなどをスクリーニングし、未病の段階でみつけるための検査を行っております。

上記の業務に加えて、各診療科から依頼される特殊検査、様々な臨床研究のコンサルトに応えられる体制を構築しております。

■認定医・専門医・指導医等(専門分野の後に○数字で示しています。)

- | | |
|------------------------------------|------------------|
| ①日本内科学会認定内科医 | ②日本血液学会評議員 |
| ③日本内科学会総合内科専門医 | ④日本血液学会専門医 |
| ⑤日本血液学会指導医 | ⑥日本循環器学会認定循環器専門医 |
| ⑦日本臨床検査専門医 | ⑧日本臨床検査医学会評議員 |
| ⑨臨床化学学会評議員 | ⑩日本臨床化学会 |
| ⑪日本臨床検査医学会 | ⑫日本癌学会 |
| ⑬アメリカ癌学会 | ⑭九州遺伝子診断研究会世話人 |
| ⑮日本心エコー学会SHD心エコー認定医 | |
| ⑯日本心臓血管麻酔学会日本周術期経食道心エコー(JB-POT)認定医 | |
| ⑰植込み型除細動器/ペースメーカーによる心不全治療研修修了証 | |
| ⑱日本超音波学会超音波専門医 | ⑲日本臨床細胞学会評議員 |
| ⑳日本医学超音波学会 | ㉑日本乳癌学会 |
| ㉒日本臨床衛生検査技師会 | |

中央手術部

特徴・特色

中央手術部は、手術を受ける患者さん、手術を行う外科医の両方にとって、安全、円滑、快適に手術が行えるような環境、人員、器材を提供し運営します。この目的に沿った教育、研究を行う部門で、外科系各科の全ての手術に対応しています。

附属病院で手術をお受けになる全ての患者さんのお世話をしていますが、外来診療は行っていません。

業務領域

手術機器の準備と管理
 手術器械、器具などの滅菌、消毒、保守管理
 安全・円滑な手術のための調整
 日々の手術予定、週間手術予定の作成教育
 医学部医学科学生、医学部保健学科学士の教育

■認定医・専門医・指導医等（専門分野の後に○数字で示しています。）

- | | |
|------------------------|------------------|
| ①日本外科学会指導医 | ②日本外科学会専門医 |
| ③日本外科学会認定医 | ④日本外科学会理事 |
| ⑤日本消化器外科学会指導医 | ⑥日本消化器外科学会専門医 |
| ⑦日本消化器外科学会認定医 | |
| ⑧日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 | |
| ⑨日本消化器外科学会評議員 | ⑩日本消化器病学会指導医 |
| ⑪日本消化器病学会消化器病専門医 | |
| ⑫日本消化器病学会認定医 | |
| ⑬日本消化器病学会評議員 | ⑭日本癌治療学会臨床試験登録医 |
| ⑮日本がん治療認定医機構がん治療認定医 | |
| ⑯日本がん治療認定医機構暫定教育医 | |
| ⑰日本癌治療学会理事 | ⑱日本癌学会評議員 |
| ⑲日本臨床腫瘍学会指導医 | ⑳日本臨床腫瘍学会協議員 |
| ㉑日本消化管学会胃腸科指導医 | ㉒日本消化管学会胃腸科専門医 |
| ㉓日本消化管学会胃腸科認定医 | ㉔日本消化管学会理事 |
| ㉕日本胃癌学会代議員 | ㉖日本食道学会食道外科専門医 |
| ㉗日本食道学会食道科認定医 | ㉘日本食道学会評議員 |
| ㉙日本消化器癌発生学会理事 | ㉚日本臨床外科学会評議員 |
| ㉛日本家族性腫瘍学会評議員 | ㉜日本ハイパーサーミア学会認定医 |
| ㉝日本ハイパーサーミア学会代議員 | |
| ㉞日本気管食道科学会認定気管食道科専門医 | |
| ㉟日本気管食道科学会理事 | ㊱日本コンピュータ外科学会評議員 |
| ㊲日本がん移転学会評議員 | ㊳小切開・鏡視外科学会評議員 |
| ㊴日本肝胆膵外科学会評議員 | ㊵日本大腸肛門病学会評議員 |
| ㊶日本麻酔科学会麻酔科指導医 | ㊷日本麻酔科学会麻酔科専門医 |
| ㊸日本麻酔科学会麻酔科認定医 | ㊹厚生労働省麻酔科標榜医 |
| ㊺日本心臓血管麻酔学会専門医 | |

●部長 **馬場 秀夫**
ばば ひでお
 （消化器外科教授）



専門分野：①～④⑩

いくた よしひろ
生田 義浩（副部長）

専門分野：④⑫⑬⑭⑮

くまもと たいすけ
隈元 泰輔（助教）

専門分野：④⑫⑬⑭⑮⑯

いしむら たつひろ
石村 達弘（助教）

専門分野：⑫⑬⑭⑮

特徴・特色

中央放射線部は平成19年1月より新中央診療棟の一階及び地下で稼働が開始され、CTやMRI、核医学などの最先端の診断装置やライナックなどの高精度治療機器が整備され、熊本大学病院の放射線診療を受け持っております。また19年度よりPET-CTや超音波の診療を開始しています。画像診断においては画像診断・治療科を中心にして正確で的確な診断情報を迅速に各診療科に提供することで、患者様の病気の診断や経過観察に役立っています。またIVR領域では世界トップレベルの症例数を誇ります。一方、放射線治療は放射線治療科と共同で、放射線照射を行い、手術や化学療法と共に腫瘍治療の一翼を担っています。

業務領域

◎画像診断部門

X線単純撮影、透視検査、CT (Computed Tomography)、MRI (Magnetic Resonance Imaging)、血管造影検査、超音波、骨密度測定 (骨塩定量検査)

◎放射線治療部門

高エネルギーの放射線を腫瘍に集中的に照射し治療を行います。手術に比べ痛みが少なく、機能も温存されるなどの特長があります。外部照射 (ライナック治療)、組織内照射 (密封小線源治療)

◎核医学診療部門 (西病棟3階)

放射性医薬品 (ラジオアイソトープ: RI) を静脈に注射したり飲んだりして、特定の臓器に薬が集まる性質を利用し、形態や機能を検査します。PET-CT、SPECT-CT。

■認定医・専門医・指導医等 (専門分野の後に○数字で示しています。)

- ①日本医学放射線学会専門医
- ②日本放射線学会認定放射線専門医
- ③日本放射線腫瘍学会認定医
- ④日本医学放射線学会放射線治療専門医
- ⑤がん治療認定医
- ⑥検診マンモグラフィ読影認定医
- ⑦PET 認定医
- ⑧日本放射線技術学会会員

●部長 おおや **大屋** なつお **夏生**
(放射線治療科教授)



専門分野：癌の放射線治療

①③⑤

きたじま **北島** みか **美香** (准教授)

専門分野：中枢神経画像診断

②⑥⑦

かわなか **河中** こういち **功一** (助教)

専門分野：画像診断、肺のRFA、生検及びIVR

④

さかもと **坂本** ふみ **史** (助教)

専門分野：画像診断、核医学

④⑦

はてむらまさひろ **羽手村昌宏** (技師長)

⑧

集中治療部

特徴・特色

院内／院外からの重症患者様の集中治療を行っています。高度な人工呼吸管理、血液浄化法、高気圧酸素療法、体外循環装置、大動脈バルーンポンピング、熱傷治療ベッドなど、一般の医療機関では対応できない高度集中治療を提供します。外科、内科、麻酔科、集中治療を専門とする医師が専従して診療にあたる他、必要に応じて院内すべての診療科の協力を得て治療を行ってまいります。患者様1～2名に1名の看護師が担当し、きめ細かな看護を提供しております。（日本集中治療医学会専門医指定施設）

業務領域

◎外科、内科を問わず、小児を含めた重症患者様の集中治療。心臓・大血管の手術後、食道癌術後、脳神経外科術後、肝臓移植術後、その他大手術後。ショック、呼吸不全、重症感染症、多臓器不全など。

■認定医・専門医・指導医等（専門分野の後に○数字で示しています。）

- ①日本救急医学会専門医
- ②日本集中治療医学会評議員 ②* 専門医
- ③日本麻酔科学会指導医 ③* 専門医 ③" 認定医
- ④日本内科学会認定医 ④' 指導医 ④* 総合内科専門医
- ⑤ Infection Control Doctor (ICD)
- ⑥日本呼吸器学会呼吸器専門医
- ⑦日本腎臓学会専門医
- ⑧日本透析医学会専門医
- ⑨医学博士
- ⑩日本 DMAT 隊員
- ⑪厚生労働省麻酔科標榜医
- ⑫日本ペインクリニック学会専門医 ⑫* 評議員
- ⑬日本緩和医療学会暫定指導医
- ⑭日本疼痛学会理事
- ⑮日本神経麻酔研究会評議員

●部長 やまもと **山本** たつ お **達郎**
(教授)



専門分野：麻酔科学・
ペインクリニック
③③ * ③ " ⑨⑪⑫⑫ * ⑬⑭⑮

さぎしま **鷺島** かつゆき **克之** (講師)

専門分野：麻酔
①② * ③

なりまつ **成松** のりこ **紀子** (助教)

専門分野：麻酔
①② * ③③ * ⑤⑨⑩

えしま **江嶋** ただし **正志** (助教)

専門分野：麻酔科
② * ③

とくながけん **徳永健太郎** (助教)

専門分野：呼吸器内科
② * ④④ * ⑥

みずもと **水本** てるひこ **輝彦** (特任助教)

専門分野：腎臓内科
④④' ④ * ⑦⑧⑨

■中央診療施設等

救急外来(救急・総合診療部)

特徴・特色

救急外来では、救急・総合診療部スタッフ医師に加えて、専門診療科からの応援医師(診療助手)によるシフト勤務で、1年365日24時間体制で救急患者の診療を行っています。救急隊からのホットラインには各勤務帯の当番医師が直接対応し患者受け入れの可否を決定します。対象は大学病院かかりつけの患者様のみならず初診の患者様も含めて、軽症から重症まで幅広い傷病に対応して初期診療を行い、必要に応じて専門診療科に紹介し専門的な治療をお願いしています。また、入院治療が必要な重症の患者様は、集中治療室(ICU)や高度治療室(HCU)に収容し専門的で高度な医療を行っています。

業務領域

消防機関の救急車で搬送される二次～三次救急に当たる救急患者を積極的に受け入れています。対象とする傷病は、心肺停止、急性冠症候群、脳卒中、外傷、熱傷、敗血症、急性腹症、急性中毒など多岐にわたります。

さらに、専門診療科と連携して県内の関連病院から様々な重症救急患者の受け入れを行っています。転院搬送には救急車のみならずヘリコプター(防災消防ヘリ、ドクターヘリ)も活用しています。

◎ドクターハートへの対応

当院に入院中または外来受診された患者様の急変時に発信される院内救急コール(ドクターハート)には、救急外来の担当医も対応しています。医療資機材を持って現場に急行して必要な救急処置を実施するとともに、状況によっては患者様を救急外来に搬送してさらに高度な治療を行っています。

◎ヘリコプター搬送への協力

当院は「熊本型」ヘリ救急搬送体制支援病院として、ドクターヘリや防災消防ヘリ(ひばり)による重症患者搬送の受け入れを行っています。救急外来はドクターヘリ(現場救急)からの患者受け入れ要請の窓口であるとともに、ヘリコプターによる転院搬送の調整役を担っています。

■認定医・専門医・指導医等(専門分野の後に○数字で示しています。)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| ①日本救急医学会指導医 | ②日本救急医学会救急科専門医 |
| ③JATECインストラクター | ④日本整形外科学会専門医 |
| ⑤日本外傷学会専門医 | ⑥日本外科学会指導医 ⑥*専門医 |
| ⑦糖尿病指導医 ⑦*専門医 | ⑧日本内科学会総合内科専門医 |
| ⑨日本集中治療医学会専門医 | ⑩日本循環器学会循環器専門医 |
| ⑪熊本県災害医療コーディネーター | ⑫日本DMAT隊員 |
| ⑬日本航空医療学会認定指導者 | ⑭日本消化器外科学会専門医 |
| ⑮がん治療認定医 | ⑯日本整形外科学会認定スポーツ医 |
| ⑰日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション科 | |
| ⑱日本体育協会スポーツ医 | ⑲社会医学系指導医 ⑲*専門医 |

●部長 **笠岡 俊志**
(教授)



専門分野：救急医学、災害医学、集中治療医学

①②⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮*

たにくち じゅんいち
谷口 純一 (副部長)

専門分野：総合診療
地域医療支援センター特任准教授

⑧

たけやま ひであき
武山 秀晶 (助教)

専門分野：消化器外科、救急医学
⑥*⑭

うえぞの けいじ
上園 圭司 (助教)

専門分野：整形外科、救急医学
③④⑬⑰⑱

たなか ひろみち
田中 拓道 (助教)

専門分野：救急医学 ②

特任助教 2名(循環器内科、脳神経内科)
診療助手等 6名(整形外科、消化器外科、循環器内科、眼科、歯科口腔外科)

■中央診療施設等

中央材料部

特徴・特色

中央材料部は、病院内で使用する全ての手術器械等の洗浄消毒滅菌業務並びに滅菌材料を一括管理、安全な滅菌器材と医療材料を供給しています。また、災害の備えとしてDMATバッグと災害用カート进行管理しています。

業務領域

- ◎診療に使用する再生滅菌器材の洗浄滅菌供給
- ◎器材や器具の洗浄消毒供給
- ◎医療材料の供給
- ◎DMATバッグ3種・災害用カート10台の物品管理

●部長 **尹 浩信**
(皮膚科・形成再建科教授、
感覚運動部門長)



いくた よしひろ
生田 義浩 (講師・副部長)

■中央診療施設等

リハビリテーション科 (リハビリテーション部)

●部長 みやもと たけし
宮本 健史
(整形外科教授)



専門分野：整形外科、
リハビリテーション

①④⑨⑩⑪

とがみ わかな
砥上 若菜 (助教)

専門分野：リハビリテーション、
整形外科

①②③④⑥⑦⑧

おやまゆうじろう
小山雄二郎 (医員)

専門分野：リハビリテーション、
整形外科

①②③④⑦

ちじょう みか
千丈 実香 (医員)

専門分野：リハビリテーション、
整形外科

特徴・特色

リハビリテーション科は、リハビリテーション医学・診療を担う部門として、中央診療棟の2階にあります。リハビリテーション（以下リハ）という言葉は医療・福祉・介護の分野で、脳卒中のリハや、精神疾患のリハ、呼吸リハ、訪問リハなど、多様な対象・時期・内容で用いられていますが、当部では、基本的に「病気やけがのために自力で動くことができない（または困難である）」、そのために「日常生活が制限された」患者様の治療を主体に行っています。スタッフとして医師（リハ科専門医・認定臨床医）、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士などの専門職種によるチーム医療体制でアプローチしています。

業務領域

- ◎主に神経・筋・骨関節の疾患に基づく運動機能障害のある患者様を対象に医学的治療と同時に治療的訓練を行い、失われた機能の回復を促し、残存機能を最大限に引き出すための治療を行っています。すなわち障害を有する患者様すべてがリハ対象です。
- ◎対象疾患は、脳卒中・脳腫瘍・脊髄損傷などの中枢神経疾患、神経筋疾患、末梢神経障害、関節リウマチなどの骨関節疾患、切断、脳性麻痺などのほか、慢性呼吸不全、心疾患など全診療科に及びます。
- ◎特定機能病院である当大学病院は、重症、多臓器に問題を持つ患者様が多く、障害も重度化・複雑化し易い状況にあります。専門的かつ効果的なリハアプローチを提供し、各診療科治療を円滑に遂行するためにサポートを行います。

診療表

	月	火	水	木	金
初診・再診		砥上 若菜		砥上 若菜	砥上 若菜
		小山雄二郎		小山雄二郎	小山雄二郎

■認定医・専門医・指導医等（専門分野の後に○数字で示しています。）

- ①日本整形外科学会専門医
- ②日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- ③日本リハビリテーション医学会専門医
- ④身体障害者福祉法第15条指定医
- ⑤日本整形外科学会認定スポーツ医
- ⑥日本体育協会公認スポーツドクター
- ⑦義肢装具適合判定医
- ⑧障がいスポーツ医
- ⑨日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
- ⑩日本骨粗鬆症学会専門医
- ⑪日本リウマチ学会専門医

【理学療法部門】

理学療法部門では、最新の計測機器を駆使した客観的・科学的な評価に基づき、運動療法を中心に、物理療法、水治療法など、個々の患者様に最も有効な治療法を選択し提供できるよう努力しています。また当院で研究開発した装具なども多く、独自の先進的な医療を行っています。また、糖尿病療養指導士、呼吸療法認定士等のさまざまな認定セラピスト資格をもち、より専門的なアプローチが可能となっています。

【作業療法部門】

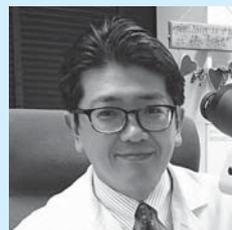
作業療法は6人の作業療法士により開放的な明るい空間で行っております。作業療法の対象となる中枢神経疾患、骨関節疾患をはじめとする様々な疾患を持つ方に対し、スプリント作成、バイオフィードバック、物理療法、神経心理的方法などさまざまな作業療法的手段・方法を用い、身体ならびに精神機能に対してアプローチしています。また医師とともに急性期の特性として全身管理が必要な早期の状態から関わることで、可及的に機能を温存し、他施設への情報提供を行っております。

【言語聴覚療法部門】

言語聴覚療法はコミュニケーション障害・摂食嚥下障害に対し、アプローチを行っております。コミュニケーション障害に対しては、早期のコミュニケーション手段の確保から関わることで、ご本人の不安やストレスを軽減し、周囲との意思疎通の援助を行っております。また摂食嚥下障害に対しては、早期から安全な栄養管理が行えるよう、医師の指示の下、栄養管理部などNSTサポートチームと協力して取り組んでいます。

連絡先
 部長室 TEL 096-373-7092
 診断室 TEL 096-373-7096
 受付 TEL 096-373-7099

●部長 ^{みかみ} **三上** ^{よしき} **芳喜**
 (教授)



専門分野：病理診断学全般、細胞診断学、泌尿・生殖器病理学、乳腺病理学
 ①②③④

^{ほんだ} ^{ゆみ}
本田 由美 (助教)

専門分野：病理診断学全般、細胞診断学、皮膚病理学 ①②③④

^{かわかみ} ^{ふみ}
川上 史 (特任助教)

専門分野：病理診断学全般、泌尿・生殖器病理学、デジタルパソロジー
 ①②③

^{あさと} ^{つぐはる}
安里 嗣晴 (特任助教)

専門分野：病理診断学全般 ①②③

^{さの} ^{なおき}
佐野 直樹 (特任助教)

専門分野：病理診断学全般 ①②③

^{しおた} ^{たくや}
塩田 拓也 (医員)

専門分野：病理診断学全般 ①②③

^{おおぞの} ^{かずたか}
大園 一隆 (医員)

専門分野：病理診断学全般

^{おおくら} ^{こうへい}
大倉 航平 (医員)

専門分野：病理診断学全般

^{むとう} ^{きほ}
武藤 貴保 (医員)

専門分野：病理診断学全般

^{にしやま} ^{なおこ}
西山 尚子 (病理技師長)

^{たのうえ}
田上 さやか (臨床検査技師)

^{いしはら} ^{みつひろ}
石原 光浩 (臨床検査技師)

^{なかもと} ^{たまき}
中本 環 (臨床検査技師)

^{たけした} ^{ひろし}
竹下 博士 (臨床検査技師)

^{はしむかい} ^{けいすけ}
橋向 圭介 (臨床検査技師)

^{かたふち} ^{たつや}
片瀨 達也 (臨床検査技師)

^{もり} ^{まこと}
森 真琴 (臨床検査技師)

^{ふるた} ^{さおり}
古田 沙織 (臨床検査技師)

^{ふくだ} ^{みさき}
福田 美咲 (臨床検査技師)

^{とくなが} ^{ひでひろ}
徳永 英博 (臨床検査技師)

特徴・特色

病理部では、術前に患者様から採取された生検材料や、手術で採取された組織・臓器から、組織標本あるいは細胞診標本を作製して顕微鏡で観察し、病理診断を行っており、必要に応じて特殊染色や免疫染色、ホルモンレセプター検索なども行っています。臨床サイドでは、この病理診断に基づいて腫瘍の良悪性や予後などを判断し、治療方針の決定や治療効果の評価を行っています。術中には、手術中に採取された新鮮材料から迅速凍結標本を作製して病理診断を行い、リアルタイムに切除範囲の評価や転移の有無の評価などを判定して術者に報告しています。また、生命科学研究部の病理関連講座と協力し、院内・院外の病理解剖業務を行っています。さらに、組織・細胞診の病理診断や免疫染色、術中迅速診断については、院外の医療施設からの受託業務を行っており、テレパソロジーを利用した画像伝送による遠隔病理診断も行っています。

業務領域

- ◎病理組織標本作製及び診断
- ◎細胞診標本作製及び診断
- ◎術中迅速凍結組織標本作製及び診断
- ◎術中迅速細胞診標本作製及び診断
- ◎病理解剖（生命科学研究部と協力）
- ◎院外受託標本診断（産学連携経費）

診療表

	月	火	水	木	金	土・日・休
病理診断					○	
標本切り出し					○	
術中迅速診断					○	
院外受託標本診断					○	
病理解剖(当番制)						○(当番日)

※病理部では他の医療機関の組織・細胞診標本診断、免疫染色及び術中迅速診断の受託業務を行っています。

問い合わせ先：業務内容については、大学病院病理部（電話 096-373-7096）

事務手続きについては、生命科学系事務部研究支援担当（電話 096-373-5657）

までお問い合わせください。

■認定医・専門医・指導医等（専門分野の後に○数字で示しています。）

- ①病理専門医
- ②日本臨床細胞学会細胞診専門医
- ③死体解剖資格医
- ④病理専門医研修指導医

特徴・特色

輸血検査および輸血管理を24時間体制で行い、技師は中央検査部に所属し、輸血部とのローテーションで円滑に業務を行っています。貧血、血小板減少症、汎血球減少症、凝固線溶異常症などの疾患、輸血、幹細胞移植のコンサルテーションを外来で行い、病棟では血液内科と協力してそれらの治療を行っています。

また、医学部学生、研修医、臨床検査学生に対する講義、実習の指導、造血幹細胞の生物学的特性の解析を行い、再生医療の基礎的検討および臨床応用を考えています。輸血療法委員会のメンバーが中心となって院内の輸血療法、幹細胞移植療法、輸血管理の維持、改善を行っています。

業務領域

◎検査

血液型検査 (ABO・Rh)	輸血・手術予定の患者
不規則抗体検査	輸血・手術予定の患者
直接クームス試験	新生児溶血性疾患、自己免疫性疾患など
抗体価 (抗A・抗B)	移植後の経過観察、母子不適合妊娠
交差適合試験	赤血球製剤輸血時

◎血液製剤管理

赤血球製剤	貧血、手術時の赤血球補充
新鮮凍結血漿	凝固因子補充
血小板製剤	血小板補充、出血
自己血	手術予定で希望かつ適応患者

◎末梢血幹細胞採取、処理、保存

◎自己血貯血

◎表面マーカー

CD34
CD4/CD8、T/B/NK、PNH クローン

◎HLA タイピング、クロスマッチ

■認定医・専門医・指導医等 (専門分野の後に○数字で示しています。)

- ①日本血液学会評議員
- ②日本癌学会評議員
- ③日本ウイルス学会理事
- ④日本ウイルス学会評議員
- ⑤日本HTLV-1学会理事
- ⑥日本輸血・細胞治療学会認定医
- ⑦日本輸血・細胞治療学会九州支部長、日本輸血・細胞治療学会理事
- ⑧日本血栓止血学会代議員
- ⑨学会認定自己血輸血責任医師
- ⑩日本学術会議連携会員
- ⑪細胞治療認定管理師
- ⑫サイトメトリー学会理事



専門分野：検査医学、血液内科学

①②③④⑤⑩

よねむら ゆうじ
米村 雄士 (副部長・講師)

専門分野：輸血医学、血液内科学、細胞治療学、造血幹細胞

①⑥⑦⑨⑪⑫

うちば みつひろ
内場 光浩 (助教)

専門分野：輸血医学、血液内科学、凝固線溶学

⑥⑧

■中央診療施設等 感染免疫診療部

●部長 ^{まつおか} **松岡** ^{まさお} **雅雄**
(血液・膠原病・感染症内科教授)



専門分野：血液内科学、ヒトレトロウイルス学
⑦⑭⑮⑯⑰

^{かわぐち} **川口** ^{たつや} **辰哉** (客員教授)

専門分野：血液内科学、感染症、院内感染制御
①②③④⑤⑥⑦⑳

^{のさか} **野坂** ^{きさと} **生郷** (准教授)

専門分野：成人T細胞白血病、悪性リンパ種
①②③④⑤⑥⑦⑫⑮⑲⑳㉑

^{なかた} **中田** ^{ひろとも} **浩智** (講師)

専門分野：免疫不全、HIV感染症、院内感染制御
①②③④⑤⑥⑧⑩⑪⑫⑬

^{かわの} **河野** ^{やわら} **和** (助教)

専門分野：多発性骨髄腫、形質細胞性疾患
①㉒

特徴・特色

これまで人類が経験したことのない新しい感染症や、制圧されたと考えられていた感染症が再び人類の脅威となるなど、いわゆる振興・再興感染症が問題となっています。私どもは、このような感染症に専門的に対応できるような体制をとっております。

中でも、日本で増加傾向が続く HIV 感染症及びエイズ診療に関しては、エイズ拠点病院として積極的に患者様の治療にあたっております。一方、インфекションコントロールチームを組織し、院内感染制御のための活動や、院内で発生した感染症治療の支援なども行っています。

業務領域

- ◎新興・再興感染症の診断、治療、予防
- ◎ HIV 感染症の診療 (診断、治療)、研究 (病態解析、新薬開発など)、啓発活動
- ◎免疫不全患者における日和見感染症の診断及び治療
- ◎院内感染制御

■外来診察日 外来診察日記号 ○=初診 ◎=再診 ●=特殊再診

氏名	職名	専門分野/専門領域	外来診療日				
			月	火	水	木	金
松岡 雅雄	教授	血液内科学、ヒトレトロウイルス学			○		
非常勤診療医師 松下 修三	ヒトレトロウイルス学共同研究センター教授	免疫不全、HIV 感染症					○◎
川口 辰哉	准教授	血液内科学、感染症、院内感染制御			○◎		
中田 浩智	講師	免疫不全、感染症、院内感染制御	○◎		○◎		

■認定医・専門医・指導医等 (専門分野の後に○数字で示しています。)

- ①日本内科学会認定内科医
- ②日本内科学会指導医
- ③日本内科学会総合内科専門医
- ④インフェクションコントロールドクター (ICD)
- ⑤日本血液学会認定血液専門医
- ⑥日本血液学会認定血液指導医
- ⑦日本血液学会評議員
- ⑧日本感染症学会認定感染症専門医
- ⑨日本感染症学会認定感染症指導医
- ⑩日本エイズ学会認定医
- ⑪日本エイズ学会指導医
- ⑫日本化学療法学会認定抗菌化学療法認定医
- ⑬日本化学療法学会認定抗菌化学療法指導医
- ⑭日本癌学会評議員
- ⑮日本ウイルス学会評議員
- ⑯日本 HTLV-1 学会理事
- ⑰日本学術会議連携会員
- ⑱日本がん治療認定医機構認定医
- ⑲日本輸血細胞治療学会認定医
- ⑳がん薬物療法専門医
- ㉑PNH 研究会理事
- ㉒がん薬物療法指導医
- ㉓日本骨髄腫学会代議員

●部長 ^{にし}西 ^{かずひこ}一彦
(准教授)



専門分野：血液浄化、腎移植

①②③④⑤⑥⑦

^{むらかみ} ^{ようじ}
村上 洋嗣 (助教)

専門分野：泌尿器科一般、血液浄化、
腎尿路性器癌、腹腔鏡手術、ロボット
支援手術

①②④⑤

^{すぎやま} ^{ゆたか}
杉山 豊 (助教)

専門分野：泌尿器科一般、神経泌尿
器、腎尿路性器癌、血液浄化、腎移
植

①②④

^{くろかわしんいちろう}
黒川慎一郎 (非常勤診療医師)

専門分野：泌尿器科一般、血液浄化

②③⑨

特徴・特色

当部は平成14年4月より予算措置にて新設され、平成14年9月21日には新西病棟6階に移転し病床数10床、最大20名の収容人数を擁しています。粉末透析液・透析液の清浄化・アイソレーションユニットなどの工夫を施行し、清潔で安全な治療ができる装備を有しております。治療内容としては

- ①急性腎不全治療や慢性腎不全の患者さんの血液透析導入
- ②各種難治性疾患（ASO、薬物中毒、免疫疾患、代謝疾患、神経疾患、皮膚疾患、敗血症ショック等）に対して病因関連物質を除去する血漿交換療法や吸着療法等の血液浄化療法を行っています。
- ③近年血液透析患者さんの高齢化や糖尿病性腎不全の増加により透析患者さんの合併症（心血管系合併症・眼科系合併症・消化器系合併症・悪性腫瘍・感染症・シャントトラブル等）が増加し透析患者さんの入院加療も増加しております。この合併症のスムーズな精査・手術治療の為、入院中の血液透析に内科医や主治医と協力の下積極的に取り組んでおります。その結果、本院の全診療科中約9割が利用し、又困難な条件下での血液透析療法施行経験が豊富であります。
- ④肝移植・腎移植術前の管理や血液型不適合移植時の抗体除去等の移植医療との連携も実施しています。
- ⑤小児科医と協力の下、小児科領域での血液浄化療法や腹膜透析療法も実施しており、他県よりの患児（乳児～小児）の緊急入院にも対応しており、小児腎不全への困難な治療の経験も特徴となっております。
- ⑥腎不全患者さんのQOLや予後改善の為に、末期腎不全治療の3本柱の一つである腎移植を、泌尿器科医と協力の下認定医が実施しております。5年生存率100%、5年生着率91%と良好な成績であります。

業務領域

当部は多岐にわたる血液浄化療法を施行しており、主たる業務内容は血液透析（HD）ですが、血液濾過（HF）・血液濾過透析（HDF）・腹膜透析導入も施行しております。

また、透析導入や合併症の精査・手術治療で入院中の透析患者さんの血液透析については、症例カンファレンスを毎週実施し、各内科医や依頼科主治医と協議し、困難な条件下での血液透析療法を安全に実施しております。

血液透析以外の血液浄化療法として、①溶血性尿毒症症候群・血栓性血小板減少性紫斑病・劇症肝炎・神経疾患などに対する血漿交換療法、②クリオグロブリン血症に対するクライオフィルトレーション、③難治性ネフローゼ症候群・家族性高脂血症などに対するLDL吸着療法、④重症筋無力症などに対する免疫吸着療法、⑤炎症性消化器疾患・悪性関節リウマチに対するリンパ球除去療法など多岐にわたる血漿交換療法や吸着療法等を積極的に施行し、近年増加しております。

急性血液浄化療法の分野では、集中治療学教室と協力し全身性炎症反応症候群や劇症肝臓疾患等に対して持続的血液浄化療法（CHDF、CHD）を行っています。

腎移植や肝移植前の血液浄化療法やバスキュラーアクセス不全に対する修復手術も実施しております。

■認定医・専門医・指導医等（専門分野の後に○数字で示しています。）

- ①日本泌尿器科学会指導医
- ②日本泌尿器科学会専門医
- ③日本臨床腎移植学会 腎移植認定医
- ④日本がん治療認定医機構認定医
- ⑤日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
- ⑥日本内視鏡外科学会技術認定医
- ⑦日本透析医学会指導医
- ⑧日本医師会認定産業医
- ⑨日本東洋医学会専攻医

特徴・特色

総合臨床研修センターは熊本大学病院が担う「優れた医療人の育成」という使命に基づき、その臨床教育・研修の拠点施設として設置されました。

中央診療棟7階に位置し、カンファレンスルームや複数の演習室、シミュレーション室等を配備しています。医学部学生、初期研修医向けの実習講義・シミュレーション教育や看護教育等を中心に医療研修の場として活用されています。その他にも研修関連会議、臨床病理検討会、初期研修医を指導する指導医養成講習会、生涯教育セミナー、職種別のカンファレンス、そして医学生の実験能力試験や研修医の採用試験など、教育に関する多岐の目的で、年間述べ1万人以上がセンターを利用しています。利用者は、医学部学生・初期研修医、看護師をはじめとして、薬剤師、医療従事者全般におよび、診療科や職種を超えた優秀な医療人育成に向けて、教育環境の充実に取り組んでいます。

中でも、高度な機器を使った臨床シミュレーションシステムは、実臨床に近い体験が可能で、基本的な診療手技の習得から、専門医教育、心肺蘇生教育等にまで幅広く効果を発揮しています。現在、100種類以上のシミュレータを導入し、27種類のコースがプログラム化されており、各診療分野における手技・技能の向上をサポートします。



血管造影検査シミュレータ



SimMan 3G シミュレータ

業務領域

- ◎研修医の募集及び登録に関する業務
- ◎卒後臨床研修カリキュラムの管理及び実施に関する業務
- ◎研修医等の評価に係る業務に関する業務
- ◎研修関連医療機関等との連絡・調整に関する業務
- ◎臨床研修指導医研修ワークショップの実施
- ◎生涯教育・研修医セミナーの実施
- ◎学部教育との連携に関する業務
- ◎メディカルスタッフ部門の教育・研修支援に関する業務
- ◎地域医師等へのリカレント教育・研修の場と情報の提供に関する業務
- ◎地域住民への教育・啓発活動に関する業務
- ◎その他センターに係る教育研修に関する事項



専門分野：癌の放射線治療

うすくこういちろう
宇宿功市郎

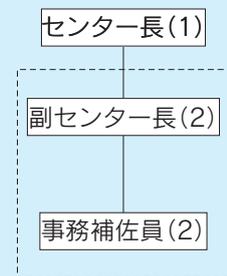
(副センター長・医療情報経営企画部教授)

専門分野：医療情報学、医学教育学、
神経内科学、東洋医学

いしこ たかとし
石河 隆敏

(副センター長)

専門分野：一般外科、医学教育学、
消化器外科



初期臨床研修担当

●部長 たなか 田中 もとひこ 基彦
(准教授)



専門分野：肝癌、慢性肝疾患
②③④⑤⑥

なおえ ひであき
直江 秀昭
(副部長・消化器内科講師)

専門分野：消化管疾患全般、炎症性腸疾患
①②③④⑤⑦

特徴・特色

光学医療診療部は内視鏡検査や治療を担当する部門で、中央診療棟2階に位置し新外来診療棟と直結しております。消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科、移植外科・小児外科により共同で運営されております。当部門では、最新の内視鏡診断・治療システムであるハイビジョン内視鏡、拡大内視鏡、超音波内視鏡、小腸内視鏡、カプセル内視鏡などの最先端の内視鏡機器と情報を速やかに共有できる内視鏡ファイリングシステム、レポートシステムなどを導入しております。消化器疾患や呼吸器疾患の診断のための検査内視鏡に加えて、治療内視鏡を積極的に行っております。

スタッフは充実しており、日本消化器内視鏡学会指導医5名、専門医14名、日本呼吸器内視鏡学会指導医2名、専門医3名を含む、熟練した医師スタッフと看護スタッフとが業務を担当しております。

2018年度の実績では、上部内視鏡4,855件、下部内視鏡2,065件、気管支鏡312件、胆膵内視鏡検査数318件です。初期の食道がん、胃がん、大腸がんについても内視鏡治療を積極的に行っており、2018年度の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の実績は、食道73例、胃79例、大腸30例と県内でもトップクラスの治療数を誇っております。また肝硬変によって起こる食道胃静脈瘤の予防的内視鏡治療を行い、静脈瘤破裂による突然の出血を防いでいます。さらに小腸内視鏡は、小腸の病気の診断や原因不明の消化管出血の出血源の発見にその有用性を発揮しています。また最先端の「カプセル内視鏡」は、小腸疾患や原因不明の出血に対して苦痛のまったくないスクリーニング検査として期待されており、2018年には42例行っています。小腸内視鏡と組み合わせることで、より精度の高い内視鏡診断が可能になります。気管支鏡検査は超音波気管支鏡(EBUS-GS111例、EBUS-TBNA80例)を駆使して、良性疾患、悪性疾患に対する、より正確な診断を心がけています。

当部門では、苦痛の少ない内視鏡検査を心がけると共に、検査中は患者様の全身状態を厳重にチェックし安全を確保しております。さらに内視鏡機器の洗浄や消毒は日本消化器内視鏡学会のガイドラインに準拠しており、検査を介しての細菌感染やウイルス感染は皆無です。

また光学医療診療部の医師や看護師等の医療スタッフは全員、卒後教育などを通して最新の知識と技術を習得し、内視鏡検査・治療を常に高い水準を保つよう努めています。

このように光学医療診療部は、最先端の内視鏡機器と高い技術水準により、皆様に安全で信頼度の高い内視鏡検査・治療を提供させていただいております。

業務領域

■業務領域

◎消化器領域の内視鏡的検査・治療、呼吸器領域の内視鏡的検査

■認定医・専門医・指導医等(専門分野の後に○数字で示しています。)

- ①日本内科学会、総合内科専門医
- ②日本内科学会指導医
- ③日本消化器病学会指導医
- ④日本消化器内視鏡学会専門医
- ⑤日本消化器内視鏡学会指導医
- ⑥日本肝臓学会指導医
- ⑦日本がん治療認定医機構認定医

学会認定研修施設等一覧

- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本臨床腫瘍学会認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

特徴・特色

遺伝子医療、移植医療及び病態が十分に解明されていない種々の難病の予防・診断・治療法などの開発を推進するプロジェクトを支援しています。

業務領域

- 高度先進医療を開発・推進するための研究・計画の実施
- 1) 先端医療支援の申請受付、審査（評価）資料の作成等
 - 2) 経費の算定及び配分
 - 3) 経費の管理及び執行
- ◎計画の実施に対する人的並びに経済的支援及び寄付金の募集
 ◎治験・診断情報の開示
 ◎講演会・講習会・セミナーの開催等
 ◎診断・治療上の技術相談・指導及び共同研究の実施支援等

●センター長 あらき えいいち
荒木 栄一
 （代謝内科学 教授）



専門分野：内科学、糖尿病学、
 内分泌代謝学

不整脈先端医療寄附講座

近年、頻脈性不整脈の病態解明において、三次元での心腔内興奮伝播解析が可能となってきました。不整脈先端医療講座は心臓電気生理学、循環器病態学を中心とした基盤的学問の上に臨床不整脈分野の先端的研究を行い、難治性不整脈治療の先導的役割を担う目的で設置されました。具体的な研究テーマは、1) これまでその機序が明らかにされていない難解な頻脈性不整脈の機序解明に関する研究、2) 新しい心腔内電位解析装置である Non-contact mappingsystem (EnSite 3000) を用いた頻脈性不整脈の適切な治療法の確立、3) 致死性心室性不整脈の機序解明と、心機能低下を伴った症例での Cardiac resynchronization therapy with defibrillator (CRTD) の有用性についての検討などがあります。

機能神経外科先端医療寄附講座

近年、脳深部に電極を挿入し、パルス発生装置を用いて神経核の活動を制御する脳深部刺激療法 Deep Brain Stimulation (DBS) が、パーキンソン病、ジストニア、振戦などの運動異常症に対して画期的治療効果をもたらすことが明らかとなりつつあります。神経回路そのものの活動を電気刺激で制御することにより、運動異常や感覚異常のみならず高次脳機能にも効果を発揮し得る DBS は、基礎的分野の神経科学者からも注目されています。機能神経外科講座は、DBS と神経変性疾患に対する再生医療を研究テーマの柱とし、近年長足の進歩を遂げつつある機能神経外科において、その先端的治療の研究及び開発を目的として設置されました。

心血管治療先端医療寄附講座

高齢化社会、メタボリック症候群の急増する社会の到来に伴い、心血管・循環器疾患の患者は飛躍的に増加しており、循環器診療において、難治性の不整脈、心不全及び冠動脈疾患の治療の充実と新治療法の研究開発が急務となっています。当講座はそのような背景のもと独創的な発想力、探究心を育みながら、基盤的研究及び臨床診療の面から、治療が困難である難治性の冠動脈疾患及び心不全分野の研究、教育及び治療を遂行する目的で設立されました。現在は、九州圏内関連病院における冠動脈形成術の全例登録研究 (KICS)、県下発症急性心筋梗塞の全例調査 (KACE)、下肢動脈血管内治療登録研究 (Kumamoto EVT registry)、熊本地震発生後の急性脳・心血管疾患発生数と予後に関する研究 (KEEP project) を継続して行っています。

新生児学寄附講座

新生児医学の分野は、従来は産科と小児科の境界に位置してきました。しかし新生児医療が進歩するとともに新生児学は小児科学分野の中に位置づけられつつ発展し、特に米国において小児科医を主体とした重症新生児の管理を目的とした臨床分野として今日に至っています。その一方で、わが国においては国立大学医学部における新生児医療と研究分野への取り組みが遅れており、その歴史は浅いものであります。そのような背景の中で本寄附講座はわが国の国立大学の医学研究と医学教育において先進的で重要な役割を担うと考えられます。さらに上記活動を通して、この領域における優秀な人材の育成、およびこの地域における新生児医療の充実に貢献します。

循環器予防医学先端医療寄附講座

近年、重要視されている循環器予防領域の臨床研究をハイレベルで行い、日本に不足しているといわれているエビデンスを構築し、そのエビデンスを診療及び医学部の基礎、臨床教育につなげることを目的として設置されました。

分子神経治療学寄附講座

免疫グロブリン治療を中心とした自己免疫関連神経疾患の治療の可能性を精力的に推進し、また本講座の疾患治療における免疫グロブリンの臨床研究成果を熊本発の新たな知見として世界に向けて発信していくことを目的としております。これまでの本領域の診療・研究は、免疫グロブリン使用の制限もあり、あまり活発とは言えなかったところを、本寄附講座の新設を契機に、診療・研究・教育が飛躍的に進展し、地域の患者のみならず、世界に情報発信できる成果が得られるものと期待されるものであります。

脳血管障害先端医療寄附講座

本講座の目的は、神経学の根幹の1つをなすとも言える「脳血管障害学」を中心とした基盤的学問の上に、難治性血管障害や遺伝性血管障害の研究、教育及び治療の先導的役割を担うことです。独創的な発想力と探究心をもって、最先端の脳血管障害医療の研究開発に励み、新しい技術を一般化して診療へ応用していくことを目指しています。

消化器癌先端治療開発学寄附講座

消化器癌に対する外科手術と化学療法や分子標的治療の融合による高度な集学的治療の実践、ならびに新たな治療戦略の開発に向けた基盤研究のため本講座を開設しました。消化器癌に対する集学的治療の確立のための専門医育成、横断的な組織作り、collaborationによる先端的医療への挑戦、関連病院との施設連携等を、消化器外科学教室と協力して行います。さらに現状では治療困難な進行消化器癌に対する新しい治療戦略の開発に向け、質の高い基礎研究に基づいたトランスレーショナルリサーチを実践します。

次世代外科治療開発学寄附講座

手術、化学療法、放射線療法、化学放射線療法などを含む集学的治療の発達にも関わらず、消化器癌の予後はいまだに不良です。そのため、基礎研究及び臨床研究により、分子標的療法に代表される革新的な治療法の開発が模索されています。本寄附講座においては、消化器癌に対する次世代外科治療の開発を目指して、腫瘍免疫、腸内細菌叢(Microbiome)、epigeneticsなどをターゲットとした創薬のためのシーズの探索を行います。



日本産科婦人科学会専門医、熊本県母体保護法指定医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、日本女性医学会女性ヘルスケア暫定指導医

みつぶち ひろし
三瀨 浩 (特任教授)

専門分野：新生児、遺伝、先天代謝異常
日本小児科学会専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会暫定指導医、日本周産期・新生児学会専門医

おおば たかし
大場 隆 (産科婦人科准教授)

専門分野：生殖内分泌、周産期、出生前診断
日本産科婦人科学会専門医、日本産婦人科医学会母体保護法指定医、熊本県母体保護法指定医、日本内分科学会指導医、日本周産期・新生児医学会暫定指導医、日本超音波医学会専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医

ほんだ りつお
本田 律生 (産科婦人科講師)

専門分野：生殖内分泌、生殖補助医療
日本産科婦人科学会専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医

いらい まさのり
岩井 正憲 (小児科講師)

専門分野：新生児、新生児救急 日本小児科学会専門医

さかもと りえこ
坂本理恵子 (小児科講師)

専門分野：新生児、肝・代謝・内分泌疾患 日本小児科学会専門医

さいとう ふみたか
齋藤 文誉 (産科婦人科助教)

専門分野：周産期 日本産科婦人科学会専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医

たなか けんいち
田中 健一 (特任助教)

専門分野：新生児、新生児救急、超低出生体重児の管理
日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会専門医

ならむら てつお
柵村 哲生 (特任助教)

専門分野：新生児、新生児救急、超低出生体重児の管理
日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会専門医

いのうえ たけし
井上 武 (特任助教)

専門分野：新生児、新生児救急、超低出生体重児の管理
日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会専門医

なかばやし ともみ
中林 朋美 (診療助手)

専門分野：新生児 日本小児科学会専門医

いりえ しんじ
入江 慎二 (医員)

専門分野：新生児、新生児栄養、小児一般 日本小児科学会専門医

いまむら ひろこ
今村 紘子 (医員)

専門分野：新生児、新生児救急

おおつか りな
大塚 里奈 (医員)

専門分野：小児一般

かたやま たいすけ
片山 太輔 (医員)

専門分野：新生児、小児一般

かわの りな
河野 里奈 (医員)

専門分野：小児一般

かたおか なつみ
片岡 菜摘 (医員)

専門分野：小児一般

特徴・特色

平成14年10月の西病棟新築に伴い、同病棟7階に設置された周産期母子センターは、

- ①疾患を持つ母体・胎児の管理・治療を行う「周産期医療部門」
- ②疾患を持つ新生児の管理・治療を行う「新生児医療部門」
- ③不妊治療を行う「生殖医療部門」

の3部門で構成されています。
新生児医療部門に新生児集中治療室 (NICU) 12床 (平成28年～15床)、回復保育室 (GCU) 12床が、更に周産期医療部門に母体・胎児集中治療室 (MFICU) 6床が整備され、平成23年4月に熊本県内で2番目の総合周産期母子医療センター施設認定を受けました。

当センターは大学病院の機能を生かし、周産期医療部門、生殖医療部門は産科チームを中心に、内科系・外科系・精神系の各診療科と連携し、母体、胎児に高度医療を提供しています。新生児医療部門は小児科チームを中心に、小児外科の協力を得て、未熟な新生児や手術が必要な新生児への医療を、また眼科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、皮膚科等の各診療科と連携して、特殊な疾患を持つ新生児への医療を提供しています。また、県内唯一の大学病院として、周産期医療に携わる医療者 (医師、助産師、看護師、心理士、理学療法士) の育成にも力を入れています。

業務領域

新生児医療部門近年5年間の年別・疾患別患者数の推移は下表の通りです。

	2014	2015	2016	2017	2018
入院患者数	223	202	301	309	304
超低出生体重児 (~999g)	18	12	32	30	18
極低出生体重児 (~1499g)	41	23	50	62	40
人工呼吸管理症例	68	65	99	117	132
低体温療法症例	11	8	9	7	9
一酸化窒素吸入療法症例	5	1	4	7	18
持続血液透析症例	1	0	0	0	1

新生児医療部門では従来、大学病院の専門性を生かし①先天代謝異常症、②重症新生児仮死、③遺伝性疾患等の患者を24時間対応で積極的に受け入れてきました。熊本地震後は④超早産児、⑤新生児外科疾患等の症例もより多く受け入れ、新生児救急搬送も年間100例程度行っています。これらの新生児に対して、新生児専任医師による専門的な診療が提供されています。また看護スタッフは、児と家族のためのファミリーセンターケアを常に実践しています。リハビリテーション部、ME 機器センター、中央放射線部、中央検査部、薬剤部等と連携し、きめ細やかな医療の提供を行っています。新生児医療部門では病院の全面的なバックアップの元、最先端の高度医療の提供と、児と家族の絆を重視する医療の提供に日々努力しています。

周産期医療では母子センター内に6床の母体胎児集中治療室 (MFICU)、21床の産科病床を有し、2018年には897件の入院、392例の分娩を扱いました。帝王切開術後の経膈分娩 (VBAC) にも対応しています。前置胎盤、妊娠高血圧症候群などの異常妊娠・分娩の管理はもちろん、大学病院としての特性を生かし、さまざまな合併症を持つ妊娠女性の管理を受け入れています。さらに NICU と協力して24時間体制でハイリスク妊娠の受け入れに対応しており、2018年には138例の母体搬送を受け入れました。当院は産婦人科、NICU、精神科を備えた県内唯一の病院であり、小児科、神経精神科と協力して妊娠産褥期の精神疾患について妊娠成立から出産、育児まで一貫した医療を提供しています。外来は周産期医療専任の医師が担当し、臨床遺伝専門医による出生前診断や遺伝カウンセリングも行っています。本院は日本産科婦人科学会専門医制度研修施設、日本周産期・新生児医学会胎児母体・新生児専門医制度の基幹研修施設の認定を受けています。

生殖医療は生殖医療専門医が中心となって担当しています。当院は、県下の他施設に先駆けて生殖補助技術 (ART) を導入したほか、糖尿病や甲状腺機能異常症、多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) をはじめとした様々な合併症のある女性の妊娠に向けての集学的治療を行っています。また子宮内膜症の診断と治療に力を入れており、とくに外科的治療においては婦人科と協力して根治的な治療を目指しています。思春期発来異常については当院小児科の専門医と共に、全人的な診療を心がけています。また必要とされる方には資格を持った医師・助産師が不妊・遺伝カウンセリングを行い、生殖医療についての悩みに対応しています。また、婦人科との協力の下、24時間体制で腹腔鏡下異所性妊娠手術を行うほか、子宮頸管妊娠の子宮温存治療法にも取り組んでいます。生殖医療の医学教育にも力を入れています。

ME 機器センター

●センター長 やまもと たつお
山本 達郎
(麻酔科教授)



専門分野：臨床麻酔、
ペインクリニック

おぼら だいすけ
小原 大輔
(副センター長・臨床工学技士長)

専門分野：体外循環、補助循環、手術室業務、心臓カテーテル業務
①

おおつか かつじ
大塚 勝二
(臨床工学技士)

専門分野：血液浄化全般
②④

やました だいすけ
山下 大輔
(臨床工学技士)

専門分野：ME 機器管理業務、呼吸治療業務
⑤⑥

よしとみ あきこ
吉富 晃子
(臨床工学技士)

専門分野：体外循環、手術室業務
①②⑤⑧

はらだ たいき
原田 大揮
(臨床工学技士)

専門分野：心臓カテーテル業務、不整脈業務
⑨

特徴・特色

「医療機器の効率的利用を促進するとともに、専門的な保守管理を実施し、もって医療の安全性および質の向上を図る」ことを目的に、平成19年1月1日「ME 機器センター」が設立されました。

近年、医療の安全性や信頼性が社会問題となり、医療機器を取り巻く環境も大きく変わり、平成19年4月1日には「改正医療法；医療機器に係る安全管理のための体制確保」が、翌平成20年4月1日には「立会い規制；不適正な医療提供の是正」が続げざまに発令され、ME 機器センター業務は増加の一途を辿っています。また、平成26年度の診療報酬改定により、特定集中治療室管理料1の施設基準の一つとして、専任の臨床工学技士が常時、院内に勤務していることが掲げられ、それに伴う臨床工学技士の増員も叶い、平成27年3月より交替制勤務を実施し、ICUのみならず NICU、CCU、HCU など24時間サポートできる体制となりました。

平成30年からは、九州大学病院と連携し補助人工心臓の管理施設となったことから、患者様の外来管理にチームの一員として関与しています。平成31年からは、補助循環用ポンプカテーテル (Impella) 業務にも携わっています。

業務領域

ME 機器センターには現在臨床工学技士22名と医療機器操作員2名が在籍し、臨床技術提供、ME 機器保守管理といった業務に加え、医師や看護師を対象とし、安全に医療機器を使用するための教育にも力を入れています。

また在籍するスタッフは、4つの部門に分かれて業務を行っています。

■ ME 機器管理業務

人工呼吸器、除細動器、閉鎖式保育器、麻酔器等の定期点検の実施
人工呼吸器の中央管理と人工呼吸器ラウンド点検 (日勤帯、夜勤帯、各1回) の実施

NICU ラウンドの実施

輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、低圧持続吸引装置等の日常・定期点検の実施

AED ならびに医療ガスアウトレットの定期点検の実施

医療機器安全使用のための研修会企画、ME 機器センターニュース発行

■ 手術室業務

心臓血管外科手術時の人工心肺回路の組み立て、充填、操作
オフポンプ冠動脈バイパス手術や TAVI 時に使用される機器の準備、操作 (体外循環、IABP、自己血回収を含む)

人工血管置換術、人工骨頭置換術時の自己血回収装置の準備、操作
各診療科への臨床技術提供 (内視鏡装置のセッティング、ナビゲーション、顕微鏡、術中神経モニタリング、レーザー、手術支援ロボット (daVinci)、RFA)

手術室内の機器管理 (定期点検・手術器具滅菌前点検など)

中央手術部で使用される ME 機器の保守点検ならびに医師・看護師への取り扱い説明

■ 血液浄化業務・高気圧酸素治療業務

血液透析、血液濾過、血液濾過透析等の組み立て、充填、操作、回収
高気圧酸素治療の実施

■ 循環器内科関連業務

循環器内科への臨床技術提供 (ペースメーカー植え込み、ペースメーカー外来、心臓カテーテル検査、カテーテルアブレーション、TAVI)

補助循環業務 (IABP、ECMO、IMPELLA)

補助人工心臓 (LVAD) 管理業務

■ 資格等

- ① 体外循環技術認定士
- ② 透析技術認定士
- ③ 臨床高気圧酸素治療技士
- ④ アフェレシス認定技士
- ⑤ 呼吸療法認定士
- ⑥ 第1種ME技術者
- ⑦ 不整脈治療専門臨床工学技士
- ⑧ 周術期管理チーム臨床工学技士
- ⑨ 心血管インターベンション技師
- ⑩ 呼吸治療専門臨床工学技士

地域医療支援センター

●センター長 **まつい くにひこ**
松井 邦彦
 (地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授)

特徴・特色

熊本県の医療体制の充実度は全国でも有数と言われており、人口10万人当たりの医者数は全国で10位です。しかしながら、地域や診療科によって医師の偏在が顕著で、熊本市を除く地域では依然として厳しい医師不足が続いています。これを踏まえ、2013年12月に熊本県と本学が協力して「熊本県地域医療支援機構」が設立され、2014年4月から、熊本大学病院地域医療支援センターに運営が委託されました。

熊本県地域医療支援機構では、医師が地域医療に従事していても計画的に資格が取得出来る体制や、医師が地域と熊本市内の医療機関を循環するシステムの構築、復職する女性医師を支援する活動など、様々な活動に取り組んでおります。

また、県からの寄附を受けて設立された地域医療・総合診療実践学寄附講座において医学部医学科の教育の支援や地域医療に関する調査研究を行っており、同様に県からの寄附を受けて設置された地域医療ネットワーク実践学寄附講座においては、ネットワーク構築による医療機能の向上、新たな専門医制度における修学資金貸与医師等のキャリア形成支援、並びにこれらを踏まえての圏域における医療機能の向上に関する調査研究を行っております。

業務領域

- ◎熊本県地域医療支援機構の業務に関すること
- ◎地域における医療提供体制に関すること
- ◎総合臨床研修センターとの連携に基づく医療人教育に関すること
- ◎医学部学生の地域医療教育に関すること
- ◎その他地域医療の支援に関すること

地域医療・総合診療実践学寄附講座

地域医療・総合診療実践学寄附講座は、地域医療システム学寄附講座（前講座）の成果を踏まえて、より実践的な活動を目指す寄附講座として、2016年4月に設置されました。

設置目的は「地域医療に関する卒前からの継続的な教育、総合診療（専門）医の育成や地域の医療機関における診療支援に関連する研究を行う」こととされ、これまで「地域医療システム学寄附講座」が取り組んできた実績を踏まえ、熊本県医師修学資金貸与と学生をはじめ、全医学科学生に対し、地域医療教育及び総合診療教育を実施するとともに、地域医療機関に対する診療支援や2017年度から開始された新たな専門医制度において、地域医療の中心的役割を担うことが期待されている、総合診療専門医の育成も行っております。

◇教育拠点（玉名、天草）

2015年4月、公立玉名中央病院から寄附を受け、地域医療の実践教育を行う施設として、玉名教育拠点が開設されました。

これは、寄附講座教員が常駐して、地域医療を志す医師、研修医及び医学生に対し、実践教育の場を提供するとともに、拠点が設置された病院の診療を支援することで、地域の医師不足の解消に資することを目的としています。

2019年4月には天草地域医療センターにも教育拠点を設置し、実践的な地域医療教育を拡大しています。

【熊本大学総合診療専門研修プログラム】

地域医療・総合診療実践学寄附講座では、総合診療専門医が新しい専門医制度の基本領域の専門医として設置されるのに対応し、魅力ある後期研修プログラムとして「熊本大学総合診療研修プログラム」を2017年から新設いたしました。現在、6名の専攻医が公立玉名中央病院を始めとする県内の協力病院で研修を実施しております。

なお、これまでの旧制度においても日本プライマリ・ケア連合学会の認定による「熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラム」の運営も行っております。

地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座

地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座は、地域医療介護総合確保基金を財源とした、熊本県からの寄附によって開設された講座です。

熊本県の人口は減少傾向にある一方、75歳以上の人口は2040年まで上昇することから、医療需要の増大が見込まれます。また、今後は、労働環境の不安や医師の専門医志向の高まりから、地域勤務を敬遠する医師が増加する恐れがあり、このままでは、10年後の地域医療を支える若手・中堅医師の確保が困難な状況になります。

これらの地域医療を巡る新たな課題を踏まえ、限られた医療資源を有効活用し、地域の医療機関同士で医師の相互支援を行う体制を構築する新たな取組みを進める必要があります。

このような状況から、本寄附講座では、主に、地域医療拠点病院への医師派遣を通じた圏域内のネットワーク構築による医療機能の向上、修学資金貸与医師等のキャリア形成支援、圏域における医療機能の向上に関する調査・研究を行うことを目的とし活動しています。



専門分野：総合診療、一般内科、臨床疫学

地域医療支援センター

たにぐち じゅんいち
谷口 純一
 (副センター長・地域医療支援センター特任准教授)

専門分野：総合診療、一般内科、救急

ごとうりえこ
後藤理英子 (特任助教)

専門分野：代謝内科

たかやなぎ ひろし
高柳 宏史 (特任助教)

総合診療、家庭医療

こが よしのり
古賀 義規 (客員研究員)

天草市立御所浦診療所

かたおかけいいちろう
片岡恵一郎 (客員研究員)

小国公立病院

さかた まさみつ
坂田 正充

地域医療支援コーディネーター

まつおか たいち
松岡 大智

地域医療支援コーディネーター

たかつか たかこ
高塚 貴子

女性医師復職支援コーディネーター

地域医療・総合診療実践学寄附講座

さどはらみちと
佐土原道人 (特任助教)

専門分野：総合診療、内科

まえだ こうすけ
前田 幸佑 (特任助教)

専門分野：総合診療、内科

たみや さだひろ
田宮 貞宏 (非常勤講師 / 玉名教育拠点)

専門分野：総合診療、血液免疫学、緩和医療

おやま こうた
小山 耕太 (非常勤講師 / 玉名教育拠点)

専門分野：総合診療、総合内科

たかすぎ かしや
高杉香志也 (特任助教 / 天草教育拠点)

専門分野：一般内科、血液内科

つるだ しんぞう
鶴田 真三 (特任助教 / 天草教育拠点)

専門分野：総合診療、家庭医療

地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座

いのうえ ひでき
井上 秀樹 (特任准教授)

ネットワーク推進統括医
 外 ネットワーク推進医 (特任助教) 23名

■中央診療施設等

移植医療センター

連絡先

TEL 096-373-5594

特徴・特色

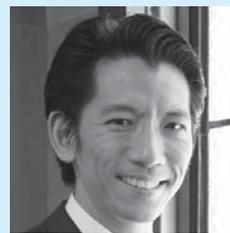
臓器移植法の改正を契機に、臓器移植医療の一般化が進んでいます。本院は、従来、献腎移植の実施認定施設でしたが、生体肝移植の実績蓄積と2010年の法改正を機に、新たな脳死肝移植実施施設の一つとして認定を受けました。2018年4月現在で、脳死肝移植を11例経験しています。さらに、脳死小腸移植の実施認定施設にもなっております。移植医療は、単に患者さん一人の医療にとどまらず、必ずドナーが必要であり、また複数の診療部署や施設間の協力が不可欠です。このような背景から、平成23年度（2011年度）から本院に「移植医療センター」の設置が認められ、正式に発足し、現在に至っております。

センターの事務室は、外来棟4階にあります。兼任のセンター長と専任教員が任命されており、また、看護師から転任した専任のレシピエント移植コーディネーターが、本院で行われる臓器移植のコーディネーションを担っております。移植後の患者さんはもとより、生体移植後のドナーの健康管理や、種々の相談にも応じております。今まで行われていた単一診療科での移植医療をよりきめ細やかに行うよう調整し、長期も含めた移植医療の安全性と信頼性をより高めることがこのセンターの特長です。

業務領域

- ・臓器移植患者周術期管理
- ・臓器移植レシピエントのコーディネート
- ・生体間臓器移植における、ドナーの術前後ケアとサポート
- ・他医療機関との情報送受
- ・院内関係部署の移植に関わる業務調整
- ・臓器移植に関わる病理診断業務（病理医）
- ・臓器移植に関わる服薬指導、薬剤血中濃度モニタリング（薬剤師）
- ・臓器移植患者の社会的支援（MSW）

●センター長 ^{ひび}日比 ^{たいぞう}泰造
(兼任 小児外科・移植外科教授)



^{いその}磯野 ^{かおり}香織
(副センター長・助教)

専門分野：小児外科、移植外科

^{あんどう}安藤 ^{けいこ}恵子

レシピエント移植コーディネーター

■中央診療施設等

災害医療教育研究センター

特徴・特色

災害医療教育研究センターは災害医学に関する教育や研究を推進するセンターとして平成30年10月1日に熊本大学病院に新たに設置されました。その目的は、災害医療に従事する人材を養成し、行政や地域医療との連携を進め県民への啓発等を行うことで、災害時における災害医療派遣体制の構築を図ることです。

業務領域

- (1) 高度災害医療人材の養成
- (2) 災害医療研究及び研究支援
- (3) 地域住民への教育及び啓発活動
- (4) その他災害医療に関係すること

連絡先等

096-373-7214、7215
<https://kumamoto-dmerc.com/>

●センター長 ^{かさおか}笠岡 ^{しゅんじ}俊志
(兼任 救急・総合診療部部长)



^{ないとう}内藤 ^{ひさき}久貴 特任助教（専任）

^{はらぐち}原口 ^{しょうへい}翔平 臨床検査技師（専任）

総合臨床研究部

●部長 たにはら ひでのぶ
谷原 秀信

特徴・特色

総合臨床研究部は当院における臨床研究の適正な推進を目的として2014年10月1日に発足し、以下の業務を担っています。

学内で実施されている基礎研究の把握と研究者間での情報共有、臨床応用へ発展する可能性のあるシーズの探索を行うなど、基礎研究の成果を臨床応用へつなげる取り組みを行っています。

また、近年臨床研究の多様化や研究をめぐる不適正事案が発生したこと等を踏まえ、関連する指針、法規等に基づいた臨床研究が行われるよう、体制・内規の整備、研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育、臨床研究・治験の実施に必要な支援を行っています。

業務領域

【研究シーズ探索センター】

革新的な医薬品・医療機器の創出に向けた有望な研究シーズを発掘するため、イノベーション推進センターと連携し、学内の情報を収集しています。

【研究倫理センター】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」及び「臨床研究法」で規定される研究について、倫理審査がより円滑に進むように、研究計画書の確認等、倫理委員会の審議前に必要な支援を行っています。

【研究データ管理センター】

臨床研究のデータマネジメントに必要なシステムの開発・運用・保守、臨床研究支援システムの管理、収集したデータから統計解析に必要なデータへの変換作業の支援を行っています。

【研究展開センター】

臨床研究の実施全般において、円滑な研究実施の推進、信頼性確保を保つための品質向上を目的として、臨床研究開始前には臨床研究開発戦略、プロトコル作成、統計解析等を行っています。また、研究関係者による診療録閲覧、公開データベースへの登録及び MedDRA/J 利用に関する窓口となっております。

【臨床試験支援センター】*

臨床試験支援

* 臨床試験支援センターは別項に詳細なご案内がございます。



専門分野：眼科学
日本眼科学会専門医・指導医、日本眼科学会評議員、日本緑内障学会理事

あらき えいいち
荒木 栄一

(副部長、研究展開センター長・糖尿病・代謝・内分泌内科教授)

専門分野：糖尿病、内分泌・代謝
日本内科学会認定内科医・指導医、日本糖尿病学会認定専門医・研修指導医、日本内分泌学会認定専門医・指導医、日本老年医学会認定指導医、日本病態栄養学会認定病態栄養専門医

とみざわ かずひと
富澤 一仁

(研究シーズ探索センター長・分子生理学分野教授)
専門分野：生理学

まつおか まさお
松岡 雅雄

(臨床試験支援センター長・血液内科・膠原病内科教授、京都大学客員教授)

専門分野：血液内科学、ヒトレトロウイルス学
日本血液学会評議員、日本癌学会評議員、日本ウイルス学会評議員、日本 HTLV-1 学会理事、日本学術会議連携会員

なかむら きみとし
中村 公俊

(研究倫理センター長・小児科 教授)

専門分野：代謝、内分泌、遺伝
日本小児科学会専門医・指導医、臨床遺伝専門医・指導医

うすくこういちろう
宇宿功市郎

(研究データ管理センター長・医療情報学分野教授)
専門分野：医療情報学、医学教育学、神経内科学、東洋医学

日本医療情報学会会員、日本医学教育学会会員、日本神経学会会員・専門医・指導医、日本東洋医学会会員

みつや ひろあき
満屋 裕明

(研究展開センター特別招聘教授・国立国際医療研究センター 研究所 所長；米国立癌研究所レトロウイルス感染症部 部長；獨協医科大学特別栄誉教授；千葉大学客員教授)

専門分野：血液疾患全般、膠原病、感染症、免疫不全、HIV 感染症
日本学術会議連携会員、日本内科学会(評議員、功労会員第617号)、American Society for Clinical Investigation (Member, elected), American Academy of Microbiology (Fellow, elected), American Society for Biochemistry and Molecular Biology (Member, elected), Association of American Physicians (Fellow, elected)

いしはら そのこ
石原 園子

(研究展開センター特命講師)

専門分野：血液疾患全般、レギュラトリーサイエンス

もりなが じゅん
森永 潤

(研究展開センター特任助教)

専門分野：腎臓内科全般、生物統計

いけだ とくのり
池田 徳典

(研究展開センター特任助教)

専門分野：生物統計、脳神経内科一般、免疫疾患一般

みやした あずさ
宮下 梓

(研究倫理センター特任助教)

専門分野：皮膚科一般、皮膚悪性腫瘍(悪性黒色腫)

さかきだ こうりん
榊田 光倫

(研究シーズ探索センター特任助教)

専門分野：糖尿病、内分泌・代謝

やまののうちよしのり
山ノ内祥訓

(研究データ管理センター特任助教)

専門分野：医学情報学

●センター長 まつおか **松岡** まさお **雅雄**
(血液内科教授)

特徴・特色

臨床試験支援センターは現在日本で使えるお薬では治らない病人の人たちに効果があるとされる新しいお薬や治療法の研究・開発を推進・サポートします。

人体に投与しない非臨床試験の段階までは大学・研究機関・製薬会社などで研究や試験を重ねていきますが、最終的な臨床結果判定はどうしても実際にその病気で苦しむ患者様で試してみるという「試験」が必要になります。この段階が「臨床試験」または「治験」とよばれます。この段階になると病院や医師の協力が必要になってきますので製薬会社などが医療機関に依頼して治験が開始されます。

「治験」を本院で円滑に行うために、当センターは平成11年4月に開設され、治験コーディネーターを中心に医師、薬剤師、看護師などのチームが安全でより有効な医薬品開発を推し進めてきています。

業務領域

- ◎治験事務局として製薬会社からの治験依頼の事前対応
- ◎治験調査委員会（事前審査）及び治験審査委員会の運営
- ◎事務部と連携して治験契約締結
- ◎治験チームを編成して医師などをサポート
- ◎治験開始時の医師、治験依頼者（製薬会社）、治験コーディネーターとのスタートアップミーティングの設定
- ◎治験参加者（患者様）の募集及びスクリーニング
- ◎治験依頼者のモニタリング・監査の対応
- ◎治験実施中の院内各部署との調整
- ◎治験薬の保管管理
- ◎本院と共同で治験を行う医療機関の代理審査と緊急時対応
- ◎医師及び院内スタッフ向けの治験実施講習会の開催
- ◎治験依頼者（製薬会社）向けの治験実施体制説明会の開催



日本血液学会評議員
日本癌学会評議員
日本ウイルス学会評議員
日本 HTLV-1 学会理事
日本学術会議連携会員

じょうの **城野** ひろふみ **博史**

(副センター長、薬剤部准教授)

専門分野：分子病態学、臨床薬理
日本医療学会代議員
日本薬理学会学術評議員
日本臨床化学会評議員
日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師

特徴・特色

高度先進医療技術並びに情報通信技術の進歩はこれまでの医療のあり方を大きく変えてきており、より安全で安心でき、加えて効率のよい医療提供体制の確立が要求されています。

このために当部では病院情報システムを駆使して、病院内情報伝達交換を安全、円滑に行い、集積された医療情報および診療情報の分析で効率的病院経営に資する、そしてこれら情報の有効活用で臨床研究を推進し、次世代の医療人養成に役立てる活動を行っています。これらを実現するためには大学病院内の情報通信ネットワークの維持、使いやすく安定して稼動する病院情報システムが不可欠であり、費用対効果を重視した管理運営を目指しています。

また診療連携を推進し、地域における医療人育成、診療連携支援を目的とした地域医療ネットワークの構築と地域連携パスを活用した運営を目指しています。

業務領域

- ◎病院情報システムの構築、管理、運営
- ◎次世代電子カルテシステムの企画立案
- ◎地域医療情報システムの構築
- ◎医療人養成教育
- ◎経営分析、病院経営戦略立案
- ◎大学病院内ネットワーク構築、管理、運営
- ◎診療録管理、院内がん登録

■認定医・専門医・指導医等（専門分野の後に○数字で示しています。）

- ①日本医療情報学会会員・評議員
- ②日本医学教育学会会員
- ③日本神経学会会員・専門医・指導医
- ④日本東洋医学会会員
- ⑤日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- ⑥日本循環器学会認定循環器専門医
- ⑦日本高血圧学会認定専門医・認定指導医・特別正会員（FJSH）
- ⑧難病指定医
- ⑨日本禁煙学会禁煙認定指導医



専門分野：医療情報学、医学教育学、
神経内科学、東洋医学

①②③④

なかむら たいし
中村 太志

(副部長 医療情報医学分野准教授)

専門分野：医療情報学、循環器内科学

⑤⑥⑦⑧⑨

看護部

特徴・特色

看護部は、25の病棟と、外来、手術部、放射線部、検査部門、地域医療連携センター、がんセンター、治験支援センター、管理部門など院内ほとんどの部署に看護師・助産師を配置し、患者様やご家族の皆様にとって一番身近な援助者としての役割を担っています。看護部職員の役割は、高度な医療を支えるために安全で正しい知識や技術を習得し、患者やご家族の皆様に温かい思いやりのある看護ケアを提供することにあります。

看護部の理念

私たちは一人ひとりを尊重し、安全安心で信頼される看護に最善を尽くします

看護部の基本方針

- ・ 高度な医療安全管理体制による質の高い看護の実践
- ・ 患者の生活の視点に立った全人的看護の実践
- ・ 専門職として常に研鑽を重ね、仕事に自信と誇りを持った看護職の育成
- ・ 他職種と協働するチーム医療の推進と地域医療への貢献

2019年度看護部目標

- A. 安全安心で質の高い看護の提供
1. 理念に基づく看護の提供に向け、パートナーシップ・ナーシング・システムの精度を高める
 2. 患者の意向を尊重し、個別性に応じた看護過程を展開する
 3. リスクマネジメントの取り組みを強化する
 - 1) 職場コンプライアンスを高める
 - 2) 薬剤関連のインシデントが昨年より減少する
 - 3) 転倒・転落件数が前年度より減少する
 4. 多種職連携・協働を推進する
 5. 外来と病棟が連携し、効果的な入退院支援および療養支援を推進する
- B. クリニカルラダーシステムを活用した人材育成と自己啓発の推進
1. クリニカルラダー各レベルの取得目標値を定め、達成に向けて支援する
- C. 熊本大学病院の職員として、安全・安心を提供できる姿勢と態度を育成する
- D. 職務満足の高い、活気ある職場環境の整備と推進
1. 職員間の連携とコミュニケーションを強化し、部署の一体感を高める
 2. 働き方改革を推進する
- E. 病院経営への積極的参画
1. 効果的・効率的な病床管理を行う
 2. 看護が参画できる診療報酬算定に取り組む

2019年4月1日 看護部長 山本 治美

看護体制

7対1入院基本料を算定しています。

看護単位数は、外来・病棟・中央診療部門に30あります。病棟における看護提供方式は、患者様の入院から退院まで一人の看護職が継続的かつ主体的にケアを行うプライマリーナーシング方式をとっています。また平成26年度より全病棟でパートナーシップ・ナーシング・システム（以下 PNS）による看護提供を実施しています。PNS 導入により看護ケアの質向上、教育の充実、安全管理体制の強化等を図ることができています。





いまむら **今村かおる** (副看護部長)

総務担当

あさお ゆみ **浅尾 由美** (副看護部長)

教育担当

たきした ゆうこ **瀧下 裕子** (副看護部長)

業務担当

よしざと たかこ **吉里 孝子** (副看護部長)

質管理・地域医療連携担当

看護師長33名

副看護部長70名

看護師762名 (パート含)

助産師36名 (パート含)

保育士4名

看護助手3名

看護補助者21名 (直接雇用のみ)
(H31.4.1付)

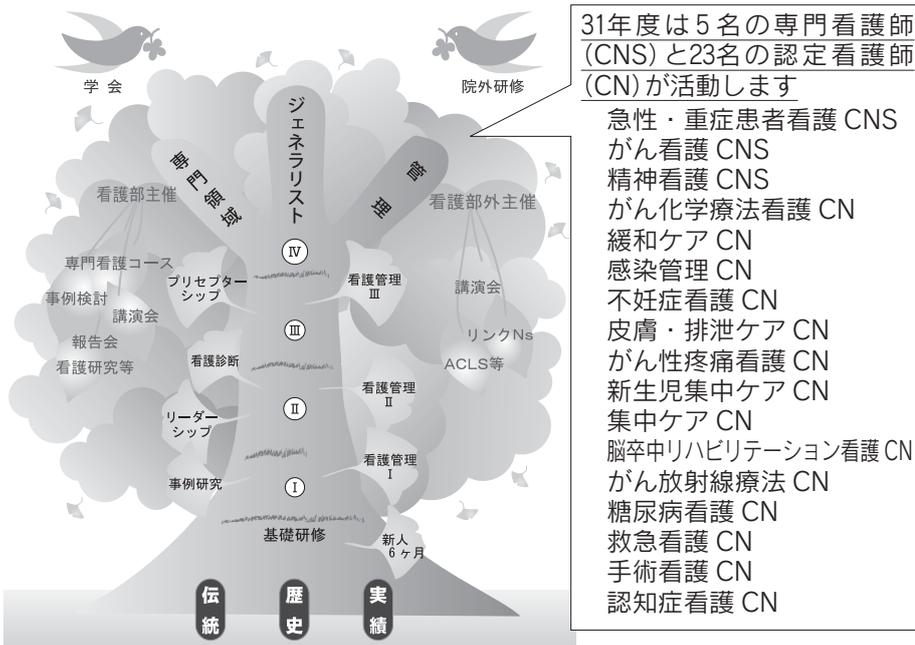
教育理念

特定機能病院として高度先進医療に対応できる専門的な看護と患者の満足と安全を提供できる看護者を育成します

教育基本方針

1. クリニカルラダーを用いて看護実践能力を高める
2. クリニカルラダーを用いてキャリア開発を支援する
3. 患者の自立を支援できる看護者を育成する

**キャリア開発概念図
クリニカルラダー**



【目標管理】

毎年、看護部の目標をもとに、5月に各部署目標、委員会目標を設定し、翌年3月に成果報告を行っています。

また、看護職員一人ひとりも年度ごとに目標を設定し、看護管理者との年2～3回の面接を通して、組織目標とキャリア開発目標の達成状況の確認と支援を受けます。



事例研究発表会

【院内教育】

より質の高い・安全な看護を実践するために基礎教育・クリニカルラダー別教育・管理者教育などのプログラムを年間50種類以上実施しています。

新人看護職員研修に関しては、公開研修として、他施設からの研修生も受け入れています。

【院外教育】

最新の知識・技術習得のために中央研修や学会に積極的に参加し発表しています。

【地域医療人育成】

「がん看護研修」は、平成21年度から熊本県がん診療連携拠点病院として専門・認定看護師が企画し、院外からも多くの研修生を受け入れています。

また回復期・慢性期病院、介護施設、訪問看護ステーション等の看護職を対象にした研修や訪問看護ステーション、介護施設の看護師からの相談システム、同行訪問、出張カンファレンスを実施しています。



新人シミュレーション教育

薬剤部

●部長 さいとう 齋藤 ひでゆき 秀之
(教授)

特徴・特色

薬剤部は、本院における医薬品の適正使用・安全管理を担う責任部門として機能しています。

患者さんに対して、より安全で有効な薬物療法を確実に提供するために、薬剤師は医師や看護師とは異なる薬学的視点に立ち、薬のスペシャリストとして専門職能を十分に発揮することが使命であると考えています。そのため、調剤・処方鑑査・医薬品管理・医薬品情報提供・薬物血中濃度モニタリング・処方設計・中心静脈用輸液（TPN）調製等の基盤業務と機能的に連携しながら、患者さんの目線に立ったベッドサイドでのきめ細やかな服薬サポートや薬歴管理、副作用チェック、さらにカンファレンスやミーティング等での医師・看護師等の医療スタッフへの情報提供を行っています。さらに、安全確保、感染対策および被曝防止といった観点から薬剤師の専門知識・技術が不可欠なサービス業務として、レジメンオーダーに基づく注射用抗がん剤の無菌調製業務も実施しています。外来化学療法センターにも薬剤師が常駐し、処方鑑査や抗がん剤治療支援等を行っている他、中央手術部においても手術で使用される医薬品の適正管理等の薬剤業務を行っています。

薬剤師一人ひとりが使命感を抱いて機動力を発揮することにより、患者さんからは勿論、医師や看護師、その他の医療スタッフからも「チーム医療を支え、医療安全を担うスタッフ」として認識・位置付けられることを目指しています。

また、薬剤部では、診療科との共同により薬物血中濃度モニタリングに基づく抗がん薬の個別投与設計法の確立や腎不全・尿毒症治療薬開発等に関する基礎・臨床研究にも取り組んでいます。さらに教育的立場から、薬学部生の実務実習指導を担当しており、資質の高い薬剤師の育成にも貢献しています。

業務領域

- ◎調剤業務（内用剤・外用剤および注射剤の処方鑑査・調剤等）
- ◎医薬品管理業務（医薬品在庫の適正管理等）
- ◎医薬品情報業務（医薬品情報の収集・評価・提供等）
- ◎薬剤管理指導業務（服薬指導・薬歴管理等）
- ◎病棟薬剤業務（持参薬確認・投薬状況の確認等）
- ◎製剤関連業務（院内製剤調製・注射用抗がん剤無菌調製等）
- ◎麻薬関連業務（麻薬管理・交付等）
- ◎薬物血中濃度モニタリング業務（投与設計等）
- ◎治験薬関連業務（治験薬管理・治験コーディネイト等）
- ◎医療安全支援業務（医薬品安全管理等）

■認定薬剤師・指導薬剤師等（専門分野の後ろに○数字で示しています。）

- ①日本医療薬学会認定薬剤師・指導薬剤師
- ②日本臨床化学会認定臨床化学者
- ③日本臨床薬理学会指導薬剤師
- ④緩和ケアチーム薬剤師
- ⑤NR・サプリメントアドバイザー
- ⑥日本医療薬学会認定薬剤師・がん指導薬剤師
- ⑦日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師
- ⑧日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師



専門分野：薬物動態、薬物毒性
①③

たなか 田中 じゅんこ 順子（副薬剤部長）

専門分野：調剤学、医薬品適正使用、緩和医療薬学
④⑤

まさ 政 けんご 賢悟（副薬剤部長）

専門分野：医療薬学
⑥⑦⑧

じょうの 城野 ひろふみ 博史（准教授・副薬剤部長）

専門分野：分子病態学、臨床薬理
②

医療の質・安全管理部

●部長 ちかもと **近本** あきら **亮**
(准教授)



ゼネラルリスクマネージャー

なかやま ひでき
中山 秀樹 (歯科口腔外科教授)

医療安全管理責任者
専門分野：歯科口腔外科

ふじすえこういちろう
藤末昂一郎 (助教)

ゼネラルリスクマネージャー

たぐちゆみこ
田口由美子 (副部長・看護師長)

ゼネラルリスクマネージャー

ほりえ みはる
堀江 美晴 (副看護師長)

ゼネラルリスクマネージャー

うえだ あさこ
上田 麻子 (副看護師長)

ゼネラルリスクマネージャー

まさ けんご
政 賢悟 (薬剤師・副薬剤部長)

ゼネラルリスクマネージャー

いちみなおこ
一美奈緒子 (特任助教)

臨床心理士

特徴・特色

近年、医療機関における医療事故の発生が社会問題としてメディアに取り上げられ、国民の関心が高まっています。本院においても、医療事故の防止に向けて日夜病院を挙げて取り組んでいます。特に大学病院においては、高度医療を提供する使命がある反面、医療経済の上から効率的な医療が求められていますが、まず、患者様の安全を第一に考え、患者様の視点に立った医療を心がける必要があります。

医療事故防止の基本的な考えとして「人は誰でも間違える」ということを常に念頭におき、エラーを起こさない医療環境を作ることが大切です。すでに起こったエラーについては、これを糧としてエラーを未然に防ぎ、より安全な医療システムを病院全体として確立することが重要です。このように、医療安全を基本として医療の質を総合的に高め、継続的に医療提供体制等の改善に取り組むことで、患者様と医療者が手を取り合い共に満足できる医療を目指しています。

業務領域

- (1) 医療の安全性の向上に係る方策の立案、推進及び検証に関すること
- (2) 安全管理に係る教育・研修に関すること
- (3) 医療事故及びインシデントの情報収集、原因の調査・分析に関すること
- (4) 医療事故等への対応に関すること
- (5) リスクマネージャーとの連絡調整に関すること
- (6) 医療安全管理マニュアルに関すること
- (7) 熊本大学病院医療安全管理委員会との連携
- (8) 高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等の提供の適否等に関すること
- (9) 職員のメンタルヘルスに関すること
- (10) 医療事故及び医療紛争の当事者及びその家族等の心理的支援に関すること
- (11) その他医療事故の防止、医療の質や安全性の向上等に関し必要な事項

平成14年度に医療安全管理部を設置しました。ゼネラルリスクマネージャー（以下「GRM」と略す）が、病院全体の事故防止・安全管理に従事し医療事故の防止、医療の安全性の向上及び安全管理に関する業務を行っています。平成27年度より医師 GRM の配置と看護師 GRM の増員、更に平成28年度より薬剤師 GRM を配置しました。平成29年度から、組織を改編し、臨床心理士が加わり医療の質・安全管理部となりました。平成30年度より医師 GRM を増員し多職種体制で安全・安心な医療の実施に努めています。平成31年4月に専従の医師が部長となり、医療安全管理責任者と連携して業務を統括しています。

◎ GRM の業務内容

- (1) 医療事故の防止対策に関すること
- (2) 重大事故又は部門を横断する医療事故発生時の対応と調整に関すること
- (3) 医療安全に関する教育啓発に関すること
- (4) 国立大学病院医療安全管理協議会に関すること

感染制御部

特徴・特色

医療関連感染対策は、安心・安全な医療を提供するために欠かすことのできない医療基盤のひとつです。医療関連感染とは、以前は院内感染といわれていましたが、外来治療、長期療養施設、在宅療養など、医療を受ける場所・機会の拡大に伴い、医療施設で起きるすべての感染を医療関連感染と表現するようになりました。特に当院のように高度な先進医療を行っている施設では、多くの患者さんが易感染状態となるため、医療関連感染をいかに防ぐかが治療の成否に関わってきます。そのためには衛生的な環境を整備し、手指衛生など一定のルールに基づいた感染防止対策を実行し、いったん感染症が発生しても院内に広がらないような最善策を講じるなどの対応が必要となります。このような体制を整備し、維持・発展させていくためには従来の組織では不十分となり、平成28年度より新たに感染制御部が発足しました。

感染制御部は、感染症や感染管理に関する専門的知識・資格および経験を有する医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師など多職種から構成され、下記に示すような業務を行っています。特に最近では、WHO（世界保健機構）や日本政府が進めている薬剤耐性対策アクションプランに対応するために、抗菌薬適正使用支援プログラム（Antimicrobial Stewardship Program）をスタートさせております。ASPは、主治医が抗菌薬を使用する際、最大限の治療効果を導くと同時に、有害事象をできるだけ最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了できる（最適化する）ように支援を行うことを目的として、抗菌薬使用に関する診療科からのコンサルテーションも積極的に受け入れるなど、感染症治療の支援を強化していきたいと考えます。

業務領域

- (1)医療関連感染対策の基本方針の立案に係ること。
- (2)医療関連感染対策の教育の立案と実践に係ること。
- (3)インфекションコントロールチームの業務に係ること。
- (4)医療関連感染対策の実施状況調査及び見直しに係ること。
- (5)医療関連感染対策や感染症治療へのコンサルテーションに係ること。
- (6)抗菌薬適正使用支援プログラム（Antimicrobial Stewardship Program）の構築と運用に係ること。
- (7)地域の他施設との医療関連感染対策に係ること。
- (8)職業感染対策に係ること。
- (9)ファシリティ・マネジメント（環境管理）に係ること。
- (10)その他医療関連感染対策に係る必要な事項。

●部長 の さか 野坂 き さと 生郷
(感染免疫診療部准教授)



専門分野：成人T細胞白血病、悪性リンパ腫、HTLV-I感染症、院内感染制御

な かつ 中田 ひろとも 浩智（講師）

専門分野：免疫不全、HIV感染症、感染症、院内感染制御

おかもと しんいちろう 岡本真一郎（助教）

専門分野：呼吸器内科、感染症、院内感染制御

かわの 河野 やわら 和（助教）

専門分野：多発性骨髄腫、形質細胞性疾患

まつだ きえこ 松田貴恵子（看護師長）

ふじもと ようこ 藤本 陽子（副看護師長）

感染管理認定看護師

てづか みな 手塚 美奈（副看護師長）

感染管理認定看護師

よしだ まゆみ 吉田真由美（看護師）

感染管理認定看護師

おだ かずたか 尾田 一貴（薬剤師）

感染制御専門薬剤師
抗菌化学療法認定薬剤師

かたの だともみ 片野田朋美（薬剤師）

感染制御認定薬剤師
抗菌化学療法認定薬剤師

やまもと けいいち 山本 景一（主任臨床検査技師）

感染制御認定臨床微生物検査技師

ふくしま りか 福嶋 理香（臨床検査技師）

まえだ 前田ひとみ（生命科学部保健学系教授）

感染防御看護学、インフェクションコントロールドクター

医療技術部

連絡先

TEL 096-373-5745

特徴・特色

医療技術部は、「業務の効率化と技術職員の資質の向上、及び病院の経営改善への積極的参画」を目的とし、平成18年4月に臨床検査技術部門と診療放射線技術部門の2部門で発足しました。

平成28年4月には、リハビリテーション技術部門、病理技術部門、ME 機器技術部門が加わり、現在、合計5部門で構成されています。主な職種は、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士および検査助手で、職員は、各中央診療施設（中央検査部、中央放射線部、リハビリテーション部、病理部、ME 機器センター、血液浄化療法部、中央手術部等）に配置され、それぞれの専門性を生かし日々の業務を遂行しています。

当部は、24時間体制で各診療科の日常業務から救急医療及び先進医療等の診療支援を推し進め、更なる医療サービスと医療技術の向上を図り、本院の診療・教育・研究を支援協力しています。また、各部門の仕事を十分に理解し交流を深め、共有化できる業務はできるだけ共有し、業務の効率を高めて参ります。今後も医療技術部の設置目的である本院における医療技術職員の教育活動を推進し、本院の理念と医療方針に基づく優れた医療人を育成する環境作りにも努めたいと考えます。

業務領域

【臨床検査技術部門】

中央検査部にて行う臨床検査業務全般を指し、検体検査と生体検査（生理機能）に2大別され、本院に於ける高度な診療・研究・教育を支援するための臨床検査部門です。業務内容は、日々のルーチン業務から先進医療に関する検査を、臨床検査専門医の指導の下で行っております。検体検査においては遺伝子検査が本院における先進医療の一翼を担い、遺伝子学的検査の中心的な役割も果たしております。一方、生理機能検査においては、脳神経及び呼吸器系は然ることながら、近年は超音波検査の技術レベルが向上し、特に心臓超音波検査（心エコー）は循環器専門医の指導の下、高度な技術を養い正確な診断に寄与しております。また、臨床検査技術部門は18年8月、ISO15189（臨床検査室要求事項）を認定取得し、迅速で精度が高く信頼性のある検査結果を報告しております。

【診療放射線技術部門】

中央放射線部にて行う診療放射線業務全般が業務領域となり、画像診断、核医学診断、放射線治療に大別されます。画像診断部門にはX線撮影、CT、MR、血管造影などがあり、画像診断・治療科医と共に正確で質の高い画像診断情報を各診療科（医師）に提供しています。放射線治療部門では放射線治療科医と共に腫瘍の治療を行い、手術や化学療法と共に本院での腫瘍治療の一翼を担っています。また、画像ネットワークの運用管理も行っています。放射線診療領域では、装置や検査（治療）法の進歩が目覚しく日進月歩の状況です。このために、常に高いレベルの検査と治療が実施でき各診療科のニーズに応えられるように努力しています。

【リハビリテーション技術部門】

リハビリテーション（以下リハ）部は本院において、リハ医学診療・治療を行う部門です。障害を有する患者様に対して医学的リハの専門知識・技術を用いて、自立した生活の獲得を目指しています。医学的リハは病院機能の役割分担の観点から、急性期リハ、回復期リハ、維持期リハに分けられますが、大学病院・特定機能病院である当院では、主に急性期リハの役割を担っています。当部門では、主に神経・筋・骨関節の疾患に基づく運動機能障害のある患者様を対象に医学的治療と同時に治療的訓練を行い、失われた機能の回復を促し、残存機能を最大限に引き出すための治療を行っています。すなわち障害を有する患者様すべてがリハ対象となり、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士などの専門職種によるチーム医療体制でアプローチしています。また、地域医療への貢献として、熊本リハビリテーション研究会を年3回開催し、毎回県内外から多くの発表者・参加者を迎え、リハ関連職種の研究発表・意見交換の場となっています。今後もこのような活動を継続し、質の高いリハ医療を提供したいと考えています。

【病理技術部門】

病理部にて行う病理検査業務が領域です。病理専門医の指示のもとに組織診断、細胞診断、術中迅速診断、剖検診断のための標本作製業務および細胞診のスクリーニングを行っています。組織診断では、患者様から採取した生検組織や手術で採取された組織、臓器の組織標本作製を行い、必要に応じて特殊染色や免疫染色、遺伝子検査を施行します。患者様の治療方針や予後判定のため、的確な病理組織診断を臨床各科に提供出来る様に、質の高い病理組織標本を迅速に作製しています。細胞診には、通常の細胞診と術中迅速細胞診、出張細胞診があります。全ての細胞診標本を細胞検査士がスクリーニングを行い、細胞診専門医と共に病理部全員で細胞診診断結果の検討を行い、的確な細胞診断を迅速に臨床各科に報告しています。出張細胞診は外来や細胞診検体採取現場に向き、診断可能な細胞採取が行われているかの判断を行います。細胞採取を臨床現場で行うことにより、迅速な治療方針決定や患者様の負担軽減に貢献しています。また、免疫染色や遺伝子検査、分子標的治療のコンパニオン診断、治験の標本作製なども行なっています。遺伝子診断や遺伝子研究、オーダーメイド医療実現のために、病理検体取り扱い指針（良好な遺伝子保存）の確立に努力しています。

【ME 機器技術部門】

ME 機器技術部門では臨床工学技士（CE）を中心に主に4つの部門に分かれて活動しています。CE は生命維持管理装置の操作・保守管理を主業務として昭和63年に誕生した新しい国家資格です。部門別の業務として、ME 機器センターでは医師の指示の下、人工呼吸器をはじめとした生命維持管理装置の操作や院内医療機器の保守管理、血液浄化・ICU 部門では多種類の血液浄化法や高気圧酸素治療などの臨床技術提供、手術室部門では人工心肺業務・内視鏡手術の立ち会い業務、循環器部門ではペースメーカーを含む不整脈治療ならびに心臓カテーテル検査業務を医師をはじめとしたチーム医療の中で行っています。また、本院では臨床工学技士の完全2交替制を実施し、24時間体制で、患者様の医療機器の安全使用を心がけています。そして、医療機器の正しい操作・知識を医療スタッフに伝えるべく、研修会を実施して医療安全の啓発に努力しています。我々（CE）は大学病院という最先端の医療技術に対応すべく、日々進化していく医療技術の中で使用する医療機器の安全使用を願い、自己研鑽しています。

は て むら ま さ ひ ろ
●部長 羽手村昌宏
診療放射線技術部門長
(診療放射線技師長)



専門分野：画像診断（X線撮影、CT、MR）、放射線管理、医療情報

こ だ ま さ と る
見玉了

リハビリテーション技術部門長
(療士長)

専門分野：呼吸リハ、肝移植・がん疾患、社会保障学

に し や ま な お こ
西山尚子

病理技術部門長（病理技師長）

専門分野：細胞診（婦人科、呼吸器、甲状腺、EUS-FNA）、病理検査の安全管理

お は ら だ い す け
小原大輔

ME 機器技術部門長（臨床工学技士長）

専門分野：体外循環、補助循環、手術室業務、心臓カテーテル業務

よ こ や ま と し ろ う
横山俊朗

臨床検査技術部門（臨床検査技師長）

専門分野：検査医学、病理細胞形態検査学

栄養管理部

●部長 ^{あらき えいいち}
荒木 栄一
(糖尿病・代謝・内分泌内科教授)



資格等 ③⑤

^{みしま ゆうこ}
三島 裕子 (副部長)



資格等 ①②④⑥⑨

^{ながせ ひろみ}
長瀬 博美 (副室長)

資格等 ①②④⑥⑧⑩

^{まえなか}
前中あおい (主任栄養士)

資格等 ①②④⑥⑦

^{ふきはら みほ}
吹原 美帆 (栄養士) (育休中)

資格等 ①②⑥⑧⑪

^{のぐち}
野口あかね (栄養士)

資格等 ①②⑪

^{とくのうか なこ}
得能香菜子 (栄養士)

資格等 ①②

^{つつみ ともこ}
堤 智子 (栄養士)

資格等 ①②

^{かじもと るな}
梶本 瑠那 (栄養士)

資格等 ①

^{ながた なお}
永田 菜緒 (栄養士)

資格等 ①

^{いはら としこ}
猪原 淑子 (栄養士)

資格等 ①②⑤⑥⑧⑪

^{おがた さやか}
緒方紗也加 (栄養士) (育休代替)

資格等 ①

調理師 6名

特徴・特色

昨今、患者の栄養管理が疾患の治療に重要であるという認識が高まっています。特に当院は特定機能病院としての位置づけから重症度の高い患者を受け入れており、高度な栄養治療部門と患者サービスおよび衛生管理を担うフードサービス部門を両輪としたマネジメントを実践することが求められています。栄養管理部栄養管理室は安全で満足度の高い治療食の提供はもとより、糖尿病療養指導士やNST 専門療法士等の専門資格を有した管理栄養士が、NST (栄養サポートチーム)、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームの一員として、医師を中心とし看護師等メディカルとともに各診療科に対し、診療における栄養管理の立場から活動を行っています。

また、高齢化や生活習慣病の増加に伴い、栄養食事指導を実施することで治療効果の向上、合併症の予防、栄養状態を改善し免疫力低下の防止、ひいてはQOLの改善を推進する観点から、病態栄養管理の専門家として医療現場において果たすべき役割が拡大しており、患者のみならず臨床栄養の教育的立場から地域大学生の臨地実習も担当しています。

業務領域

- ◎栄養管理計画
- ◎患者給食の調理および配膳
- ◎患者給食の衛生管理
- ◎患者給食の食数管理
- ◎献立作成および栄養価算定
- ◎調理材料の購入計画および検収
- ◎栄養食事指導
- ◎NST 回診

■資格等

- ①管理栄養士
- ②日本糖尿病療養指導士
- ③病態栄養専門医
- ④病態栄養認定管理栄養士
- ⑤NST コーディネーター
- ⑥NST 専門療法士
- ⑦医療事務技能審査2級メディカルクラーク
- ⑧がん病態栄養専門管理栄養士
- ⑨糖尿病病態栄養専門管理栄養士
- ⑩がん専門管理栄養士研修指導師
- ⑪病態栄養専門管理栄養士

先進医療

先進医療は、新しい医療技術の出現や医療に対するニーズの多様化に対応して、国が先進的な医療技術と一般の保険診療の併用を認める制度で、保険診療をベースとして、別に特別な料金を負担することにより、先進的な医療を受けやすくしようというものです。

本院では平成31年4月1日現在、次の2つの先進医療Aと6つの先進医療Bの承認を受けています。

先進医療A

「神経変性疾患の遺伝子診断」
中央検査部、神経内科（平成19.2.1承認）
連絡先 電話 096-373-5893

適応症

◎脊髄小脳変性症
（SCA1, 2, 3, 6, 歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症（DRPLA））

主な内容

脊髄小脳変性症は中年期以降、小脳、脊髄の変性により協調運動障害、歩行障害、言語障害などを起こす疾患群であり、さまざまな原因蛋白による遺伝性の脊髄小脳変性症の診断がつくようになってきました。当院検査部では、その中で特に頻度の多い上記5種類の疾患診断法を確立しました。

本診断法の確立により、これまで診断のつかなかった本疾患の診断がつくようになり、患者様にQOLの面から支援できるような体制ができつつあります。

「抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査」
脳神経外科（平成27.1.1承認）
連絡先 電話 096-373-5219

適応症

◎悪性脳腫瘍

主な内容

悪性脳腫瘍に対する科学療法は、患者様によって、また病気の進行度等によって抗がん剤への感受性が異なることがわかっています。本検査は手術によって摘出した腫瘍組織から、抗がん剤耐性遺伝子を測定し、その結果により、より感受性があると考えられる抗がん剤を選択することができます。また、感受性の少ない抗がん剤を用いないことで、不必要な副作用を避けることができます。この検査によって、適切な抗がん剤を用いることが可能なため、治療効果が高まることも期待されます。

先進医療B

「ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法」
呼吸器外科、呼吸器内科（平成24.4.1承認）
連絡先 電話 096-373-5012、5540

適応症

◎肺がん（扁平上皮肺がん及び小細胞がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る）

主な内容

この先進医療は、外科手術で切除された非扁平上皮非小細胞肺がんに対して、より優れた術後の補助的科学的療法の確立を目的として、ペメトレキセド+シスプラチン療法と、現在の標準治療であるビノレルビン+シスプラチン療法の比較検証を行います。ペメトレキセド+シスプラチン併用療法は、進行非扁平上

皮非小細胞肺癌に対する有効性、安全性が確立した治療であり、広く用いられています。しかしながら、術後の再発予防効果はまだ明らかになっておらず、術後の補助的科学的療法としての有用性が期待されています。

「放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後の
テモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法」
脳神経外科（平成27.3.1承認）
連絡先 電話 096-373-5219

適応症

◎初発の中枢神経系原発悪性リンパ腫（病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が脳、小脳または脳幹であるものに限る。）

主な内容

「中枢神経系原発悪性リンパ腫」とは、脳や脊髄などにできる悪性リンパ腫のことです。腫瘍が大きくなると、頭痛や意識障害、片まひ、複視（物が二重に見える）などの症状があらわれます。

標準的な治療は、抗がん剤のメトトレキサートの大量投与と、それに続く放射線治療ですが、2年生存率が62～69%であることから、より効果の高い治療法の開発が望まれています。

この先進医療は、初めて中枢神経系原発悪性リンパ腫を発症した患者様に対して、標準的な治療に、抗がん剤のテモゾロミドの内服投与を組み合わせるものです。メトトレキサートを大量に投与した後で、テモゾロミドの内服投与と放射線治療を併用し、さらに放射線治療終了後、治療効果を持続させるためにテモゾロミドの内服投与を行います。脳の血管には、血液中の有害な物質を脳の中に通さない「血液脳関門」という仕組みがありますが、テモゾロミドは血液脳関門を通過することができ、かつ、副作用も少ない薬です。

この治療により、頭痛や意識障害などの症状が緩和されるほか、生存期間の延長も期待されます。

「インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法」
血液内科（平成27.6.1承認）
連絡先 電話 096-373-5156

適応症

◎成人T細胞白血病リンパ腫（症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。）

主な内容

「成人T細胞白血病リンパ腫」は、ヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）に感染することで発症する血液のがんです。病態によって「急性型」「リンパ腫型」「慢性型」「くすぶり型」に分類されます。

この先進医療は、症候を有するくすぶり型、または予後不良因子を有さない慢性型の成人T細胞白血病リンパ腫の患者様に対して、インターフェロンαの皮下注射とジドブジンの内服投与を行います。インターフェロンαは、ウイルスや腫瘍細胞の繁殖を抑制する薬で、ジドブジンは抗ウイルス薬です。これらを併用することで、症状の緩和、急性転化の防止、生存の延長をもたらすことが期待されます。当初10日間の入院治療から行われ、以降は外来通院による治療が行われます。

「テモゾロミド用量強化療法」
脳神経外科（平成29.9.1承認）
連絡先 電話 096-373-5219

適応症

◎膠芽腫（初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。）

主な内容

この先進医療は、膠芽腫が再発または悪化した患者さんに対して、テモゾロミド用量強化療法を行うも

のです。

膠芽腫は、悪性脳腫瘍の中で最も悪性度の高い病気の一つです。手術、放射線療法、化学療法を組み合わせた治療が行われますが、多くは再発します。再発した場合には治療が非常に困難で、予後はよくありません。

化学療法では、初発時にテモゾロミド、再発時にはベバシズマブ（いずれも抗がん薬）を用いることが多いのですが、この先進医療では、再発時に、テモゾロミドを薬事承認された用量より多く投与します。欧米の研究では、再発時のテモゾロミド用量強化療法は、ベバシズマブ療法に匹敵する治療効果があることが報告されています。また、初回再発時に、ベバシズマブを用いる前にテモゾロミド用量強化療法を行うことで、初回再発後の生存期間の延長が期待できるという報告もあります。そのため、初めて再発した場合にはテモゾロミド用量強化療法を行い、その後、再発・悪化が見られたときにベバシズマブ療法を行うことで、再発膠芽腫の予後の改善につながると期待されています。

「水素ガス吸入療法」

救急総合診療部（平成30.1.1承認）

連絡先 電話 096-373-5169

適応症

◎心停止後症候群（院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。）

主な内容

この先進医療は、医療機関外で心停止となった成人患者さんのうち、自己心拍が再開したものの、昏睡が続く患者さんに対して、集中治療室で18時間にわたって2%の水素ガスを添加した酸素を人工呼吸器で吸入する療法です。

心停止後に蘇生術によって心拍が再開された後に起こる、脳や心臓の障害を心停止後症候群といいます。同症候群により、心拍が再開しても、脳神経系の回復は難しいケースが多いのが現状です。しかも、こうした患者さんの生存率などの改善に有効な治療法は低体温療法だけなうえ、実施できる医療機関は限られ、費用も高額になりがちでした。

水素ガス吸入療法は簡便にできるうえ、酸素に添加された水素ガスの抗酸化作用、抗炎症作用などにより、心停止後症候群に陥った患者さんの生存率や脳神経系障害の改善が期待されます。

「術後のカペシタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法」

消化器外科（平成30.3.30承認）

連絡先 電話 096-373-5213

適応症

◎小腸線がん（ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察および病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。）

主な内容

この先進医療は、小腸線がんの切除手術を受けた患者さんを対象に、カペシタピンという抗がん薬の内服投与と、同じく抗がん薬のオキサリプラチンの点滴による静脈内投与を併用する療法です。小腸線がんは、小腸の内壁のすぐ内側にできたがんのことです。

小腸線がんが患者数が少ない希少がんであり、治療の選択肢が限られており、現在は、切除可能であれば単独の切除手術が標準治療とみなされています。そのため、切除手術後に行う治療法の開発が求められています。また、切除できない小腸線がんにはカペシタピンとオキサリプラチンの併用療法が、すでに事実上の標準治療となっています。

小腸線がんの切除手術後に、服薬と点滴による抗がん薬の併用療法を加えることで、再発を抑えて延命効果を高めることが期待されます。

早期発見！ 早期治療！

こんな

症状

ドック・検診のススメ

ありませんか？

あなたの **健康生活** お手伝いします。



脳ドックをお勧めします



- 突然割れるような頭痛がする
- 朝起きてからすぐに吐き気がする
- 最近急に記憶力が低下した
- 両眼で見た時に、物が二重に見える
- まぶたが上がらない、顔面がびりびりと痛い
- 体が傾く、まっすぐに歩けない
- ぐるぐる回るようなめまい、物が飲み込みにくい
- 水を飲むとむせる、顔がゆがんでいる
- 急に気が遠くなることもある

- 変な臭いを感じることもある
- 手足の力が急に入りにくいことがある
- 視力が低下した、眼の奥が痛い
(などの症状がある方)
- ご家族(ご両親、ご兄弟)が脳卒中にかかった方
- 中・高齢者

※注意事項

脳ドックは、MRI 検査が主体となります。MRI 検査は強い磁石を使用しますので、次に該当する方は、検査を受けることができません。(禁忌)
心臓ペースメーカー、心臓人工弁、動脈瘤クリップ、人工内耳等 また、体の中に手術で金属(人工骨など)が入っている方、閉所恐怖症の方は、必ず前もってご相談ください。相談先：医療サービス課外来担当 096-373-5557



脳ドック

MRI, MRA検査

検査の流れ



MRI 撮影装置



頭部MRI断層像

※「脳ドック結果成績表」は後日送付となります。

アフターケア

- ◆ 検査の結果は、「結果成績表」を後日送付します。
- ◆ 検査結果により治療の必要のある場合には、当院で治療も可能です。
また、他の医療機関での治療を希望される場合はご紹介いたします。(紹介状作成は有料です。)

実施日・所要時間・料金

実施日 毎週火曜日・木曜日 午前(1日1名)

所要時間 約3時間30分(8時30分~12時)

料金 60,500円(消費税込み)

- ・ドック当日の朝食はとらないでください(お茶・水は可)
- ・常用薬がある場合は、担当医にご相談ください。

お申し込み方法

- ◆ 予約制になっていますので、電話にて外来予約センターへお申し込みください。
(予約の取り消し、変更をされる場合は検査日7日前までにご連絡ください。)
- ◆ 申し込まれた方には、必要な書類(「脳ドック問診票」等)を医療サービス課外来担当から事前にお送りしますので、ご記入の上、検査日にご持参ください。7日前までに届かなかった場合は、医療サービス課外来担当宛(096-373-5557)にお問い合わせください。

外来予約センター

- 業務時間 8:30~17:15
- 休診日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始
※FAX、E-mailは、常時受付をしています。

TEL : 096-373-5973 FAX : 096-373-5577
E-mail : yoyaku-center@jimu.kumamoto-u.ac.jp

セカンドオピニオン外来のご案内

熊本大学病院のセカンドオピニオン外来は、全診療科を対象として**完全予約制**になっています。
必ず予約の上、ご来院ください。（※原則当日対応はできません。）

セカンドオピニオン〔第2の意見〕外来の目的

熊本大学病院は、地域の開かれた病院として、患者様が受診中の医療機関の診断や治療方法について主治医以外の意見を提供し、地域医療連携に資するためにセカンドオピニオン外来を開設しています。
他の医療機関に受診中の患者様に対し、本院の専門医が治療法等の意見や診断を提供し、今後の治療に際しての参考にしていただくことを目的としています。

【新たな検査や治療を行うものではありません】

セカンドオピニオン外来の対象者

患者様本人または患者様の同意を得たご家族で、**現在受診中の医療機関（主治医に相談・了解が前提）からの診療情報提供書（紹介状）及び検査データ（レントゲンフィルム・MRI・CT等の画像、血液検査、心電図、病理検査等）をご用意いただける方**です。

なお、ご本人様には申込書を、ご家族のみの相談は、予め「セカンドオピニオン外来相談同意書」を送付しますので必要事項を記入の上、ご持参願います。

【料金は30分につき10,800円、30分増すごとに10,800円】※全額自費で保険適用はありません。

セカンドオピニオン外来の対象者とならない方

- ・ 最初から本院での治療・検査を希望される場合
- ・ 現在の主治医から紹介状・検査データがない場合
- ・ 現在の医療機関や主治医に対する不満や医療事故に関する相談
- ・ 医療費用の内容や医療給付に関する相談
- ・ 医療結果の評価に関する相談
- ・ 医療内容が当院の専門外である場合

セカンドオピニオン外来の申込み方法

完全予約制になっています。本院のセカンドオピニオン外来担当受付へお申込みください。
(FAXでお申し込みの場合は、次頁のFAX送付状をご利用ください。)

相談日時を担当医と調整のうえ、ご連絡いたします。この際、セカンドオピニオン外来申込書等を送付しますので、必要事項を記入のうえ、相談日にご持参ください。

【申し込みは、休日・祝日を除く月曜日から金曜日までの午前8：30～午後5：15までです。】

（問い合わせ・ご質問）地域医療連携センター TEL 096-373-5701、5934

FAX 096-373-5720

（相談日時の調整）外来担当 TEL 096-373-5557、5628 FAX 096-373-5719

その他

現在は、本院で受診中の患者様で、他の医療機関のセカンドオピニオンを希望される場合は、遠慮なく主治医にお申し出ください。

【本院のホームページに、セカンドオピニオン外来の流れを記載しています。】

ホームページアドレス <http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/>

熊本大学病院 セカンドオピニオン外来申込書

下記の内容に同意のうえ、以下の内容のとおり貴院のセカンドオピニオン外来相談を申し込みます。

記

- ①セカンドオピニオン以外の目的に使用しません。
- ②自由診療料金（全額自費）として定められた金額を支払います。
- ③私の主治医あての報告書が作成されることに同意します。
- ④説明の際に受領した資料を本院担当医師の許可なく第三者（紹介元医療機関を除く）へ提出しません。
- ⑤相談中に相談内容を録音しません。

患者様の	(ふりがな)			
	お名前・性別	様 (男・女)		
	生年月日 (年齢)	大正・昭和・平成・令和	年 月 日 (歳)	
	ご住所	〒 —		
ご相談者の	お名前・性別	様 (男・女)		
	生年月日 (年齢)	大正・昭和・平成・令和	年 月 日 (歳)	
	患者様との続柄			
	ご連絡先	住所	〒 —	
		TEL	()	
		FAX	()	
Eメール				
病名または症状 (分かる範囲でお書きください。)				
ご相談内容 (ご自由にお書き下さい。 用紙が不足する場合は、 別紙でも結構です。)				
現在かかられている医療 機関名・診療科の医師名	病 (医) 院名	科・医師名 (主治医)		
	所在地	TEL ()		

希望担当医師 無・有 (科 先生)

第1相談希望日 令和 年 月 日 ()

第2相談希望日 令和 年 月 日 ()

第3相談希望日 令和 年 月 日 ()

※可能な限り紹介状(写)を送付願います。
 ※この申込書に記入された個人情報は、本院のセカンドオピニオン
 外来に関する以外には使用しません。

熊本大学病院
 〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号
 地域医療連携センター
 TEL 096-373-5701、5934
 FAX 096-373-5720
 外来担当
 TEL 096-373-5557、5628
 FAX 096-373-5719

緩和ケアのご案内

熊本大学病院は、都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受けて、がん等の治療を積極的に行っています。また、がん等と診断された方には治療や療養以外にも日常生活における様々な心配事・不安があることが多く見られます。

緩和ケアチームは、治療中や治療後の療養における体の痛みや吐き気などの身体症状、不安な気持ちや気分の落ち込みなどのこころの症状、仕事の問題や費用のことなどの社会的な問題等について、患者様とご家族の生活の質を改善するために院内の多種職（医師等）が集まったチームです。

【主な活動内容】

- ・からだやこころの苦痛の緩和
- ・治療後の在宅療養のご相談
- ・医学教育・看護教育
- ・緩和ケアに係る地域の医療機関との連携・協力・情報交換
- ・ご家族へのサポート

【緩和ケアチームのメンバー】

- ・からだの痛みなどの症状を緩和する医師
- ・こころの症状（不安や気分の落ち込みなど）を緩和する医師
- ・緩和ケアの経験がある看護師
- ・薬に関する補足説明・助言を担当する薬剤師
- ・生活や費用の問題などについて相談を受ける MSW（社会福祉士）
- ・口腔ケアを担当する歯科衛生士
- ・患者様やその家族とのカウンセリングを担当する公認心理師
- ・食事に関する栄養指導を担当する管理栄養士

【緩和ケア実施要領等】

- (1) 患者様またはご家族からの要望を受けて主治医あるいは看護師から緩和ケアチームに「緩和ケア支援依頼書」が提出されます。
- (2) 依頼を受けた緩和ケアチームメンバーが患者様から症状やお話を伺い、ご希望に添ったケアについて検討します。
- (3) ケアの内容は、主治医や看護師とも相談して判断します。
- (4) 具体的な緩和ケアの内容は
 - ・痛みを止めるお薬の調整
 - ・こころの悩みを相談するカウンセリング
 - ・在宅医療の相談などがあります。
- (5) 直接お話をしたい方は緩和ケアセンター（外来棟2F）までご連絡下さい。また e-mail も可能です。
kanwa@jimu.kumamoto-u.ac.jp

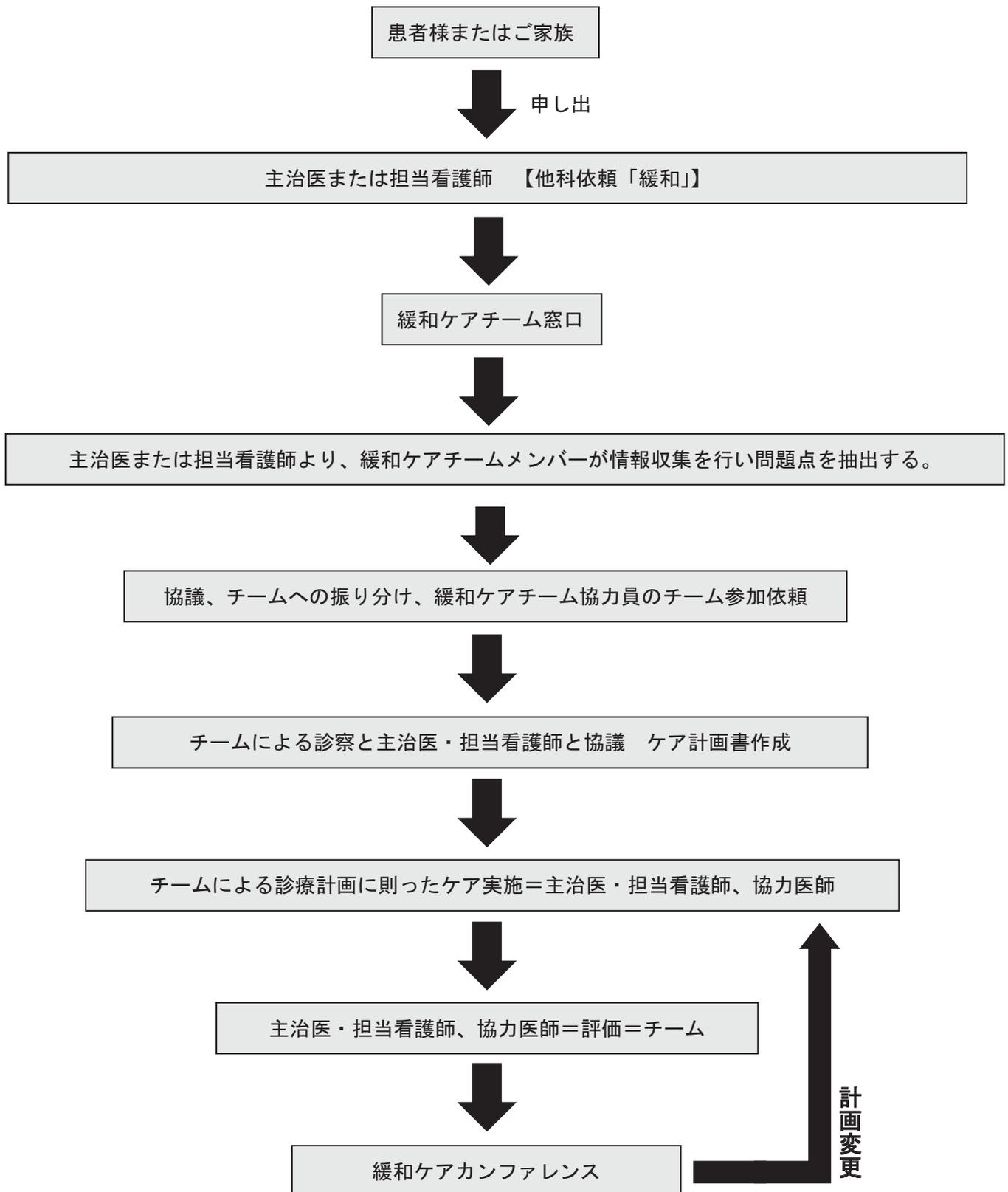
【緩和ケアをご希望の方あるいは、もっと知りたい方は】

主治医または看護師にご相談ください。

緩和ケアについて、詳しい説明を希望される場合は下記に連絡ください。

緩和ケアセンター【096-373-5637】月曜日～金曜日（8：30～17：15）（祝日・休診日を除く）
ホームページ <http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/palliativecare/>

緩和ケアチーム活動フロー図



禁煙外来のご案内

2010年3月から、保険適応による禁煙治療を開始いたしました。ニコチン依存症と診断され、一定条件を満たす対象者が、禁煙治療の保険適用医療機関で禁煙治療を受ける場合に保険適用されます。禁煙治療について説明を受け、治療を受け入れることを文章により同意することが必要です。

保険適用となるための一定条件とは？

以下の条件を全て満たす方が対象です。

1. ただちに禁煙したいと思っていること
2. 喫煙指数（ブリンクマン指数）
「1日の喫煙本数」×「喫煙年数」が200以上であること（35歳以上で適用）
3. 禁煙治療歴がない、または前回の治療から1年以上が経過している
4. ニコチン依存症のスクリーニングテスト（TDS）で、ニコチン依存症（5点以上）と診断されている

ニコチン依存症のスクリーニングテスト（TDS）

「はい」1点、「いいえ」0点とし、合計得点を計算します。TDS スコア（0～10点）が5点以上を、ニコチン依存症と診断します。

設問内容	
問01	自分が吸うつもりタバコの本数よりも、より多くの本数を吸ってしまうことがありましたか。
問02	禁煙や本数を減らそうと試みて、できなかったことがありましたか。
問03	禁煙したり本数を減らそうとした時に、タバコがほしくてほしくてたまらなくなることがありましたか。
問04	禁煙や本数を減らそうとした時に、次のどれかがありましたか。 イライラ、神経質、落ち着かない、集中しにくい、ゆううつ、頭痛、眠気、胃のむかつき、脈が遅い、手のふるえ、食欲または体重増加
問05	問04で伺った症状を消すために、またはタバコを吸い始めることがありましたか。
問06	重い病気にかかった時に、タバコは良くないとわかっているのに吸うことがありましたか。
問07	タバコのために自分に健康問題が起きているとわかっているのに、吸うことがありましたか。
問08	タバコのために自分に精神的問題（※注）が起きているとわかっているのに、吸うことがありましたか。 ※注：精神的問題／喫煙や本数を減らした時に出現する離脱症状（いわゆる禁断症状）ではなく、喫煙することによって神経質になったり、不安や抑うつなどの症状が出現している状態。
問09	自分はタバコに依存していると感じることがありましたか。
問10	タバコが吸えないような仕事や付き合いを避けることが何度かありましたか。

診療時間

月～金 14:00～15:00 (※要予約)

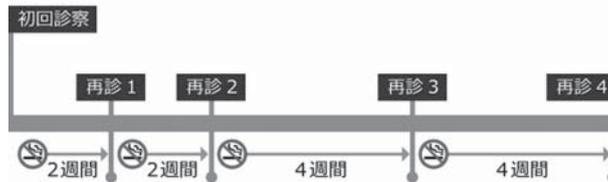
※ただし、祝日および当院の休診日は除きます。

- 受診曜日は基本的に固定で、初診日から3ヶ月間に合計5回受診して頂きます。
- 紹介状をお持ちでない方は、保険外併用療養費として別途5,400円をご負担いただきます。

診療場所：呼吸器内科 (外来診療棟2階Fブロック)

禁煙治療の流れ

標準禁煙治療のスケジュール



受診時期	治療内容
治療前の問診・診療	禁煙治療のための条件の確認
初回治療	1. 診 察
再診1 (2週間後)	2. 呼気一酸化炭素濃度の測定
再診2 (4週間後)	3. 禁煙実行、継続に向けてのアドバイス
再診3 (8週間後)	4. 禁煙補助薬の処方
再診4 (12週間後)	

禁煙外来 Q&A

Q1. どんな治療をしますか？

体に貼る薬か飲み薬を使って、禁煙が無事成功できるよう診察医・看護師がアドバイス等を行います。どちらの薬を使うかは、1回目の診察の際に主治医が決定します。但し、これまでに精神科や診療内科にかかれたことがある方は、禁煙の治療をされることによって精神状態が悪化する事もありますので、主治医と相談の上、受診してください。

Q2. 料金について教えてください。

保険診療か自費診療かで料金は異なります。料金は、使用する薬剤によって異なりますが、自費の場合4万円～6万円。保険診療の場合、1万5千円～2万円位です。保険診療で受診するためには、保険適用となるための一定条件がありますので、条件に合致するかの問診が必要となります。当院に通院されている場合は、受診の際に内科外来へお寄り下さい。

Q3. 他の診察と一緒に受診できますか？

保険診療と自費診療は同じ日には受診ができないため、他科で受診されることがある場合は、別の日を設定して通院して頂く必要があります。

連絡先等

096-373-5540 呼吸器内科 (外来診療棟2階Fブロック)

※受付時間：月～金 14:00～16:30。ただし、祝日および当院の休診日は除きます。

検査カフェ

熊本大学病院
中央検査部
検査カフェ

あなたの健康を気軽にチェック!!

受付時間 月曜～金曜 9:00～16:00

(予約不要)

結果は後日、郵送いたします。

健康チェックのための検査カフェ

～検査カフェへようこそ～



- 検査カフェでは血液中の物質や細胞の検査をおこないます。
- 健康な状態では血液中の物質や細胞は一定のバランスをとって存在しています。
- 病気が徐々に進行すると、血液中の物質や細胞のバランスが崩れて、異常値を示してきます。
- 自覚症状が無くとも、徐々に進行する病気があります。
- 健康状態の把握と病気の予防のためには、検査で自分の状態を知っておくことが有用です。
- 一度、血液の状態を調べてみてはいかがでしょうか。
- 当検査室は、国際標準化機構（ISO15189）の認定を受けている県下唯一の検査室です（H31.4.26現在）

検査カフェ ご利用方法

検査カフェ受診対象者は、原則20歳以上の成人の方を対象とさせていただきます。

ただし、風疹、麻疹、水痘、おたふくかぜ（ムンプス）の抗体検査については、医療系の学部で学ぶ学生さんが医療機関等での実習の際に、抗体価を提出することが求められたことに応じて検査する場合に限り、18歳以上の未成年も対象といたします。この場合でも可能な限り保護者（親権者ないし後見人）の同意を得ていただくようお願い致します。保護者が遠隔地で居住しているなどの理由により直接の同意が取得できない場合のみ、ご本人単独の同意であっても受け付けます。

- ① 検査カフェ券売機（中央診療棟3階 生理機能検査室受付）にて検査券をお求め下さい。
※25「がんが気になる方」をご希望される場合、注意事項をご確認の上、申込み後、チケットを購入していただきます。
- ② 生理機能検査室受付（303番窓口）で受付を済ませて下さい。
※免許証等で本人確認させていただきます
- ③ 検査カフェ申込書に必要事項を記入して下さい。
- ④ 採血コーナーへご案内いたします。
- ⑤ 採血後は、そのままお帰り下さい。
- ⑥ 1週間～2週間程度で検査結果を郵送にてお届けいたします。
※25「がんが気になる方」と、「将来の糖尿病と動脈硬化が気になる方」の検査結果は4週間程度要します。

※個人情報保護のため、電話による検査結果のお問い合わせは、お断りいたします。

検査カフェは血液の検査により健康状態を把握するもので、診断・治療を目的とするものではありません。

現在、当院を含め医療機関で診療を受けられている方は、お申し込みをご遠慮いただいております。

皆様のご理解をお願いいたします。

熊本大学病院中央検査部

熊本市中央区本荘1-1-1

電話 096 (373) 5694 (生理機能検査室)

受付時間 月曜～金曜9:00～16:00

お問い合わせは、受付時間内をお願いいたします。

詳しくは生理機能検査窓口担当にお問い合わせ下さい。

検査カフェのメニュー

★は「健康が気になる方」と重複している項目。

1. **健康が気になる方** … ￥2,300
TP、Alb、BUN、クレアチニン、尿酸、AST、ALT、LD、T-Bil、 γ -GT、HDL-C（善玉コレステロール）、LDL-C（悪玉コレステロール）、中性脂肪、血糖、ヘモグロビンA1c、CRP、血算（白血球数、赤血球数、ヘモグロビン、血小板数）
2. **血糖値が気になる方** … ￥800
★ヘモグロビンA1c、★血糖
3. **コレステロールが気になる方** … ￥600
★HDL-C、★LDL-C、★中性脂肪
4. **腎臓の状態が気になる方** … ￥900
尿定性、★BUN、★クレアチニン、★Na、★K、★Cl
5. **痛風が気になる方** … ￥500
★BUN、★クレアチニン、★尿酸
6. **貧血が気になる方** … ￥1,740
★血算、血清鉄、不飽和鉄結合能、フェリチン
7. **お酒の飲み過ぎが気になる方** … ￥1,100
アミラーゼ、ChE、★AST、★ALT、★ γ -GT
8. **スギ花粉症が気になる方** … ￥1,300
IgE（スギ花粉）
9. **よく発熱する方** … ￥1,000
SAA、★血算、★CRP
10. **前立腺が気になる方** … ￥1,600
PSA（前立腺特異抗原）
11. **肝障害が気になる方** … ￥4,100
HBs抗原、HBc抗体、HCV抗体、★AST、★ALT、★T-Bil、★ γ -GT、★血算
12. **甲状腺の状態が気になる方** … ￥4,200
TSH、f-T3、f-T4
13. **更年期障害が気になる方** … ￥3,400
エストラジオール、FSH
14. **心臓が気になる方** … ￥3,000
BNP、心電図
15. **生活習慣病が気になる方** … ￥1,700
★HDL-C、★LDL-C、★血糖、★中性脂肪、★ヘモグロビンA1c、★尿酸
16. **骨粗しょう症が気になる方** … ￥2,000
オステオカルシン（ucOC）
17. **血液型が知りたい方** … ￥600
ABO血液型、Rh血液型
18. **筋肉痛が気になる方** … ￥2,800
CK、ミオグロビン、SAA、★CRP、★血算
19. **麻疹が気になる方** … ￥2,500
麻疹ウイルス抗体（EIA法）
20. **風疹が気になる方** … ￥2,500
風疹ウイルス抗体（EIA法）
21. **水痘が気になる方** … ￥2,500
水痘ウイルス抗体（EIA法）
22. **おたふくかぜが気になる方** … ￥2,500
ムンプスウイルス抗体（EIA法）

23. **脳梗塞が気になる方** … ￥8,000
A6C
24. **脳梗塞・心筋梗塞が気になる方** … ￥10,100
LOX-index
25. **がんが気になる方（アミノインデックス）**
男性がんリスク検査 5種 … ￥21,800
（胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、膵臓がん）
女性がんリスク検査 6種 … ￥21,800
（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん、卵巣がん、膵臓がん）
26. **将来の糖尿病と動脈硬化が気になる方**
アンジオポエチン様因子同定（ANGPTL2） … ￥3,000

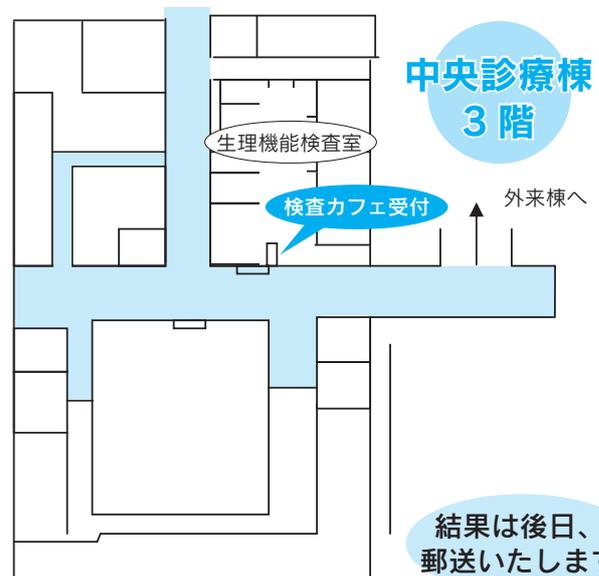
※「25. がんが気になる方」を受診される場合は、血液中のアミノ酸バランスに影響を与える恐れがありますので、受診前に下記の注意をお守り下さい。

- ・検査のための採血は、食事後8時間以上あけ、午前中（10時～12時）に受診してください。
- ・当日は絶飲食でお願いいたします。（飲食は前日24時まで済ませてください。水のみ当日飲んで大丈夫です）
- ・アミノ酸のサプリメント、アミノ酸含有スポーツ飲料、アミノ酸製剤、牛乳、ジュースなども食事と同様にお控えください。
- ・妊娠されている場合、AICS値に影響がありますので、検査は受けられません。

オプション項目

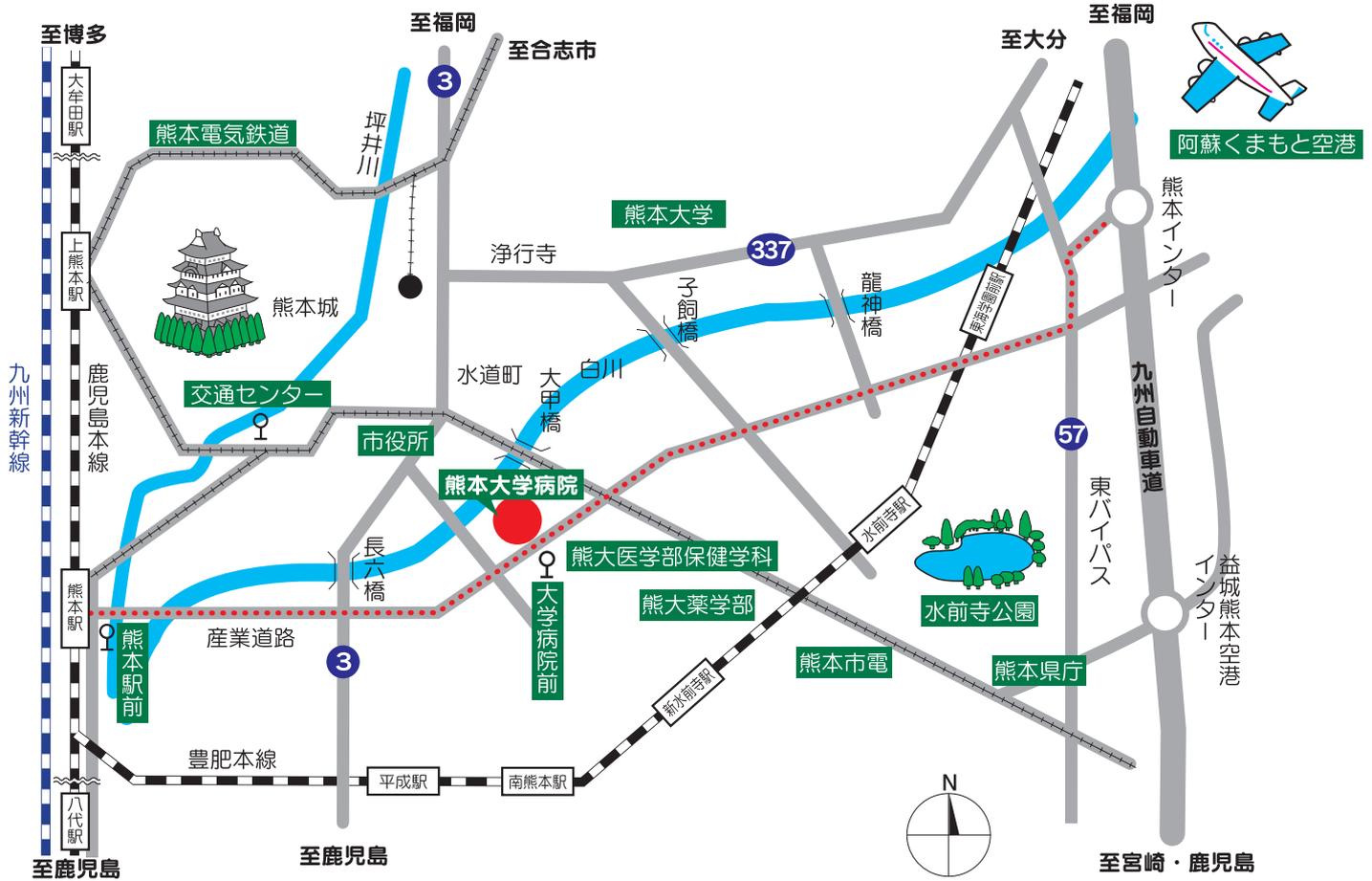
オプション項目のみのお求めはできません。

1. 鉄… ￥200
2. 不飽和鉄結合能… ￥200
3. 亜鉛… ￥1,600
4. 心電図… ￥1,500



所在地略図

ACCESS MAP



交通案内

ACCESS

- (1) 熊本駅前バス停から熊本都市バス第一環状線【駅2】、中央環状線【駅3】、熊本駅長嶺線【鹿3】又は、熊本駅県庁線【県4】に乗車、「大学病院前」下車(所要時間約15分)
- (2) 交通センターから熊本都市バス流通団地線【南4】又は八王寺環状線【南1】に乗車、「大学病院前」下車(所要時間約15分)
- (3) 九州自動車道熊本インター出口国道57号線を熊本駅方面(産業道路)へ右折(所要時間約30分)
- (4) 阿蘇くまもと空港からリムジンバス熊本交通センター行きに乗車(所要時間約50分)
「交通センター」下車上記(2)参照

 Kumamoto University

熊本大学病院

Kumamoto University Hospital

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号 TEL 096-344-2111(代表)

地域医療連携センター TEL 096-373-5701・5934 FAX 096-373-5720

ホームページ <http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp>